浦添市環境マップ

2016 年 3 月

浦添市市民部　環境保全課

はじめに

浦添市内は、住宅地や商業地が広がり、まとまった緑地が少なくなっています。しかし、全く自然が残されていないわけではありません。まだまだ私たちの暮らしている場所のすぐ近くに、森や川、動物や植物などが残されています。これらは浦添市本来の自然であり、地域の貴重な財産です。

自然の残された見どころ

自然の残された見どころとして牧港川、シリン川、浦添大公園、浦添城跡、小湾川、内間西公園、クニンドーの森公園などを取り上げてご紹介します。

てだこ環境調査団（市民による環境調査）

浦添市民が中心となって環境調査を行い、市民が調査地域の環境を把握するとともに、浦添市の環境情報を充実させることを目標として、平成 17 年、18 年、25 年および 27 年に「てだこ環境調査団」が結成されました。この「浦添市環境マップ」も、てだこ環境調査団の活動で充実させていきます。

浦添市生きもの図鑑

市内で見られる生きものを紹介します。浦添市には、どんな生きものが棲んでいるのでしょうか？！　見てみましょう。

目次

自然の残された見どころ
1. シリン川の環境
環境案内・・・・4
カニのいろいろ・・・・7
2. 浦添大公園の環境
環境案内・・・・10
カタツムリのいろいろ・・・・13
3. 図書館周辺の環境
環境案内・・・・16
夜に見られる生き物・・・・17
4. 社会福祉センター周辺の環境
環境案内・・・・20
夜に見られる生き物・・・・22
5. 浦添城跡周辺の環境
環境案内・・・・25
夜に見られる生き物・・・・27
6. 小湾川の環境
環境案内（上流）・・・・30
環境案内（中流）・・・・33
環境案内（下流）・・・・37
ホタルについて・・・・41
通し回遊ってなあに・・・・43
干潟の水鳥を見てみよう・・・・44
水鳥のくちばしを見てみよう・・・・45
7. 内間西公園の環境
環境案内・・・・46
8. 空寿崎の環境
環境案内・・・・51
磯の生き物たち・・・・55
海辺の鳥たち・・・・58
海の危険生物・・・・61
9. 牧港川の環境
環境案内・・・・64
牧港川にすむ生きものたち・・・・67
牧港川でみられた外来種・・・・69
10. クニンドーの森公園の環境
環境案内・・・・72
アカギ巨木の森・・・・75
微小なカタツムリの世界・・・・77
11. 伊祖公園の環境
環境案内・・・・80

目次

てだこ環境調査団

第 1 期調査団

調査概要・・・84

植物の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86

陸域動物の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87

水性生物の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88

水質の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・89

騒音・景観・ゴミの調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・90

第 2 期調査団

調査概要・・・94

環境区分・植物の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・95

陸域動物の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96

水性生物の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97

水質の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98

騒音の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99

第 3 期調査団

調査概要・・100

水質について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103

水生生物による水質判定について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105

植物について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107

景観について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・110

騒音について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・111

陸域動物の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・112

第 4 期調査団

調査概要・・117

伊祖公園の森林樹木～石灰岩域の森林～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・119

伊祖公園の昆虫調査～分類学的視点で行う昆虫採集～・・・・・・・・・・・・・・119

浦添市生き物図鑑

50 音順別(520 種類)

植物(193 種類)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・124

哺乳類(4 種類)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・158

鳥類(46 種類)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・160

爬虫類(13 種類)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・170

両生類(5 種類)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174

昆虫類(103 種類)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・176

陸生貝類(12 種類)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・196

魚類(45 種類)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・200

甲殻類(47 種類)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・210

水性貝類(33 種類)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・220

その他(19 種類)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・228

自然の残された見どころ

自然の残された見どころ

1. シリン川

キャンプキンザー入口周辺で す。川沿いに緑地が残されており、河口の潮間帯にはたくさんのカニが生息しています。

2. 浦添大公園

市内で最もまとまった緑地が残 されているエリアです。また歩道も整備されており、気軽に自然を楽しめる場所です。

3. 市立図書館周辺

市立図書館の裏手の緑地と脇を 流れる河川を紹介します。

4. 浦添市社会福祉センター周辺

社会福祉センター前の緑地を紹介します。

自然の残された見どころ

5. 浦添城跡周辺

浦添小学校の裏手を紹介します。周囲は住宅地や学校、墓地となっています。

6. 小湾川の環境

茶山団地の裏手あたりを紹介し ます。周囲は、森や耕作地となっています。

7. 内間西公園

那覇市と浦添市の境に位置して います。小規模な森や林と芝生の広場があります。また、公園から安謝川河岸に階段で下りることができます。

8 空寿崎

空寿崎は、浦添市内で唯一残さ れた自然海岸です。砂浜から、沖合に向かってイノー(礁池)が続いており、多様な生物を観察することができます。

9. 牧港川中～下流域

浦西中学校近くの陽迎橋から、国道 58 号線近くの牧港第二橋までの間をご紹介します。

10. クニンドーの森公園周辺

沢岻にあるクニンドーの森公園 とその周辺緑地、および沢岻前川をご紹介します。

11. 伊祖公園

伊祖にある伊祖公園(伊祖城跡)をご紹介します。

自然の残された見どころ

1.シリン川の環境

シリン川は、雨水排水路として上流部は街中の暗渠（ふた付き水路）となっています。
途中から地表に現れ、港川にて海へ流れ出る比較的短い河川となっています。

シリン川が地表に現れる中流域は城間を通過する国道58号線のすぐ西側に位置し、河川周辺の斜面には岸辺に至るまで一面に植物が生い茂り、市内でも大規模に緑地の残っている地域です。

一方、汽水域である下流域は河口に至るまで両岸がコンクリートで護岸され、河川周辺にも緑地は少なくなります。

▲中流域の58号線付近

▲中流域

▲下流域

環境案内

自然観察に行くときの見どころ案内です。シリン川の河口域は、直線上で起伏のない護岸のため、単調で貧相な生きものの生息環境に見えます。しかし、護岸ブロックの隙間や、小規模ながら干潮時に現れる干潟には、意外に多くの生きものが棲んでいます。どんな生きものが棲んでいるのか、見てみましょう。

自然の残された見どころ

シリン川の環境

～環境案内～

シリン川の環境案内

シリン川の河口域は護岸整備がされていますが、様々な環境に適応している生き物の姿を見ることが出来ます。

自然の残された見どころ

シリン川の環境

～環境案内～

コンクリート護岸

コンクリー護岸にくっついている巻貝やフナムシ、カニなどが見られます。

ヒメウズラタマキビ

リュウキュウフナムシ

ヒルギハシリイワガニ

オオイワガニ

礫の転がる砂泥底

礫の下の砂泥の中にシオマネキが棲んでいます。割と締まった砂泥を好むツノメチゴガニも見られます。

ヒメシオマネキ

オキナワハクセンシオマキ

カノコセビロガミ

ツノメチゴガニ

河川

水中では、ボラなどの魚が棲み、水中や水辺ではカノコガイやミナミベニツケガニなどがみられます。

ボラ

カワヨウジ

ギンガメアジ

ナイルテラピア

自然の残された見どころ

シリン川の環境

～環境案内～

オキナワフグ

クロコハゼ

カノコガイ

ミナミベニツケガニ

かにのいろいろ

カニを見つけよう

シリン川にはにはたくさんの種類のカニが見られます。どんなカニがいるのでしょうか。
加工から上流へ順番にみてみましょう。

●河口の潮間帯で見られるカニ

ヒメシオマネキ

オキナワハクセンシオマネキ

ツノメチゴガニ

シオマネキの仲間やツノメチゴガニは、干潟の泥や砂に穴を掘って、その中で暮らしています。人の気配を感じるとすぐに穴の中に隠れてしまいます。しばらく動かずにいると、巣穴から出てきます。そーっと観察しましょう。

自然の残された見どころ

シリン川の環境

～かにのいろいろ～

●河口の川の中で見られるカニ

ノコギリガザミ

ミナミベニツケガニ

岩の下や砂の中など、常に水の中で生活するカニで、夜になると活発に動き回ります。4番目の足（第4歩脚）が平たくなっており、泳ぐのに適した形をしています。　ノコギリガザミのハサミは強力で大変危険です。十分注意しましょう。

●河口の石の下で見られるカニ

カノコセビロガニ

石の下や隙間に棲んでいるので、潮が引いたときに石をひっくり返したり、護岸の隙間を注意深く覗くと見つけることが出来ます。甲の模様が鹿の子（カノコ）のような白い斑点であることから、この名前がついています。

自然の残された見どころ

シリン川の環境

～かにのいろいろ～

●川の下流の岸際で見られるカニ

クロベンケイガニ

ベンケイガニ

岸際の土手や草むらに穴を掘って生活しており、陸上でも見られます。夜になると活発に動き回って餌を探します。クロベンケイガニは体色が暗緑色で、ベンケイガニより足にたくさん毛が生えていることで区別できます。ベンケイガニはオレンジがかった赤い色をしています。

●中上流の川の中で見られるカニ

モクズガニ

昼間は川の石の下にじっとしていますが、夜になると這い出してきて、盛んに餌を探し回ります。ハサミに毛が生えているのが特徴です。

自然の残された見どころ

浦添大公園の環境

浦添大公園は、浦添市の北東部の宜野湾市と隣接した場所に位置する広大な公園です。公園敷地の大部分が緑地に覆われ、市内で最大規模の森林環境が残っている地域です。また西原町より流下する牧港川が、公園内を縦断しています。

▲浦添大公園

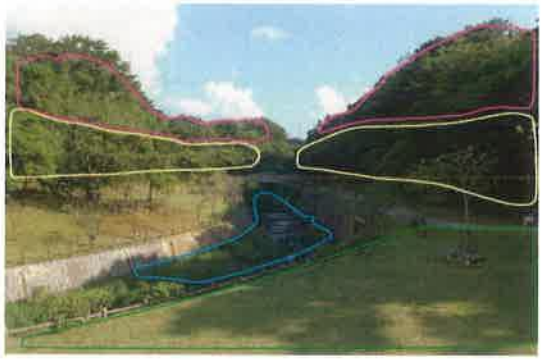
▲浦添大公園の森林環境

▲浦添大公園を横切る牧港川

環境案内

自然観察に行くときの見どころ案内です。浦添大公園の中を流れる川沿いの環境を見てみましょう。

沖縄県は陸貝（カタツムリ）類の種数がとても多く、県内でしかみられない種類がたくさんいます。浦添大公園ではそのうちの 13 種をみることができます。雨の降った後の公園で探してみてください。 また、浦添大公園には多くの自然林が残っており、河川沿いや森林、草地といった様々な環境でたくさんの野鳥を観察することができます。 森の中と水辺など環境の異なるところでは見られるカタツムリや野鳥の種類も違う場合もあります。



自然の残された見どころ

浦添大公園の環境

森林でみられる鳥類

他にも上空を飛ぶサシバの鳴き声を聞くこともあります。

キジバト

リュウキュウサンショウクイ

シロガシラ

シジュウカラ

メジロ

ヒヨドリ

森林でみられるカタツムリ

オキナワヤマタニシ

オオカサマイマイ

シュリマイマイ

オキナワウスカワマイマイ

アフリカマイマイ

自然の残された見どころ

浦添大公園の環境

林縁でみられるカタツムリ（陸貝類）

アオミオカタニシ

アフリカマイマイ

シュリマイマイ

オキナワヤマタニシ

草地でみられる鳥類

キジバト

シロガシラ

イソヒヨドリ

川沿いでみられる鳥類

ササゴイ

バン

イソシギ

キセキレイ

自然の残された見どころ

浦添大公園の環境

～かたつむりのいろいろ～

家の周りで見かけるカタツムリ。浦添大公園のように自然がたくさん残っているところでは、いろいろな種類のカタツムリが棲んでいます。どんなカタツムリがいるのか、見てみましょう。

家の周りや道路脇など、身近なところで目にするカタツムリ。森や公園などへ探しに行くと、もっと違った形や色のカタツムリが見られます。もっと詳しく観察してみましょう。

人家の周りでよく見られる
オキナワウスカワマイマイ

浦添市で大規模な緑地が残っている浦添大公園では、いろいろな種類のカタツムリが見られます。カタツムリの仲間は乾燥に弱いので、森や林など湿度が高いじめじめとした場所にたくさん棲んでいます。 どんなカタツムリが見つかるかな？

【 殻の形 】

平たい殻が特徴的な
オオカサマイマイ

尖った大きな殻をもつアフリカマイマイ

ヤマタニシノの仲間はフタを持っている
(写真はオキナワヤマタニシ)

唐を持たないカタツムリの仲間(写真は、ナメクジ)

自然の残された見どころ

浦添大公園の環境

～かたつむりのいろいろ～

【殻の色・模様】

緑色の身体が透明の殻に透けて見えるアオミオカタニシ

茶色に黒い帯模様の入っているシュリマイマイ

【ホタルとの関係・・・沖縄のホタルについて】

有名なゲンジボタルやヘイケボタルなど本土にいるホタルの幼虫は水中に棲み、カワニナなどの貝を食べて生活しています。しかし、沖縄島にいるホタルの幼虫は陸上に棲み、カタツムリ類を食べて生活しています。　カタツムリ類の多い浦添大公園ではオキナワマドボタルがよく見られます。幼虫はカタツムリ類を食べる肉食性ですが、成虫になるとほとんど餌を食べることなく、交尾をして死んでしまうそうです。幼虫は一年中見ることができますが、成虫は４月～５月にかけて現れます。

オキナワマドボタルの幼虫

カタツムリを襲うオキナワマドボタルの幼虫

自然の残された見どころ

浦添大公園の環境

～かたつむりのいろいろ～

【カタツムリ類をうまく観察するコツ】

カタツムリの仲間は、温度と湿度が高いと活発に活動します。暖かい時期の雨上がりなどに公園へ行けば、たくさんのカタツムリを見られると思います。　また植物の葉上、樹幹、林床などを探すと見つかりやすいです。

【観察の注意点】

なるべく直接手を触れないように心掛けましょう。カタツムリには「**広東住血線虫**」という寄生虫がいる場合があります。あやまって口などから体内に入り込むと、人体に悪い影響を及ぼし、危険です。触った場合には、よく手を洗いましょう。

自然の残された見どころ

図書館周辺の環境

浦添市立図書館の裏には住宅地としては比較的規模の大きな緑地が残されており、緑地の脇には、石積み護岸や、河床に自然石を埋め込むなど生き物の生活場所に配慮された河川が流れています。河川にはテナガエビの仲間やモクズガニ等が生息し、道路からも簡単にのぞき込めるため、身近に自然を感じることの出来る環境になっています。また、畑地も多く小鳥やチョウ、トンボ等が飛び交っているのが観察できます。

図書館の裏▼

▲林の中の様子

▲図書館脇の河川

自然の残された見どころ

図書館周辺の環境

～夜にみられる生き物たち～

夜に見られる生き物たち

森林や草地にすむ生き物は、夜にはどうしているのでしょうか。夜の生き物の姿を見てみましょう。

枝にぶら下がっているオリイオオコウモリ

オオコウモリは、夜間に、果実などを食べます。また時折 ″キーキー　キャーキャー″と高い声で鳴きます。昼間は、木の枝などで休んでいます。

木の幹で活動するミナミヤモリ

ヤモリの仲間は、夜間に、活発に動き回って、小さな昆虫などを捕まえて食べます。昼間は、樹皮の裏などの物陰に隠れています。

木の枝に留まって鳴くシロアゴガエル

カエルの仲間は、昼間も活動しますが、夜間にはより活発に動き回ります。繁殖時期にはたくさんの個体が水辺に集まり、大合唱となります。シロアゴガエルは″グィッ″と鳴きます。

葉の上に出てきたアミメヒラタゴキブリ

ゴキブリの仲間は、夜間、主に食べ物を探すために動き回ります。昼間は、葉の裏などの物陰に隠れています。

自然の残された見どころ

図書館周辺の環境

～夜にみられる生き物たち～

木の上に出てきたタイワンウマオイ

ウマオイの仲間は、夜間に、ほかの昆虫などを捕まえて食べたり、″スイチョ　スイチョ″と鳴いたりします。

葉の上に出てきたタイワンクツワムシ

タイワンクツワムシは、夜間に活動する大型のバッタで、″ギュルルルル･･････″と大変けたたましく鳴きます。

羽化するクマゼミ

セミの幼虫は、夜間に、土の中から出てきて、木の幹などにつかまり、羽化し、成虫になります。

果実に飛来したオオルリオビクチバ

多くのガの仲間は、夜間に、花の蜜や樹液などを訪れ、吸汁します。昼間は、葉の裏などの物陰に隠れています。

自然の残された見どころ

図書館周辺の環境

～昼行性の動物～

昼に活動をする動物の夜の姿を紹介します。

枝で休むキジバト

昼間に活動する鳥は、夜間に、木の枝などで休みます。キジバトは写真のように、木にとまって休みます。

枝の先で休むカトリヤンマ

トンボの仲間は、夜間に休みます。休む場所や休む姿は種類によってまちまちで、カトリヤンマの場合、枝の先にぶら下がって休みます。

自然の残された見どころ

社会福祉センター周辺の環境

浦添市社会福祉センター、てだこホール及び運動公園（運動公園通り）に囲まれた地域には、緑豊かな森林が残っており、浦添市の文化施設に隣接している緑地となっています。緑地の林縁部は、社会福祉センター・てだこホールの脇やその駐車場に面しているため、簡単に動植物に触れ合うことが出来ます。早朝にはヒヨドリやメジロなどの野鳥が見られ、昼間、暑くなってくるとハチやチョウなどの昆虫が飛び交います。

▲てだこホールの前

▲全体像

▲林の中の様子

生きものの種類

どんな生きものがいるのか見てみましょう。

コスナビ

カタバミ

ヤナギバルイラソウ

自然の残された見どころ

社会福祉センター周辺の環境

社会福祉センターの周辺で見られる植物

ニチニチソウ

サンゴアブラギリ

アメリカハマグルマ

社会福祉センターの周辺で見られる動物

シロガシラ

ホオグロヤモリ

シロアゴガエル

チョウセンカマキリ

オオシオカラトンボ

アオスジアゲハ

キチョウ

ウスイロコノハチョウ

ナガサキアゲハ

自然の残された見どころ

社会福祉センター周辺の環境

夜に見られる生き物たち

森林や草地にすむ生き物は、夜にはどうしているのでしょうか。夜の生き物の姿を見てみましょう。

木の枝で休んでいるハブ

ハブは昼間にも活動しますが、夜にも活動します。また、地面にも、木の上にもいることがあります。ネズミなどの小動物を捕まえて食べます。

民家の壁で活動するホオグロヤモリ

ヤモリの仲間は、夜間に、活発に動き回って、小さな昆虫などを捕まえて食べます。昼間は物陰に隠れています。

木の葉に留まっているヒメアマガエル

カエルの仲間は、昼間も活動しますが、夜間にはより活発に動き回ります。繁殖時期にはたくさんの個体が水辺に集まり、大合唱となります。ヒメアマガエルは"ギーコ、ギーコ"と鳴きます。

地面を徘徊するサツマゴキブリ

ゴキブリの仲間は、夜間、主に食べ物を探すために動き回ります。昼間は、樹皮のすき間などの物陰に隠れています。

自然の残された見どころ

社会福祉センター周辺の環境

～夜にみられる生き物たち～

枝の上で鳴いているタイワンウマオイ

ウマオイの仲間は、夜間に、ほかの昆虫などを捕まえて食べたり、"スイチョ　スイチョ"と鳴いたりします。

葉の上に出てきたタイワンクツワムシ

タイワンクツワムシは、夜間に活動する大型のバッタで、"ギュルルルル・・・・・・・"と大変けたたましく鳴きます。

羽化するクマゼミ

セミの幼虫は、夜間に、土の中から出てきて、木の幹などにつかまり、羽化し、成虫になります。

果実に飛来したキオビアシブトクチ

多くのガの仲間は、夜間に、花の蜜や樹液などを訪れ、吸汁します。昼間は、葉の裏などの物陰に隠れています。

自然の残された見どころ

社会福祉センター周辺の環境

～昼行性の動物～

昼に活動をする動物の夜の姿を紹介します。

枝で休むメジロ

昼間に活動する鳥は、夜間に、木の枝などで休みます。メジロは写真のように、2羽で寄り添うように休んでいる姿がよくみられます。

枝の先で休むツマグロヒョウモン

チョウの仲間は、夜間に休みます。休む場所や休む姿は種類によってまちまちで、ツマグロヒョウモンの場合、葉の裏などに逆さになって休みます。

自然の残された見どころ

浦添城跡周辺の環境

浦添城跡は、浦添市仲間から前田にかけての丘陵地帯に位置し、浦添小学校や浦添警察署の裏手に見える丘にあります。その敷地のほとんどは森林に覆われ、自然豊かな緑地となっています。浦添大公園および浦添墓地公園から連続しているこの緑地は、浦添市内でも最も規模の大きい緑地の一つであり、多くの自然環境が残されている地域です。案内看板や遊歩道などが整備された緑地公園となっているため、安全に散策することができ、森林や草地ではさまざまな鳥類や昆虫類を観察することができます。

▲浦添城跡の中

▲ディーグガマ

▲林の中の様子

自然の残された見どころ

浦添城跡周辺の環境

浦添城跡の周辺で見られる植物

トウバナ

ホラカグマ

リュウキュウマメヅタ

浦添城跡の周辺で見られる動物

サシバ

リュウキュウアオバズク

リュウキュウコゲラ

リュウキュウサンショウクイ

コサメビタキ

オキナワアオガエル

シロオビアゲハ

クロマダラソテツシジミ

キマエコノハ

自然の残された見どころ

浦添城跡周辺の環境

～夜にみられる生き物たち～

夜に見られる生き物たち

森林や草地にすむ生き物は、夜にはどうしているのでしょうか。夜の生き物の姿を見てみましょう。

枝にぶら下がっているオリイオオコウモリ

オオコウモリは、夜間に、果実などを食べます。また時折 ″キーキー　キャーキャー″と高い声で鳴きます。昼間は、木の枝などで休んでいます。

枝に留まっているリュウキュウアオバズ

フクロウの仲間のアオバズクは、夜間に、餌を捕まえて食べたり、″ホウホウ、ホウホウ″と鳴いたりします。昼間は、樹洞の中などで休んでいます。

木の枝で休んでいるハブ

ハブは昼間にも活動しますが、夜にも活動します。また、地面にも、木の上にもいることがあります。ネズミなどの小動物を捕まえて食べます。

木の幹で活動するミナミヤモリ

ヤモリの仲間は、夜間に、活発に動き回って、小さな昆虫などを捕まえて食べます。昼間は、樹皮の裏などの物陰に隠れています。

自然の残された見どころ

浦添城跡周辺の環境

～夜にみられる生き物たち～

木の枝にとまっているオキナワアオガエル

カエルの仲間は、昼間も活動しますが、夜間にはより活発に動き回ります。繁殖時期にはたくさんの個体が水辺に集まり、大合唱となります。オキナワアオガエルは"リリリ・・・"と鳴きます。

葉の上に出てきたコバネコロギス

コロギスの仲間は、夜間に、ほかの昆虫などを捕まえて食べます。昼間は、葉の裏などの物陰に隠れています。

道の上に出てきたタイワンウマオ

ウマオイの仲間は、夜間に、ほかの昆虫などを捕まえて食べたり、"スイチョ　スイチョ"と鳴いたりします。

木の幹にいるタイワンエンマコオロギ

タイワンエンマコオロギは、昼間にも夜にも鳴きます。鳴き声には3種類あり、普段は"コロリーリー"と張りのある美しい声で鳴きますが、雌を見つけたときには"ルールー"とやわらかく、また雄同士で闘争するときは"キリッ、キリッ"と鋭く鳴きます。雑食性で、動物質のものを好んで食べます。

自然の残された見どころ

浦添城跡周辺の環境

～夜にみられる生き物たち～

羽化するクマゼミ

セミの幼虫は、夜間に、土の中から出てきて、木の幹などにつかまり、羽化し、成虫になります。

葉の上にとまっているキイロヒトリモドキ

多くのガの仲間は、夜間に、花の蜜や樹液などを訪れ、吸汁します。昼間は、葉の裏などの物陰に隠れています。

～昼行性の動物～

昼に活動をする動物の夜の姿を紹介します。

枝で休むメジロ

昼間に活動する鳥は、夜間に、木の枝などで休みます。メジロは2羽で寄り添うように休んでいる姿がよくみられますが、写真のメジロは1羽です。

葉の裏で休むイシガケチョウ

チョウの仲間は、夜間に休みます。休む場所や休む姿は種類によってまちまちで、イシガケチョウの場合、葉の裏などに逆さになって休みます。

自然の残された見どころ

小湾川の環境

環境案内（上流）

小湾川は浦添市前田より流れ出ています。上流部周辺は森や畑となっています。川沿いには歩道があり、散策することができます。安波茶で県道153号と交差します。そのすぐ下流側には、1597年に尚寧王の命で造られたと考えられる安波茶橋(復元)が架かっています。安波茶橋の下流側周辺はうっそうとした緑が茂っており、中流域へと流下して行きます。　上流域の河川は、洪水などの被害を防止するために護岸（ごがん）が整備されています。コンクリートで岸や川底を固める護岸は、川の生きものにとっては住みにくくなってしまいますが、河床にたまった土砂からシュロガヤツリやパラグラス等の植物が生育し、水生生物に住みやすい生息環境を形成しています。

自然観察に行くときの見どころ案内です。上流域は川沿いに歩道があって川の様子を見ながら散策することができます。川の周辺にいる生物を見てみましょう。

自然の残された見どころ

小湾川の環境
～上流～

▲安波茶橋

小湾川上流域は、川沿いに歩道があり手軽に生物を観察できます。周辺は森や畑地が広がっています。森の木々には鳥類、カタツムリ、畑周辺の草むらには主に昆虫類を見ることができます。また、川の中には水生生物を見ることができます。どんな場所で、どんな生物が観察できるか、みてみましょう。

森、林、林縁の森林環境で見られる動物

イソヒヨドリ

キジバト

シロガシラ

メジロ

リュキュウツバメ

キボシカミキリ

自然の残された見どころ

小湾川の環境
～上流～

草地で見られる昆虫類・植物

オキナワスジボタル

タイワンツチイナゴ

チョウセンカマキリ

ヨツモンカメノコハムシ

ツマムラサキマダラ

スベリヒユ

ヒメジョオン

ホシアザミ

河川、水辺で見られる水生動物

アメリカザリガニ

トゲナシヌマエビ

カワニナ

サカマキガイ

グッピー（オス）

クロヨシノボリ

オオシオカラトンボ

自然の残された見どころ

小湾川の環境

～中流～

小湾川は、浦添市前田より流れ出て、経塚、安波茶、大平と市街地を抜けて、国道 330 号と交差し、さらに流下して行きます。この上流域から中流域にかけては、浦添工業高校の脇にある「あじさい公園」をはじめ、河川沿いに樹木や草花が生い茂り、市街地の中では比較的緑地が残っている地域です。また、上流～中流域の河川は、洪水などの被害を防止するために護岸（ごがん）が整備されています。コンクリートで岸や川底を固める護岸は、川の生きものの生活場所を奪ってしまいますが、ここの護岸には生きものに対する配慮が見られます。生きものへ住みかを提供するために、河床にブロックが不規則に敷かれたり、護岸に穴が開いていたりします。また河川の堰（せき）には、魚が上れるように魚道（ぎょどう）が設置されています。

▲あじさい公園

▲あじさい公園の水辺

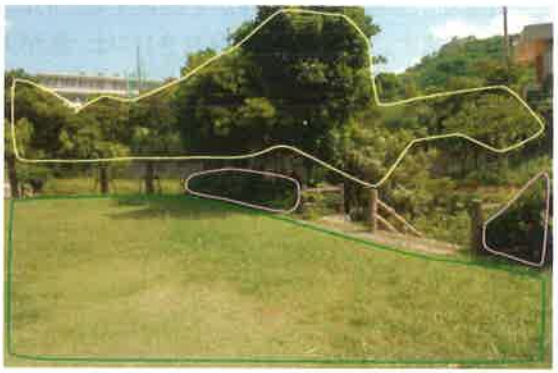
▲河床のブロック

自然観察に行くときの見どころ案内です。中流域には「あじさい公園」があって市民の憩いの場になっています。身近なところにいる昆虫を見てみましょう。

自然の残された見どころ

小湾川の環境
～中流～

小湾川中流域には、市民が自然と親しむことができる「あじさい公園」があります。公園は、小規模な森や林（森林環境）に咲、広場から階段で川岸（水辺環境）へ下りることができます。
市街地の中にある公園ですが、このように異なる環境がみられるため、公園内ではいろいろな昆虫を観察することができます。どんな場所でどんな昆虫が観察できるか、みてみましょう。



森、林、林縁の森林環境で見られる昆虫類

オキナワモリバッタ

ヒラタクワガタ

オサヨコバイ

オキナワクワゾウムシ

自然の残された見どころ

小湾川の環境
～中流～

草原、草地で見られる昆虫類

ショウリョウバッタ

キスジホソヘリカメムシ

クモヘリカメムシ

草や木の花に集まる昆虫類

花の蜜を吸いにチョウなどが集まってきます。

ミナミキゴシハナアブ

セイヨウミツバチ

チャバネセセリ

シロオビアゲハ

ヤマトシジミ

カバマダラ

アカタテハ

ツマグロヒョウモン

アオスジアゲハ

自然の残された見どころ

小湾川の環境
～中流～

河川、水辺で見られる昆虫類

水辺にはトンボがよく見られます。

リュウキュウベニイトトンボ

アカナガイトトンボ

タイリクショウジョウトンボ

ハラボソトンボ

ベニトンボ

自然の残された見どころ

小湾川の環境

～下流～

浦添市前田に端を発した小湾川は、安波茶、大平、宮城、仲西などの市街地の中を流下し、勢理客で国道58 号と交差します。国道下を暗渠で通過した後、西洲で海に流れ出ます。国道 58 号より下流側は、河川周辺の斜面は樹林となっており、渓流のようになっています。国道 58 号付近は、両岸が護岸されていますが、自然河岸も残されています。河川を下っていくと小さなダムがあり、これを過ぎると汽水域となります。ここでFM沖縄前の道路と交差します。この道路から下は、両岸が護岸されています。満潮時は、一部を残して水没します。干潮時は、海に向かって右側に狭いながら干潟が出現します。

▲国道 58 号との交差部

▲国道 58 号下流側の渓流部

自然の残された見どころ

小湾川の環境

～下流～

▲満潮時の河口域

▲干潮時には河口域に干潮が見られます

潮が引くと、道路下流側、海に向かって右側から河川中央部に、干潮が出現します。一番上流側は岩盤が露出しており、その下流に泥干潮があります。またさらに下流の、河川中央部に出現する部分は、礫干潮となっています。単なる泥の堆積した汚い場所と思われがちですが、干潮時に出現した干潮では、いろんな生き物たちが一生懸命生きている姿を見ることができます。小さな命ですので、普段は見落としていますが、彼らの活動をそっと覗いてみました。カニや貝などの干潮の生きものはそれぞれ好きな場所があります。

護岸の壁面

コンクリートの壁面に小さな巻貝がくっついています。フナムシもよく見られます。

ヒルギハシリイワガニ

リュウキュウフナムシ

ヒメウズラタマキビ

ウズラタマキビ

自然の残された見どころ

小湾川の環境

～下流～

礫底

干上がった礫のたくさん転がった川底には、シオマネキ類などのカニがたくさん見られます。

カノコセビロガニ

ヤエヤマシオマネキ

ヒメシオマネキ

ルリマダラシオマネキ

ベニシオマネキ

オキナワハクセンシオマネキ

ヒバリガイモドキ

砂泥底

干上がった砂泥の川底には、トビハゼの仲間やカニがみられます。

ミナミトビハゼ

ツノメチゴガニ

ヒメヤマトオサガニ

自然の残された見どころ

小湾川の環境

～下流～

河川内

干潮時にも干上がらない水の中にはボラなどの魚の他、ガザミ類などのカニもみられます。

オオウナギ

ボラ

ギンガメアジ

クロサギ属の一種

ミナミクロダイ

ナイルティラピア

オキナワフグ

ゴマアイゴ

カノコガイ

イガカノコ

アミメノコギリガサミ

ミナミベニツケガニ

自然の残された見どころ

小湾川上流

～ほたるについて～

小湾川上流で見られたホタル

日本には約45種類のホタルが生息します。ホタルは夜に光ることが有名ですが、幼虫が光ったり、成虫が光ったりと様々で、発光の仕方も種によって色々です。また、幼虫時代を水中で生活する「水生ホタル」と陸で暮らす「陸生ホタル」がいますが、沖縄島には陸生ホタルのみが生息します。

小湾川上流では3種類が確認されましたが、他の種も生息しているかもしれません。探してみてはいかがでしょうか。

▲　成虫

▲　幼虫

【分類】甲虫目 ホタル科
【種名】オキナワスジボタル
【学名】Curtos okinawanus
【分布・生態】沖縄島、久米島、奄美大島に分布し、畑周辺や緑地で見られる。体長 6.6～7.3mm。成虫出現期は 6 月から 11 月。雄は持続した光を放って飛翔、雌はとまっているときゆっくり明滅して光る。幼虫も弱い光を放つ

【分類】甲虫目 ホタル科、【種名】クロイワボタル、【学名】Luciola kuroiwae 、【分布・生態】奄美諸島・沖縄諸島固有種。

体長 5mm 前後の小さなホタルだが、光は強い。雌はほとんど飛ばない。雄は高さ 1m ほどの低いところを活発に飛び回る。その際強く点滅発光する。

▲クロイワボタル（左）

オキナワスジボタル（右）▲

☆オキナワスジボタルとクロイワボタルのちがい☆
オキナワスジボタルは、飛びながら連続して光りますが、クロイワボタルは約1秒に1回の速さで点滅して光ります。成虫をおなか側から見ると、クロイワボタルの方が白い部分（ここが光ります）が大きいことがわかります。体の大きさにも差があります。

自然の残された見どころ

小湾川上流

～ほたるについて～

【分類】甲虫目 ホタル科、【種名】オキナワクロミナミボタル
(別名オキナワクロホタルモドキ)、【学名】Drilaster okinawensis
【分布・生態】沖縄島に分布する。

体長 5.3～6mm。成虫出現期は 4 月から 5 月中旬。幼虫のみ発光する。

【分類】甲虫目 ホタル科、【種名】オキナワマドボタル、
【学名】Lychnuris matsumurai、【分布・生態】沖縄島に分布する。

体長 8～10mm。成虫出現期は 3 月から 5 月。

自然の残された見どころ

小湾川中流

～通し回遊ってなあに～

通し回遊（とおしかいゆう）ってなあに

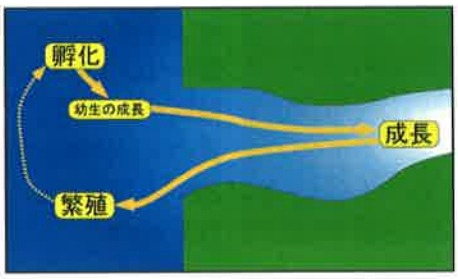
川の生きものの中には、海と切っても切れない関係を持っている種類がたくさん棲んでいます。いったいどんな関係を持っているのでしょうか。そして、小湾川の中流域ではどんな生きものが、海との関係を持っているのでしょうか。

1．降河（こうか）回遊

あじさい公園のような川の中流に棲んでいる生きものも、海と行ったり来たりしているものがいます。それが通し回遊です。川の生き物には生活史の一部を海で過ごす仲間がいます。例えばテナガエビ類は川の中で産卵しますが、孵化した幼生は川の流れにのって海に出て、しばらくの間プランクトンとして生活します。海には餌となる、より小さなプランクトンがたくさんいるので、それらを食べて成長し、ある程度体が育つと川に戻ってきます。このように、川と海の両方で生活することを通し回遊といい、貝、エビ、カニ、魚でよくみられます。通し回遊には以下のようなタイプがあります。

河川で成長しますが産卵は海まで下って行い、

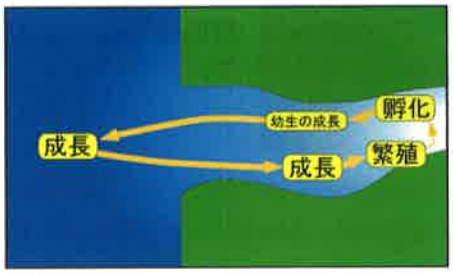
稚エビや稚魚が河川に戻ってきます。



モクズガニは河口域周辺の近海で産卵を行いますが、オオウナギは日本から遠く離れた遠洋（フィリピンのルソン島とマリアナ諸島の間に広がるフィリピン海の中央部）で産卵を行うと考えられています。

2．両側（りょうそく）回遊

河川で産卵し、幼生や仔魚は川を下って海で成長し、あるサイズになると再び川を遡上します。



ムラクモカノコ

ヒラテテナガエビ

自然の残された見どころ

小湾下流

～干潟の水鳥～

干潟の水鳥を見てみよう

干潟には、餌を食べに水鳥たちも集まってきます。 水鳥たちの様子を観察しましょう。

干潮時になると、干潟にシギ類などの水鳥類がやってきます。彼らは干潟上を歩きながら、餌を探しています。 双眼鏡などを使って、餌を探す姿を観察すると、それぞれ歩き方や餌の探し方などに違いがあることがわかります。干潮時にじっくり観察してみましょう。 よく見ると、水鳥たちのくちばしにいろいろな形があることに気がつきます。

キアシシギ
主に春秋の渡りの時期に見られる水鳥です。

イソシギ
最も普通に見られる水鳥です。

チュウシャクシギ
長いくちばしが特徴的な大型の水鳥です。

キョウジョシギ
礫や岩礁を好む傾向があります。夏の羽が綺麗なことから、"京女"の名がありす。

クロサギ
真っ黒なサギです。海岸で生活しています。

クロサギ
クロサギの白色型です。

自然の残された見どころ

小湾下流

～水鳥のくちばしをよく見てみよう～

● **くちばしの形**

水鳥（シギ類）たちを観察していると、くちばしの形の違いに気が付くと思います。くちばしの長さ、曲がり具合などに差があります。 クチバシの形の進化は、干潟などにクチバシを差し込んで餌を捕らえることと関連しています。シギたちは、このくちばしを上手に使い、カニやゴカイなどを捕らえて食べます。 長い脚で干潟などを歩きながら、クチバシを地面に差し入れ、カニ類やゴカイ類などを探し出して食べます。

チュウシャクシギの
くちばし
長くて下に湾曲して
います。

キアシシギ
のくちばし短
めで、まっす
ぐな形です。

キョウジョシギの
くちばし　　短い
くちばしで、貝類
などを食べます。

キアシシギの採餌の
様子
砂の中に逃げ込んだ
カニなどを捕らえま
す。

自然の残された見どころ

内間西公園の環境

内間西公園は、那覇市と浦添市の境に位置しています。公園内にはリュウキュウマツやアコウ、ガジュマルなどからなる小規模な森や林（森林環境）と芝生の広場（草地環境）があります。また、末吉公園より流下する安謝川が内間西公園の南側に隣接しており、公園から河岸に階段で下りることができます。

▲公園内の森

▲公園内の芝生の広場

環境案内

自然観察に行くときの見どころ案内です。 内間西公園には、さまざまな花や草木、チョウやセミなどが見られます。また、公園の川ではカメや魚も見られます。どんな場所にいるのか見てみましょう。

▲公園に隣接するの水辺（安謝川）

自然の残された見どころ

内間西公園の環境

公園の中央には小規模な森（森林環境）があり、それを囲むように芝生が生えた草地環境があります。川沿いなどには整備された花壇（草花の環境）が豊富にあります。また、遊び場としての砂場の環境や、多目的な広場として使われるメーンゲート広場・噴水広場のコンクリートなどで造られた環境があります。このようにさまざまな環境のある公園内では、環境ごとに見られる生物が異なっています。どんな場所でどんな生物が見られるのか、見てみましょう。

ナガバカニクサ

オオイタビ

ゲッキツ

ニシキアカリファ

クロトンノキ

ハナキリン

ハゼノキ

オオハマボウ

イジュ

セイロンマンリョウ

オオバナアリアケカズラ

ニチニチソウ

ランタナ（シチヘンゲ）

タイワンウオクサ

コダチヤハズカズ

ツワブキ

自然の残された見どころ

内間西公園の環境

エダウチチヂミザサ

ヤブラン

ツミ

ヘリグロヒメトカゲ

クマゼミ

リュウキュウアブラゼミ

ウスイロコノマチョウ

オキナワウスカワマイマイ

芝生（草地環境）でおもに見られる生物

イヌビワ

アメリカゴウカン

タチシバハギ

ブソウゲ

アメリカハマグルマ

スズメノカタビラ

エダウチチヂミザサ

イヌシバ

イガガヤツリ

ヤマトシジミ

オキナワウスカワマイマイ

自然の残された見どころ

内間西公園の環境

花壇(草花の環境)でおもに見られる生物

タチシバハギ

ハマヒサカキ

マツバゼリ

オオバナアリアケカズラ

キバノタイワンレンギョ

ランタナ(シチヘンゲ)

アレチノギク

オオキンケイギク

タカサブロウ

イヌシバ

トキワカンゾウ

チャバネセセリ

アオスジアゲハ

シロオビアゲハ

ウラナミシロチョウ

キチョウ

アマミウラナミシジミ

カバマダラ

ツマグロヒョウモン

オキナワウスカワマイマイ

自然の残された見どころ

内間西公園の環境

公園に隣接する水辺でおもに見られる生物

ケツメクサ

サルスベリ

マツバゼリ

ベンガルヤハズカズラ

オキナワウスカワマイマイ

公園に隣接する水辺でおもに見られる生物

ミシシッピアカミミガメ

コボラ

カワスズメ

オキナワフグ

アミメノコギリガサミ

イシマキガイ

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

空寿崎は、浦添市の北西に位置し、市内で唯一残された自然海岸です。空寿崎は岩礁地帯、砂浜から、沖合に向かってイノー(礁池)が続いており、植物、魚類、エビ、カニ類、サンゴ類など多様な生物を観察することができます。また上空および海岸周辺では多くの種類の鳥類を観察することができます。空寿崎へは、それ程危険な箇所もなく海岸に出ることができ、子供連れでも楽しむことができます。

環境案内

自然観察に行くときの見どころ案内です。空寿崎周辺では多くの生物を観察することができます。海にいる生物を見てみましょう。

▲空寿崎より北側を望む

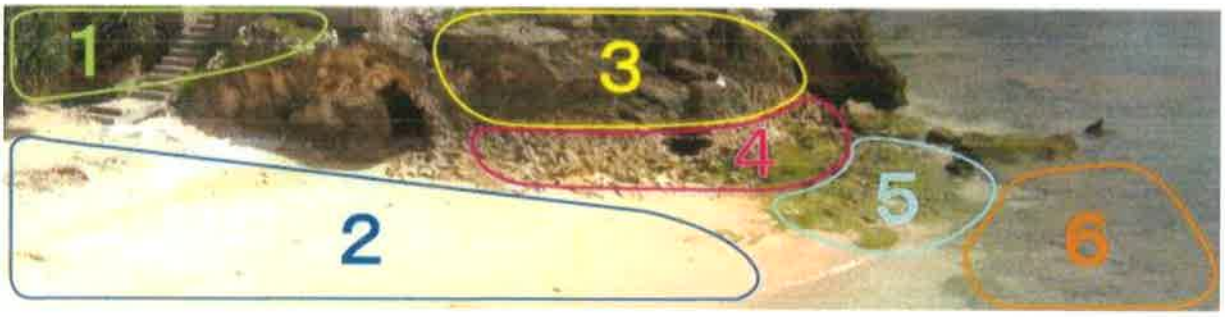
▲空寿崎より東側を望む

▲砂浜から見た空寿崎

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

海岸付近は陸と海の接点であり、多様な環境が形成され非常に多様な生物が生息しています。空寿崎には、緑地帯、砂浜、岩礁地帯、潮が満ちてくると水没し潮が引くと干上がる潮間帯、イノ一(礁池)など色々な環境があり、それぞれの環境に適応した生物が生息しています。それぞれの環境でどのような生物が観察できるか、見てみましょう。



海辺の草地や林で見られる植物・動物

アダン

ハマオモト

オニヤブソテツ

オキナワクマバチ

アカホシカメムシ

メジロ

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

砂浜で見られる植物・動物

グインバイヒルガオ

ハマササゲ

シナガワハギ

ツノガニ

ミナミスナガニ

オカガニ

岩礁帯で見られる植物・動物

ハマボッス

クサトベラ

コウライシバ

ソナレムグラ

オキナワシロヘリ
ハンミョウ(オス)

オキナワシロヘリ
ハンミョウ(メス)

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

飛沫帯で見られる植物・動物

シオグサの一種

アオサ属の一種

ミナミクロフジツボ

コウダカカラマツ

イモタマキビ

リュウキュウフナムシ

潮間帯で見られる植物・動物

マガタマモ

ラッパモク

カギケノリ

アオヒトデ

ルソンヒトデ

アミメジュズベリヒトデ

ニセクロナマコ

フトユビジャコ

ヒラムシ類

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

礁池（イノー）で見られる植物・動物

トサカノリ

ベニアマモ

ワモンダコ

ルリスズメダイ

オヤビッチャ(左)と
ツノダシ(右)

マガキガイ

ハマサンゴ属の一種

キクメイシ属の一種

ミドリイシ属の一種

ダイノウサンゴ属の一種

ノウサンゴ属の一種

アザミサンゴ

磯の生きものたち

磯には、陸上とはまったく違った、いろんな形や色をしたおもしろい生き物がたくさんすんでいます。浦添市の海辺でも、そんな磯の生き物たちを意外なほど目にすることができます。

観察へ行くときは、必ず大人の人といっしょに行きましょう。潮の満ち引きにより、水の深さが急激に変化することがあるので、十分に注意してください。磯へ行くときは、必ずマリンシューズや長靴などをはいて行きましょう。素足やビーチサンダルでは、けがをしたり、危険生物に刺されたりすることがあり大変危険です。なるべくサンゴや海草などを踏まないように歩きましょう。

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

～磯の生き物たち～

●どこにいるの？？

上の二つの写真には、それぞれ生き物がかくれています。どこにいるでしょう？（答えはこのページの一番下にあります。）

●ユニークな名前の生き物たち

ケブカガニ
毛深い!

ケブカカニダマシ
毛深いカニダマシ
実はカニじゃなく、ヤドカリの仲間

スベスベマンジュウガニ
でも食べちゃだめ

ムラサキグミモドキ
なるほど

●どこにいるの？？の答え

イソアワモチがかくれています。5cmくらいで岩の上にいます。沖縄では食用にされます。

タコがかくれています。

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

～磯の生き物たち～

●これも貝？？

ミミガイ

貝がらが耳の形をしています。ん。貝がらは背中にのっかっている感じです。
貝がらにあいているあなから、呼吸や排泄をします。

▲リュウキュウオトメガサ

▲リュウキュウオトメガサ

生きているときは、貝がら膜にすっぽりつつまれています。右の写真はまん中の白っぽい部分にからがのぞいています

●ケヤリムシのなかま

▲イバラカンザシ 5cm くらい。
いろいろな色のものがいます。群生しているところはまるでお花畑のようです。

▲インドケヤリ 10cmくらい。
（土台のほうにうつっているオレンジ色のものはルソンヒトデです）

サンゴや岩の上に色とりどりのふさふさしているものがいます。つつくとふさふさが土台の部分にひっこんだりします。そんなケヤリムシのなかまは、釣りのえさとして有名なゴカイや、危険生物のページに登場しているウミケムシなどと同じ多毛類に属しています。 土台の部分はフジツボのようにかたい石灰質で、そこから出しているたくさんの毛のようなものでプランクトンをつかまえて食べています

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

～海辺の鳥たち～

空寿崎の海岸は、干潮のとき岩場が広がります。そこでは、小魚を食べるサギや貝・カニなどを食べるシギ・チドリ類を見ることができます。また、上空を見ると、魚を探しながら飛びまわるミサゴやアジサシ類も見られます。双眼鏡を使うと、より楽しめます。ぜひ双眼鏡で観察してみましょう。でも、むやみに

観察へ行くときは、必ず大人の人といっしょに行きましょう。潮の満ち引きにより、水の深さが急激に変化することがあるので、十分に注意してください。磯へ行くときは、必ずマリンシューズや長靴などをはいて行きましょう。素足やビーチサンダルでは、けがをしたり、危険生物に刺されたりすることがあり大変危険です。なるべくサンゴや海草などを踏まないように歩きましょう

近づいて鳥たちを驚かせないようにしましょう。

●岩礁地で採餌する鳥たち

クロサギは、磯の波打ち際などで魚を待ち伏せして食べます。シギやチドリ類は岩礁地などを歩き回り、貝やカニなどを探して上手に食べます。

☆これらの鳥については、小湾川下流の干潟の水鳥もみてね。

クロサギ(白色型)

シロチドリ

メダイチドリ

ムナグロ

イソシギ

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

～海辺の鳥たち～

●海で採餌する鳥たち

岩礁を歩き回りながら採餌する鳥たちと違い、海の上空から採餌する鳥としてミサゴやアジサシ類がいます。おどろくことに、彼らは海に飛び込んで魚を捕らえます。しかし、よ～く観察すると、飛びこみ方や魚の捕らえ方が違うことがわかります。

★ミサゴ

ミサゴは魚を食べるタカ類です。10～50m の上空から魚を探し、みつけると翼(つばさ)をすぼめて急降下します。水面近くで両足をのばし、大きな爪を開き、豪快に水しぶきをあげて飛びこんでいきます。捕った魚は足でしっかりと持って、近くの岩や枝に運んで食べます

ダイビングするミサゴの雄姿!!

足を伸ばして急降！

飛び込み!!

足でしっかりゲット！

●よく見られるアジサシの仲間たち

アジサシの仲間のほとんどは、魚を食べます。アジサシは、翼(つばさ)をすぼめて、頭から水中に飛び込みます。くちばしで魚を捕らえたり、水面すれすれまで降下して、魚をつまみとります。（アジサシの名はこの捕らえ方「アジ刺し」に由来します。） アジサシを観察してみましょう。沖縄の海岸では、コアジサシ、ベニアジサシ、エリグロアジサシの 3 種がよくみられます。それぞれ名前に由来する特徴があるけど、わかるかな？

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

～海辺の鳥たち～

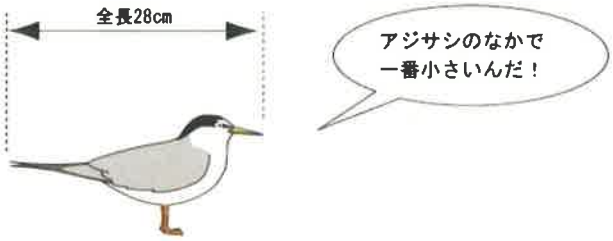
コアジサイ

ベニアジサイ

エリグロアジサイ

★コアジサイ

夏に海岸や埋立地でみられます。



★ベニアジサイ

夏に無人島や岩礁でみられます。

★エリグロアジサイ

夏に無人島や岩礁でみられます。よくベニアジサシといっしょにいます。

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

～海の危険生物～

最近、ハブクラゲをはじめとした、海にいる危険な生き物についてのポスターなどをよく見かけますね。もちろん、浦添市の海にもそういった生き物がたくさんいます。海で遊ぶときには、十分に気をつけ、知らない生き物にやたらにさわるのはやめましょう。また、酢を持っていくなどもしものときの準備もしておきましょう。また、被害にあったときには、応急処置をしたあと、念のためすぐに病院へ行ったほうがよいでしょう。

☆このページにのっていないもの（ハブクラゲなど）は浦添市にはいないという意味では決してありません。

参考文献：「海の危険な生物たち　磯遊びとダイバーのためのガイドブック」琉球出版社

観察へ行くときは、必ず大人の人といっしょに行きましょう。潮の満ち引きにより、水の深さが急激に変化することがあるので、十分に注意してください。磯へ行くときは、必ずマリンシューズや長靴などをはいて行きましょう。素足やビーチサンダルでは、けがをしたり、危険生物に刺されたりすることがあり大変危険です。なるべくサンゴや海草などを踏まないように歩きましょう。

▲アンボイナ。美しい貝です。

▲毒銛（どくもり）のような歯舌の先端。モリや釣り針ような「かえし」がついてい

▲アンボイナ１個体の体からとった歯舌。23 本もあります。

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

～海の危険生物～

●ウミヘビのなかま

ウミヘビのなかまはコブラのなかまに近く、神経毒をもち、その毒はヘビのなかまの中で一番強いと言われています。 沖縄近海には 7 種がすんでいますが、いずれも自分からかんでくるものではなく、つかまえたり、いたずらをしたときにかまれるようです。 かまれたときは痛みやはれがほとんどなく、キバのあとだけがみられますが、数時間たつと呼吸ができなくなったり、筋肉が溶けてきたりし、命にかかわることがあります。 かまれたらすぐに傷口の心臓に近いほうをしばり、毒を吸い出して、急いで病院へ行きましょう

ヒロオウミヘビ

▲ゴンズイ属の群れ。その形から、ゴンズイ球と呼ばれる。

●ゴンズイ属

20cm くらいの、茶色に黄色の 2 本線のある魚です。ゴンズイ球と呼ばれる群れをつくって行動します。 背びれ、胸びれ、腹びれなどに毒のとげを持っていて、さわると刺されることがあります。 刺されるととても痛く、大きくはれ、ひどいときには意識を失うこともあります。 もしも刺されたら、傷口から毒をしぼりだし、45 度のお湯に 30～90 分ひたします。

●食べると危険なもの

スベスベマンジュウガニ

ヒメイワオウギガニ

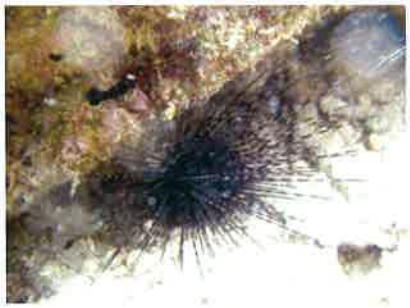
オウギガニの仲間の体はまひ性の毒を含んでいるので、食べてはいけません。食べると数分でしびれ、嘔吐し、体がまひして呼吸困難になり、命を落とすこともあります。 もしまちがって食べたらすぐに病院へ行きましょう。 手を触れても害はありません。

自然の残された見どころ

空寿崎の環境

～海の危険生物～

●その他の危険生物



トックリガンガゼモドキ

短いとげは先がするどく、毒がある。とげはもろいため刺さると取りのぞくとこができない。数時間ほど強い痛みがあるがしだいに回復する。

イワスナギンチャク

量は少ないですがパリトキシンという猛毒を持ち、刺されると強いかゆみ、痛み、水ぶくれなどの症状があります。応急処置としては酢をかけ、氷で冷やします。

オニヒトデ

サンゴを食い荒らすことで有名なオニヒトデ。とげの表面に毒が出る腺があり、とげが刺さるととても痛く大きくはれます。応急処置はとげを完全に取りのぞき、45 度のお湯に 30～90 分ひたして消毒すること。して呼吸困難になり、命を落とすこともあります。 もしまちがって食べたらすぐに病院へ行きましょう。

ウミケムシ

体の左右に剛毛という毛を持っています。剛毛は管状で中に毒液がつまっており、つついたりするとこれを逆立てます。手でつかむと剛毛が刺さり、とても痛くやけどのようにはれます。刺されたらガムテープなどで剛毛を取りのぞき洗い流します。

ヒメジャコ
はさまれ注意

ハリセンボン　とげに毒はなく、刺されることもほとんどありませんが、強力な歯をもっているのでかまれないよう注意しましょう。

自然の残された見どころ

牧港川の環境

牧港川は、浦添市の北側を流れています。西原町を水源とし、浦添大公園を横切って牧港から海に流れ込んでいます。浦添大公園の周辺は遊歩道が整備され、安全に生物の観察がしやすくなっています。川の周辺は、緑豊かな森林となっており、多くの生物が生息しています。下流は海水と淡水が混ざり合う感潮域となっています。

▲淡水区間

▲浦添大公園内を流れる

環境案内

自然観察に行くときの見どころ案内です。牧港川は上流から下流まで変化に富み、多くの生物を見ることができます。

自然の残された見どころ

牧港川の環境

それぞれの環境でどのような生物が観察できるか、見てみましょう。

川へ観察に行くときは、必ず大人の人と一緒に行きましょう。天候なども考慮し、危険な行為はやめましょう。

感潮域の環境

潮の満ち引きにともなって川の水の深さが上下し、また海水と淡水が混じり合っている川の区間のことを感潮区間・感潮域といいます。感潮区間の流れ・水質・生態系の特性には、川と海の両方の影響が現れます。 牧港川は、パイプライン通りと交わるところから少し下流へ下ると、感潮域になります。

出典:「川のなんでも小事典」土木学会関西支部編、講談社

牧港川の感潮域でみられる動物

ハクセキレイ

コサギ

ミナミトビハゼ

イセゴイ

オオクチユゴイ

ユゴイ

自然の残された見どころ

牧港川の環境

淡水域（中流～下流）の環境
中流域は周辺が森林となっており、緑が豊かです。河川の流れはやや急で小さな滝や砂防堤があります。 岸辺は自然の状態が多く残されており、変化に富んだ地形となっています。

淡水域（中流～下流）でみられる動

アオサギ

コチドリ

イガカノコガイ

コンジンテナガエビ

淡水域（上流～中流）の環境
上流は周辺が草地となっています。岸辺は自然の状態が保たれている部分と、護岸整備がなされている部分があります。 浦西中学校の裏手には、護岸が整備されており、安全に川に降りられるようになっています。

淡水域（中流～下流）でみられる動

コガモ

リュウキュウヨシゴイ

アメリカザリガニ

ヌマガエル

自然の残された見どころ

牧港川にすむ生きものたち

浦添市牧港のコープおきなわ前を流れる牧港川に、実はこんなにたくさんの生きものがいるんです！中には、希少な生きものもいます。どのような珍しい生きものがいたかみてみましょう。

セイタカシギ *Himantopus himantopus*
チドリ目　セイタカシギ科

沖縄県レッドデータブック、環境省レッドリストに掲載されています。 淡水域の浅瀬で数羽の群れとなり、採餌したり、休息したりする姿が観察されました。

県内には冬鳥として、河口部、干潟、内陸湿地に飛来し、越冬します。ピンクの細長い足が鮮やかで、水辺で軽やかに餌をとる姿から「水辺のバレリーナ」の愛称があります。くちばしはまっすぐで細長く、わりと深い水の中からも上手に昆虫や小魚を捕まえて食べます。体の上のほうは光沢のある黒で、成鳥の頭部は、全体が白いものや黒斑の大きいもの、小さいものなどいろいろあります。腰や尾は白です。
参考文献：「沖縄の野鳥」沖縄野鳥研究会編、「日本の野鳥」山と渓谷社

カワセミ *Alcedo atthis*
ブッポウソウ目　カワセミ科

沖縄県レッドデータブックに掲載されています。広い範囲で川岸にとまって休息したり、飛んでいるのが見られました。

県内各地に留鳥として生息します。方言名は「カーラカンジュー」。体はスズメくらいで小さいですが、鮮やかなコバルトブルーの背中とオレンジのお腹で、大きな黒いくちばしをもつ、とても美しい鳥です。水面近くを一直線に、ときには「チィー」と鋭く鳴きながら飛び、枝にとまったりホバリングをして餌の小魚を探します。見つけると、一直線にダイビングして捕まえます。繁殖期には、雄が雌に、餌の小魚をプレゼントして愛情表現します。
参考文献：「沖縄の野鳥」沖縄野鳥研究会編、「日本の野鳥」山と渓谷社、「日本の野鳥590」平凡

自然の残された見どころ

牧港川にすむ生きものたち

オオイシソウ *Compsopogon coerulens*
オオイシソウ科

沖縄県レッドデータブック、環境省レッドリスト、水産庁データベースに掲載されています。 淡水域の数カ所で、岩などに付着して生育していました。

県内では沖縄島、石垣島、与那国島に、県外では北海道、福島県、群馬県、関東以南、四国、九州に分布しています。淡水産で、体はひも状、色は暗藍緑色、主軸の太ささは1mm、長さは30cm～40cmくらいです。湧水井戸の中や、流れのあるきれいな河川に生育しています。
参考文献: 沖縄県レッドデータブック

オオウナギ *Anguilla marmorata*
ウナギ目　ウナギ科

水産庁データベースに掲載されています。広い範囲で夜間に活動しているのがみられました。

ウナギの大型化した「大ウナギ」ではなく、全く別の種です。全長が2mくらいにもなる、茶褐色のウナギで、県内各地に生息します。河川の中流域や湖の底に穴を掘ってすみ、魚類、エビ類、カエル類などを食べます。海域で産卵する通し回遊魚です。幼体は夏に河川に溯上してくることが知られています。いわゆるウナギとこの種が同じ河川に生息する所では、ウナギが河口から下流部に生息し、この種が中上流部に生息するとされています。　参考文献:川那部浩哉・水野信彦, 1989. 日本の淡水魚. 山と渓谷社, 東京, 720pp.

こんなエビ類やカニ類も、広い範囲の淵や瀬で確認されました。

ツメナガヨコバサミ

モクズガニ

コンジンテナガエビ

自然の残された見どころ

牧港川でみられた外来種

外来種とは、もともと生息していなかった生物が、他の地域から人為的に持ち込まれた生物のことです。外来種が持ち込まれると、もともといた生物（在来種）に大きな影響を与え、様々な問題を引き起こします。 牧港川にも外来種が生息していますが、みなさんは外来種と思っていないような生きものもいるかもしれません。

シロアゴガエル
Polypedates leucomystax
無尾目　アオガエル科

外来生物法の特定外来生物日本の侵略的外来種ワースト100
淡水域のよどみにオタマジャクシがたくさんいました。

▲オタマジャクシに後ろ足がはえてきた状態

▲成体　シロアゴガエル

原産地はインドシナ半島とされています。現在県内各地に生息しています。沖縄島には、アメリカ軍の輸送貨物にまぎれて導入されたと考えられています。適応能力が高く、すぐに沖縄島全域に分布を拡大しました。この種が高密度に生息するところでは、捕食により在来の（もともと沖縄にいた）昆虫などに影響を与えています。また、生息場所や繁殖場所を巡る競争によって、在来のカエル類を駆逐する可能性があり、在来のアオガエル類への影響が懸念されています。寄生虫の感染も危惧されます。成体の大きさは雄で 5cm、雌で 7cm。体は全体に褐色ですが、上あごの周囲に白いふち取りがあるため、この名前がつきました。人工的な環境でも生息できます。低い木の上や地面の上で行動し、主に昆虫を食べます。単発的に「ギィ」とか「グィ」と鳴きます。

参考文献:「外来生物事典」東京書籍

チュウゴクスッポン
Pelodiscus sinensis sinensis
カメ目　スッポン科

広い範囲で、甲羅干ししている姿が確認されました。

チョウゴクスッポン

原産地はロシア、中国、ベトナム、台湾など。もともと南西諸島には自然分布しませんが、現在は県内各地に生息します。戦後、食用のため主に台湾から移入されました。はじめは近くの川や養殖所で飼っていたものが、野生化したり逃げ出したりして定着したとされています。甲らの大きさは 20～25cm 程度で大きくて 35cm にもなります。河川の中・下流域や湖沼、池などにすみ、貝、昆虫、カエル、魚などを食べます。気が荒いので、咬まれるとケガをします。

参考文献:「外来生物事典」東京書籍、「日本の外来生物」財団法人自然環境研究センター

自然の残された見どころ

牧港川でみられた外来種

アメリカザリガニ *Procambarus clarkii*
十脚目　ザリガニ科

外来生物法の特定外来生物
日本の侵略的外来種ワースト100淡水域で1
個体が確認されました。

アメリカザリガニ

原産地は北アメリカ南部とされています。日本へはウシガエルの餌として神奈川県に導入されたのが最初です。沖縄では 1980 年頃から確認されています。場所によっては、川などにすむ小さい動物を攻撃したり、水草を食べたり、それによって多くの種に間接的な被害を及ぼし、魚などを減らすなどの問題も生じています。比較的温暖な湿地に生息する。体長は 12cm くらい。派手な色のかたい体と大きなはさみが特徴的。水田、河川、湖沼などの浅いところにすみ、水草、昆虫、動物の死体などを食べます。水質汚染や高水温に強い種です。
参考文献:「外来生物事典」東京書籍、「沖縄の帰化動物」沖縄出版、「日本の外来生物」財団法人自然環境研究センター

アメリカフジツボ *Balanus improvisus*
無柄目　フジツボ科

河口部で多数確認されました。護岸や石に付着しているのがみられました。

アメリカフジツボ

原産地はアメリカ北部から南アメリカ北岸とされています。現在北海道を除き日本全域に生息しています。船底にくっついたり、船のバラスト水(※)に入って運ばれてきたと考えられます。河口域に生息しています。この種はほぼ一年中、繁殖ができるので、在来の種よりも早く増えます。 発電所や工場の冷却水系統内に侵入して冷却効率の低下をもたらしていて、除去には操業の停止や多額の費用がかかります。フジツボ類は節足動物門に分類され、エビやカニの仲間なんです。
参考文献:日本生態学会,2002.外来種ハンドブック.地人書館,東京,390pp.、多紀保彦,2008.日本の外来生物.財団法人自然環境研究センター
※バラスト水:船に重い荷物を積まずに出航するとき、重しとして荷物の代わりに船底に積む水のこと。荷物を下ろした港で水を取り、荷物を積む港で捨てる。

自然の残された見どころ

牧港川でみられた外来種

こんな外来種もいました。

ミシシッピアカミミガメは、広い範囲で甲羅干しをしている姿がみられました。カワスズメは、ほぼ全域にたくさんいました。

ミシシッピアカミミガメ

カワスズメ
（モザンビークテラピア）

自然の残された見どころ

クニンドーの森公園の環境

クニンドーの森公園は、浦添市沢岻にあります。沢岻の南西側であり、浦添市内間と那覇市首里末吉町との境界付近に位置しています。 ここは標高差が 30m 以上ある斜面地形となっており、そこに残された森林域を公園としています。また、森林の南側には沢岻前川という河川が流れています。 また、沢岻には、クニンドーの森公園のほかにも、緑地が多くみられます。沢岻配水池の西側、昭和薬科大学附属高等学校・中学校の北東側、沢岻拝所の周辺にも、まとまった森林域が存在しています。これらの森林や河川には、多くの生物が生息しています。
※クニンドーの森公園の完成予定は平成 33 年度以降です。

▲公園の森林域

▲沢岻前川とクニンドーの森公園（右手）

▲沢岻前川

環境案内

自然観察に行くときの見どころ案内です。クニンドーの森公園は森林、草地、河川と環境が多様で、多くの生物を見ることができます。

自然の残された見どころ

クニンドーの森公園の環境

クニンドーの森公園には、森林や草地、河川といったさまざまな環境があります。それぞれの環境では、どのような生物が観察できるのでしょうか。

森の中や、川へ観察に行くときは、必ず大人の人と一緒に行きましょう。天候なども考慮し、危険な行為はやめましょう。

森林環境

林内や林縁では、ガジュマル、アカギ、ハマイヌビワ、ナガミボチョウジ、カラムシ、テリハノブドウ、ホウビカンジュなどの植 物、オリイオオコウモリ、キジバト、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ダイトウクダマキモドキ、アオバハゴロモ、フタイロウリハムシなどの動物が見られます。

ナガミボチョウジ

テリハノブドウ

ホウビカンジュ

ダイトウクダマキモドキ

アオバハゴロモ

フタイロウリムシ

自然の残された見どころ

クニンドーの森公園の環境

草地環境

草地や芝地では、ススキ、ハイアワユキセンダングサ、コバノシチヘンゲ、セイバンナスビ、ノゲイトウなどの植物、オガサワラクビキリギス、カマドコオロギ、ダンダラテントウ、タテハモド キ、アジアベッコウなどの動物が見られます。

クニンドーの森公園の草地環境でみられる生物

コバノシチヘンゲ

セイバンナスビ

ノゲイトウ

カマドコオロギ

タテハモドキ

アジアベッコウ

河川環境

河川の岸辺や水中では、リュウキュウカジカガエルなどの両生類、グッピー、クロヨシノボリなどの魚類、イシマキガイ、ドングリカノコ、サカマキガイなどの貝類、タイリクショウジョウトンボ、オオシオカラトンボなどの昆虫類が見られます。

自然の残された見どころ

クニンドーの森公園の環境

クニンドーの森公園の河川草地環境でみられる

リュウキュウカジカガエル

ドングリカノコ

タイリクショウジョウトンボ

オオシオカラトンボ

アカギ巨木の森

クニンドーの森公園の話をする前に・・・
浦添市には『内間の大アカギ』という市指定文化財になっている巨木があるのをご存知ですか。

浦添市指定文化財(天然記念物)『**内間の大アカギ**』昭和五十六年三月二日指定 トウダイグサ科に属する半落葉の高木で、成長すると高さが 20 メートルにも達する大木になります。 アカギの分布域は沖縄諸島、八重山諸島、中国南部からインド、マレーシア、オーストラリアに広がります。

内間の大アカギ
(2014 年 2 月撮影)

この大アカギ、平成4年(1992 年)3 月の時点で、太さ(胸高直径)が 120 センチメートル、高さ約 18 メートルに成長していたそうです。今回(2014 年 2 月)、計測してみました。胸高直径は、なんと 137 センチメートルとなり、さらに太くなっていました。 しかし、高さを測ると約 11 メートルであり、以前の記録よりずいぶんと低くなっていました。推定樹齢 400 年と言われいているこの大アカギは、去る大戦 の戦災から免れた数少ない樹木の一つであり、人々のくらしを見守ってきた老木だそうです。

自然の残された見どころ

クニンドーの森公園の環境

～アカギ巨木の森～

さて、クニンドーの森公園では、たくさんのアカギ巨木が見られました。さすがに、『内間の大アカギ』を上回るような巨木は見つかりませんでしたが、それに迫る大きさの巨木が何本も見つかり、驚かされました。 クニンドーの森公園の大きなアカギを写真で紹介します。

クニンドーの森公園

今回見つけたアカギの中で、最も太かった個体(写真左)と、最も高かった個体(右)のツーショット写真。左アカギの太さ(胸高直径)は 97 センチメートル、右アカギの高さは約 16 メートルもありました。

こちらは、公園エントランスにある大きなアカギ。 高さが約 15 メートル、太さ(胸高直径)が 95 センチメートルありました。

No	太さ(胸高直径)	高さ	備考
1	97センチメートル	約14メートル	最も太かった個体
2	95センチメートル	約15メートル	公園エントランスの個体
3	89センチメートル	約16メートル	最も高かった個体
4	81センチメートル	—	これらの木は林内にあり、高さを測れなかった。
5	73センチメートル	—	
6	73センチメートル	—	
7	72センチメートル	—	
8	70センチメートル	—	
9	70センチメートル	—	
10	67センチメートル	—	

胸高直径 70 センチメートルのアカギ

これだけ立派なアカギ巨木が生い茂る「クニンドーの森公園」皆さんも、ぜひ一度足を運んで、これらの巨木に触ってみて下さい。そして、このアカギ巨木の森を、いつまでも大切にして行きたいですね。

自然の残された見どころ

クニンドーの森公園の環境

～微小なカタツムリの世界～

浦添市に、いろいろなカタツムリが生息していることは、以前に、浦添大公園のページ「カタツムリのいろいろ」で紹介しました。今回は、以前に紹介した種類よりも、もっともっと小さい「微小なカタツムリ」を紹介したいと思います。

『微小なカタツムリって、いったい、どれくらいの小ささなの？？』

大きさ〇〇ミリメートルより小さいものを微小と呼ぶ、というような定義はありません。ここでは、感覚的に、とっても小さい種を「微小なカタツムリ」と呼びます。どれくらい小さいのか、下の写真を見てみて下さい。

よく見られる一般的な大きさの「ふつうのカタツムリ」
殻が 2 センチメートルくらいのパンダナマイマイ(左)と、3 センチメートルくらいのシュリマイマイ

こちらがとっても小さい「微小なカタツムリ」 ※ この大きさで親の貝です
殻が 2 ミリメートルくらいのリュウキュウゴマオカタニシ(右は拡大)

自然の残された見どころ

クニンドーの森公園の環境

～微小なカタツムリの世界～

微小なカタツムリ達

浦添市内で見られる微小なカタツムリについて紹介します。それぞれの種類について、野外での写真(左)と、ものさし(目盛りは 1 ミリメートル)を当てて大きさが分かる写真を並べました。

ナハキビ *Parakaliella*

殻の高さ 2 ミリメートル、殻の幅 3 ミリメートルくらいになります。
森林で、落ち葉の下などの地面で見られます。

ヒラシタラガイ *Sitalina latissima*

殻の高さ 1.5 ミリメートル、殻の幅 2.3 ミリメートルくらいになります。前の種に似ていますが、殻の頂上と外側の縁が、より角張っています。森林で、落ち葉の下などの地面で見られます。

フクダゴマオカタニシ *Georissa hukudai*

殻の高さ 2 ミリメートル、殻の幅 1.6 ミリメートルくらいになります。
森林で、岩石の表面などで見られます。

自然の残された見どころ

クニンドーの森公園の環境

～微小なカタツムリの世界～

リュウキュウゴマオカタニシ ***Georissa luchuana***

殻の高さ 2.1 ミリメートル、殻の幅 1.9 ミリメートルくらいになります。前の種に似ますが、殻の表面に巻きに沿った細かい線をそなえます。森林で、岩石の表面などで見られます。

ナガケシガイ ***Carychium cymatoplax***

殻の高さ 1.8 ミリメートル、殻の幅 0.6 ミリメートルくらいになります。
森林で、落ち葉の表面などで見られます。

スナガイ属の一種 ***Gastrocopta* sp.**

殻の高さ 2.4 ミリメートル、殻の幅 1.3 ミリメートルくらいになります。
草地や荒地で、石の下などで見られます。

身近なところに、こんな「微小なカタツムリの世界」があることは、あまり知られていないのではないでしょうか。
浦添市内だけでも、これほどたくさんの種類が見られます。みなさんも、ぜひ一度、近所で探してみてください。

【カタツムリ探しでの注意点】
触った後は、よく手を洗いましょう。カタツムリには「広東住血線虫」という寄生虫がいる場合があります。
あやまって口などから体内に入り込むと、人体に悪い影響を及ぼし、危険です。

自然の残された見どころ

伊祖公園の環境

伊佐公園は浦添市伊祖にあります。伊祖城跡公園ともよばれ、伊祖城跡（伊祖城址）を中心とした公園です。公園内には古い石垣や石畳道が残っており、歴史を感じさせる場所となっています。また、公園内の展望台は標高約50m の所にあり、晴れた日には眼下に広がる街並や遠く東シナ海を一望することができます。ここは標高差が 20m 以上ある斜面地にあり、一番下が駐車場で階段をのぼると芝生の広場が広がり、遊歩道が森林域を取り囲むように整備されています。

公園内の森林域

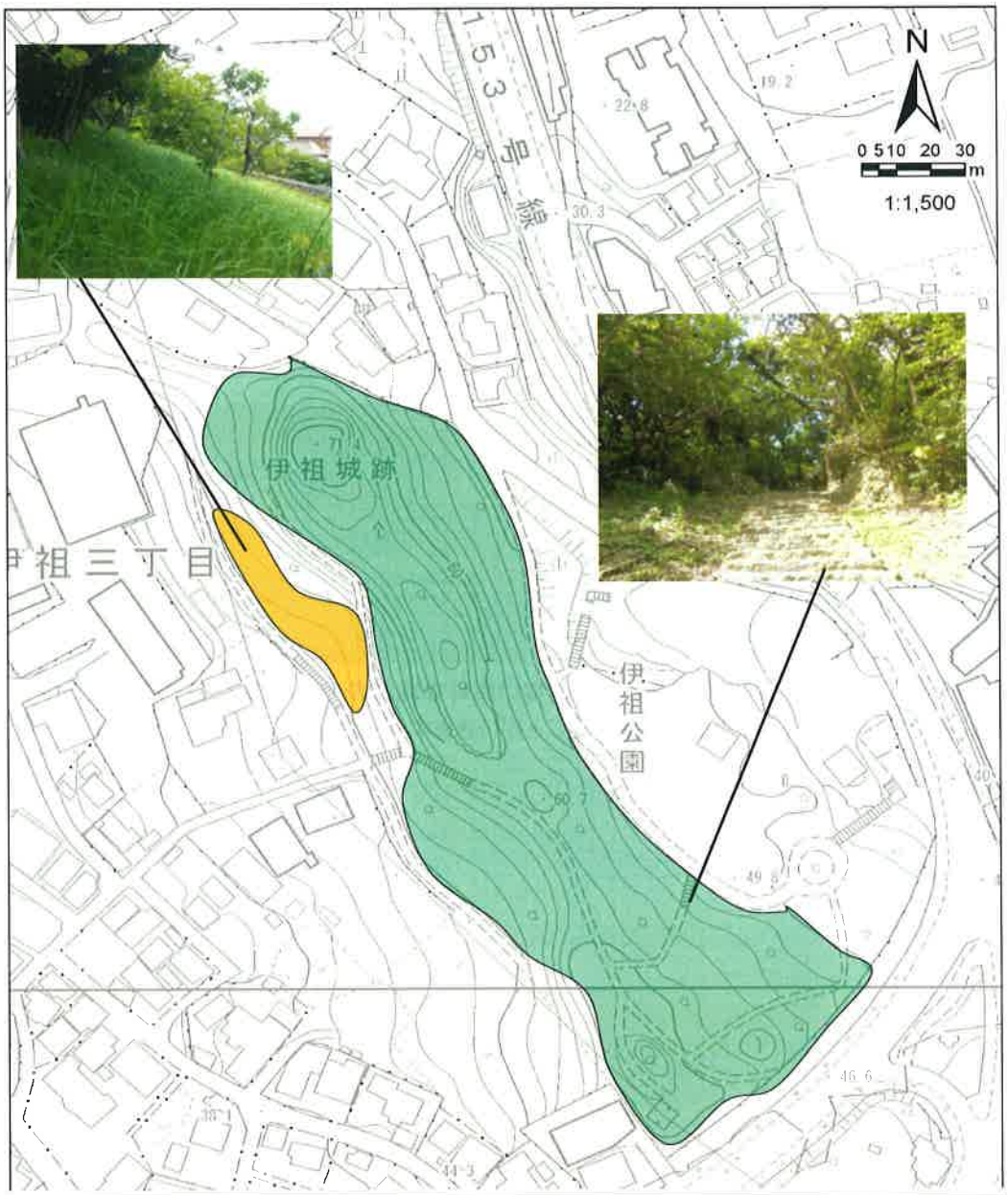
芝生の広場

遊歩道と森林

自然の残された見どころ

伊祖公園の環境

伊祖公園の環境案内



伊祖公園では森林環境（　）が広がっています。一部には草地環境（　）がみられます。

自然の残された見どころ

伊祖公園の環境

伊祖公園の森林環境で見られる生物

ハマイヌビワ

クロツグ

クマゼミ

アオミオカタニシ

伊祖公園の草地環境で見られる植物

チガヤ

ハイアワユキセンダングサ

伊祖公園にみられる森林は、浦添市内に残された数少ない良好な森林の一つです。ここでは沖縄島中南部に広がる石灰岩域の森林を構成する主な樹木をみることができます。

てだこ環境調査団

てだこ環境調査団

調査概要

浦添市民が主体となって環境調査を行い、地域の環境情報を充実させるために、「てだこ環境調査団」が結成されました。調査団は、第 1 期調査団及び第 2 期調査団は小学校5年生～中学生と保護者のペア、第 3 期、第4期調査団は高校生以上の大人から構成されました。

てだこ環境調査団	調査対象地域	調査箇所	
第 1 期調査団（平成 17 年度）	神森中学校校区	内間西公園とその周辺ルート	調査結果を見る
第 2 期調査団（平成 18 年度）	浦添中学校校区	浦添市役所～あじさい公園	調査結果を見る
第 3 期調査団（平成 25 年度）	浦西中学校校区	浦添大公園	調査結果を見る
第 4 期調査団（平成 27 年度）	港川中学校校区	伊祖公園	調査結果を見る

てだこ環境調査団

第1期調査団

～調査概要～

調査スケジュール

平成 17 年　7 月　30 日(土)	オリエンテーション(調査の説明会)
平成 17 年　8 月　6 日(土)	夏の調査
平成 17 年　11 月　12 日(土)	秋の調査
平成 17 年　11 月　19 日(土)	調査結果報告会

調査項目		調査の内容
植物	帰化植物調査	身近な帰化植物について種類・場所を調べました。帰化植物とは、外国生まれの植物のことで、外国から送られてくる荷物等にまざったり、人の手によって持ち込まれたりなど、いろいろな方法で日本にやってきて生育している植物のことです。また、古来から生育している植物を自生植物といいます。最近では、帰化植物が増えすぎて、自生植物の生育地を奪っていくことが多く見られるため、法律で持ち込みが禁止されている動植物があります
	食痕(食べあと)調査	落ちているモモタマナの実に残ったオリイオオコウモリの食べあとの、場所と数を調べました。食痕とは動物が食べた痕のことで、植物の実を調べて、どんな動物が生息しているかわかります。
陸域動物	セミ調査	どんな場所にどの種類のセミがいるのか調べました。鳴き声をたよりにセミのいる場所を探し、姿が見えたら色や形から種類を調べました。
	チョウ調査	どんな場所にどの種類のチョウがいるのか調べました。チョウを見つけたら早見表を見ながら、姿や飛び方から、種類を調べました
	カタツムリ調査	どんな場所にどの種類のカタツムリがいるのか調べました。カタツムリを見つけたら早見表を見ながら、殻の形や模様から、種類を調べました
水生生物	水辺に住む動物調査	採取した魚やエビなどを観察して、水辺にどんな動物が住んでいるのか調べました
水質	水の汚れ等	川や井戸の水をとって、かんたんな測定方法で汚れ具合を調べました。透視度は、ペットボトルで作った透視度計で調べました。(pH、COD、透視度、塩分濃度(説明はこちら)などを調べました。)
その他	騒音調査	街のなかの騒音の大きさ(説明)を調べました
	景観調査	街の景観の種類を調べました。
	ゴミ調査	不法投棄されたゴミの種類や場所を調べました。

てだこ環境調査団

第1期調査団

～調査概要～

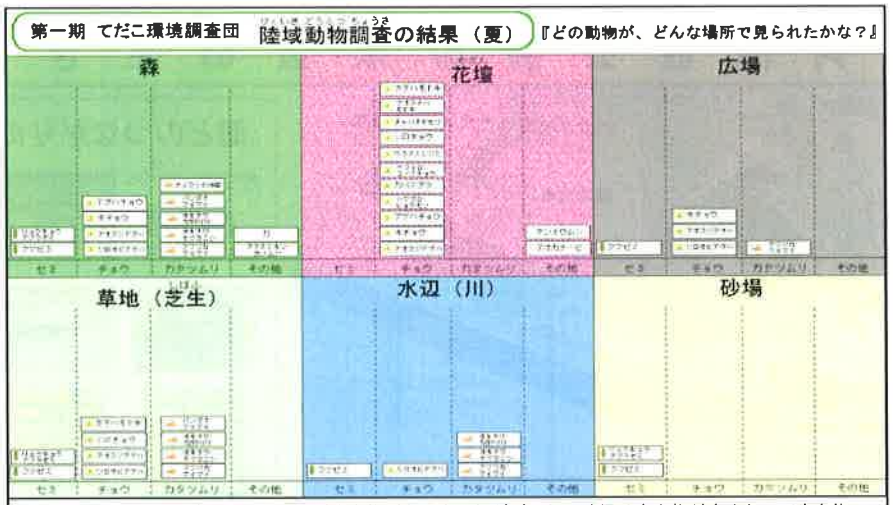
帰化植物調査	・芝生に植物は多くある。 ・帰化植物のセイヨウタンポポは、広い範囲でひろがっている。
食痕調査	・芝生で1個、森で3個のモモタマナの実の食べあとが見つかった。

てだこ環境調査団

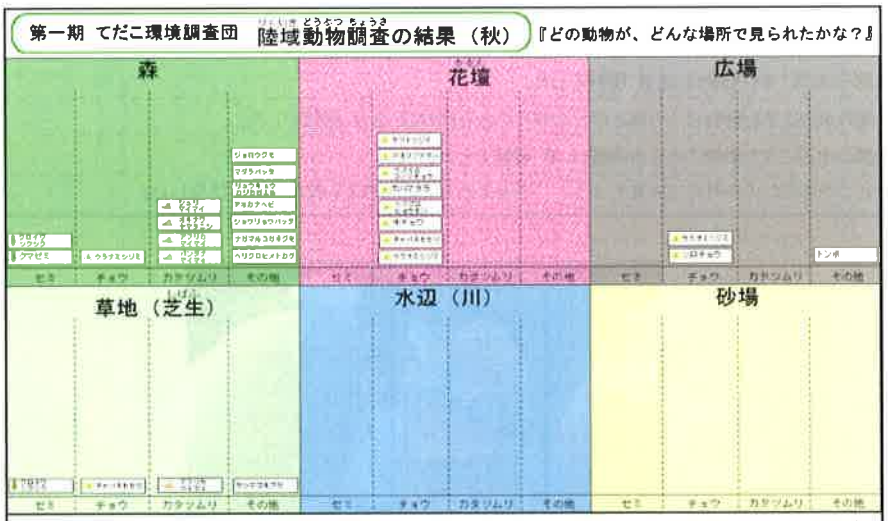
第1期調査団

～陸域動物の調査結果～

夏の調査	・全体的に秋より夏のほうが生き物が多い事に気がついた。 ・砂場は生き物がすめない（生き物の死がいしかない）。 ・森がなぜ生き物が多いかというと、森にはえさが多く生き物にとって住みやすいかんきょうであるからです。
秋の調査	・水辺と砂場には、生き物がいなかった。 ・花だんにはチョウが多かった。 ・森が一番多く生き物がいた。 ・冬に近いから、冬眠（とうみん）のため森に多く生き物がいたと思った。



気がついたこと：全体的に秋より夏のほうが生き物が多い事に気がづいた。砂場は生き物がすめない（生き物の死がい）しかない。森がなぜ生き物が多いかというと、森にはえさが多く生き物にとってすみやすいかんきょうであるからです。



気がついたこと：水辺と砂場には、生き物がいなかった。花だんにはチョウが多かった。森が一番多く生き物がいた。冬に近いから、とうみんのため森に多く生き物がいたと思った。

てだこ環境調査団

第1期調査団

～水生生物の調査結果～

水辺の生きもの	・内間西公園の水辺にすむ動物は33種類でした。 ・内間西公園の水辺にすむ動物のうち海とのつながりのある動物は29種類でした。 ・内間西公園の水辺にすむ外来種は3種類でした。 ・外来種はどこから来たのか考えてみましょう：ペットとして飼われていたのを川にはなした。

てだこ環境調査団

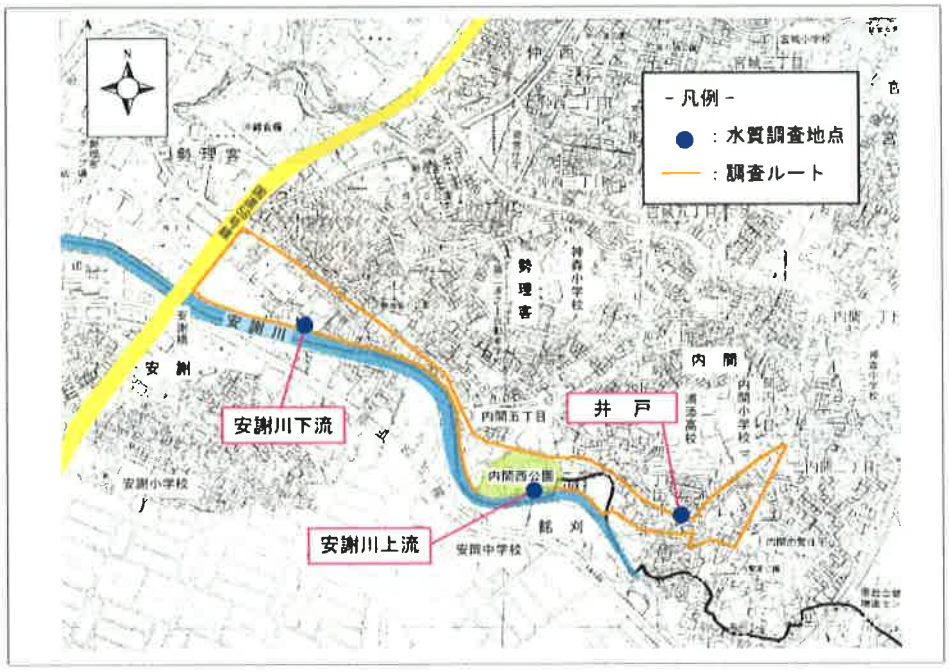
第1期調査団

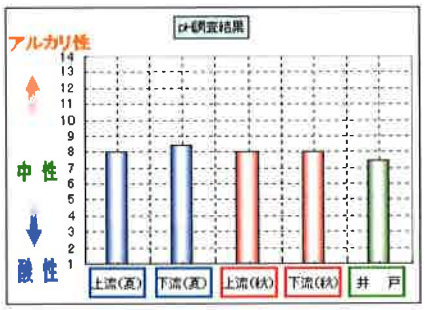
～水生生物の調査結果～

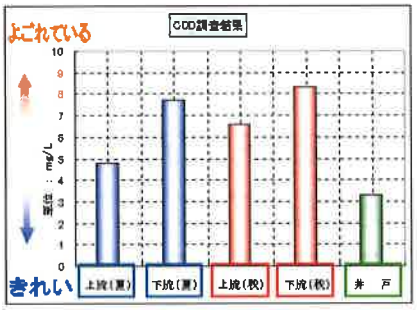
・水質は、上流の方がきれい。

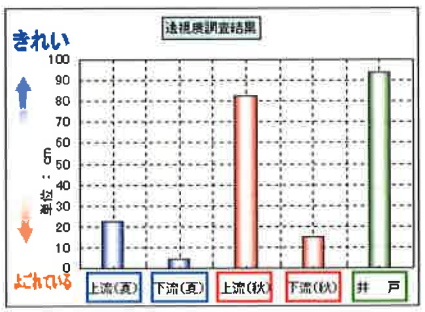
・工場からの排水が影響している。

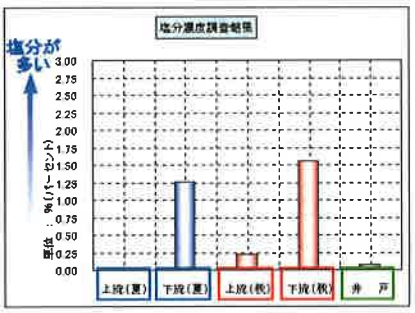
・塩分濃度は下流が高い。海の影響が考えられる。











てだこ環境調査団

第1期調査団

～水生生物の調査結果～

～騒音の調査結果～

騒音計を使って街の騒音を調べました。

☆騒音豆知識を見る

騒音とは

騒音は音の一種で、音の中の「聞きたくない不快な音」、「じゃまな音」が騒音となります。不快をかん感じる音は、健康や生活環境に被害を生じ、やがて公害問題に発展します。大きな騒音の中で長時間働いていると難聴になったりしますが、こうした騒音から人の生活を保護するために法律によって騒音の規制が定められています。騒音の発生源としてはおもに次のようなものがあります。交通関係（自動車、航空機など）、工場、土木建築現場、生活騒音など。

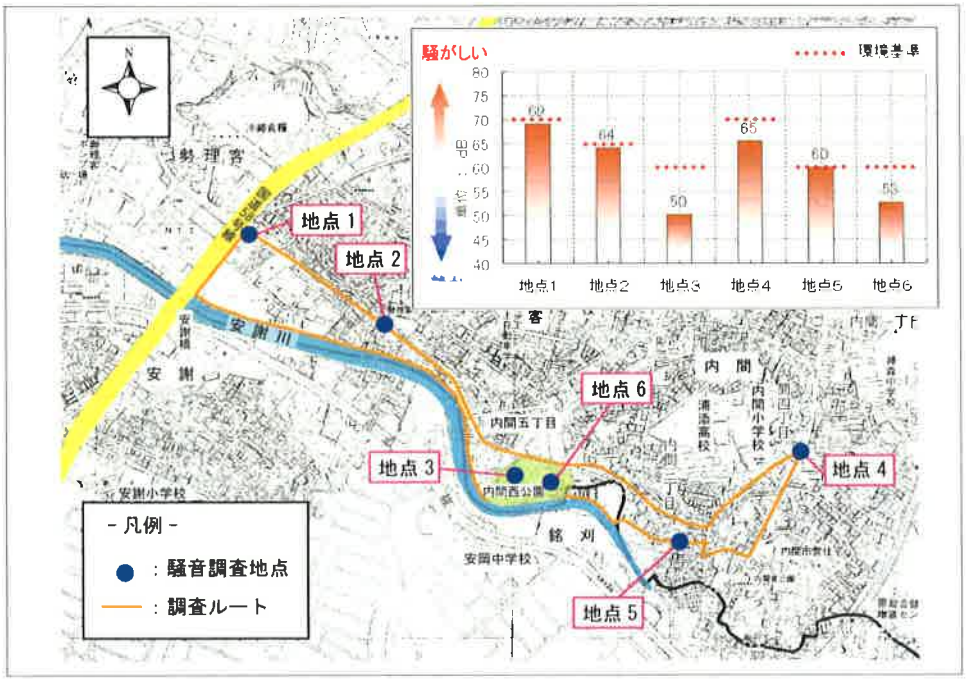
騒音レベル	身近な音
20dB	木葉のふれあうおと音
30dB	ささやき声
40dB	深夜に市内、図書館、静かな住宅地の昼
50dB	静かな事務所
60dB	普通の会話
70dB	騒々しい事務所、電話のベル
80dB	バスの車内
90dB	騒々しい工場、大声による独唱

てだこ環境調査団

第1期調査団

～騒音の調査結果～

・騒音は、全地点において環境基準以下。
・交通量が多いところは、うるさい。



～景観の調査結果～

景観の採点方

自然の豊かさ

その地域の自然の豊かさ（木々の多さ、川のきれいさなど）をあらわします。自然がまったくない地域を1点とし、自然の豊かな最高点は5点としました。

快適度

その地域がどれだけ快適かをあらわします。見晴らしの良さや、街の色の調和、建物の圧迫感などから採点しました。

歴史・文化

その地域の歴史的なもの、文化的なものをあらわします。代表的な最高点（5点）の例として首里城があげられます。

交通量の多さ

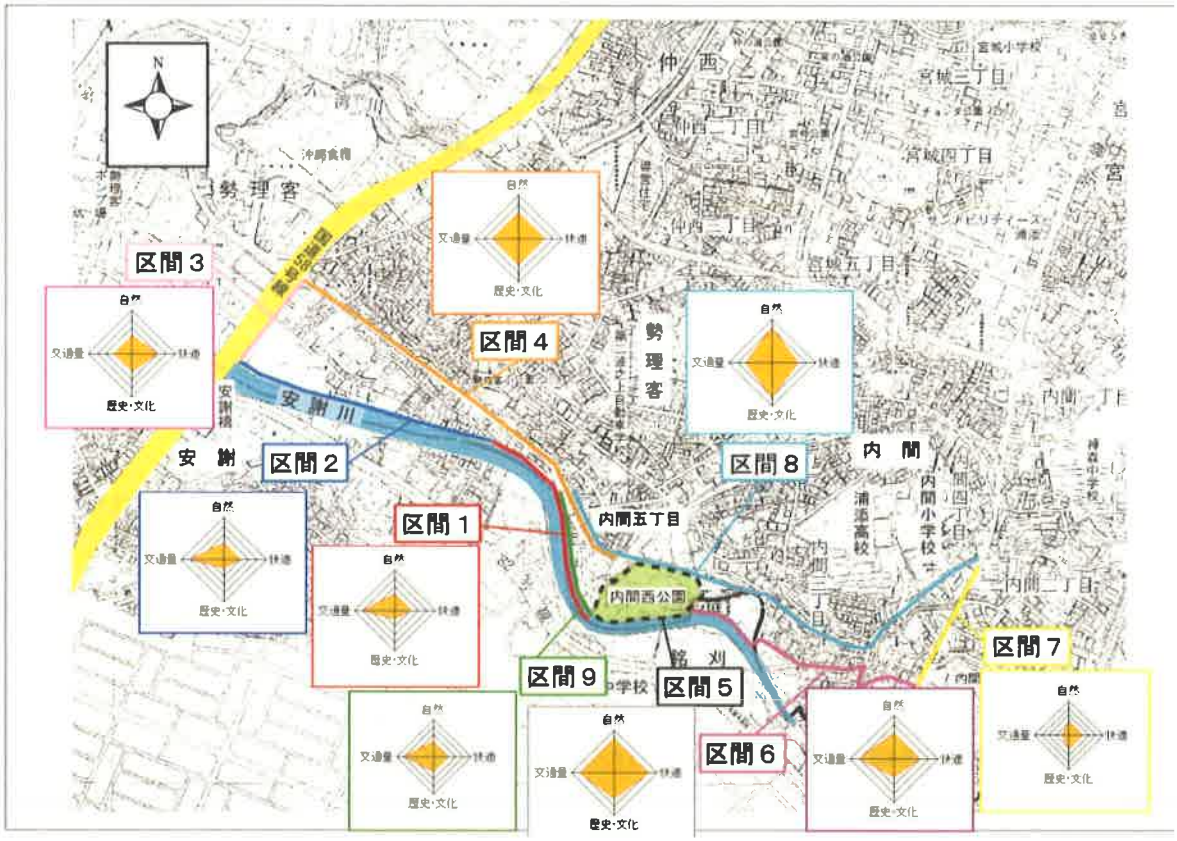
その地域を走行する自動車の多さをあらわします。自動車がまったく通らない地域を1点、車線が多く渋滞しているような道路は5点としました。

てだこ環境調査団

第1期調査団

～騒音の調査結果～

区間	主なコメント	評価（5段階）			
		自然の多さ	快適度	歴史・文化	交通量
区間1	ゴミが多い。生き物が生息している。	2	2	1	2
区間2	ゴミが多い。車がうるさい。	2	2	1	2
区間3	人工物が多い。車がうるさい。道が広くて便利。	2	3	2	4
区間4	木が多い。公園がある。	3	3	3	3
区間5	木が多い。シーサーがある。	4	4	3	2
区間6	大きな木がある。川がある。シーサーがある。	3	3	2	2
区間7	街路樹が多い。川がある。車がうるさい。	2	2	2	5
区間8	大きな木（ガジュマル、アカギ）がある。	4	3	4	3
区間9	ゴミが多い。木が多い。	2	2	2	2

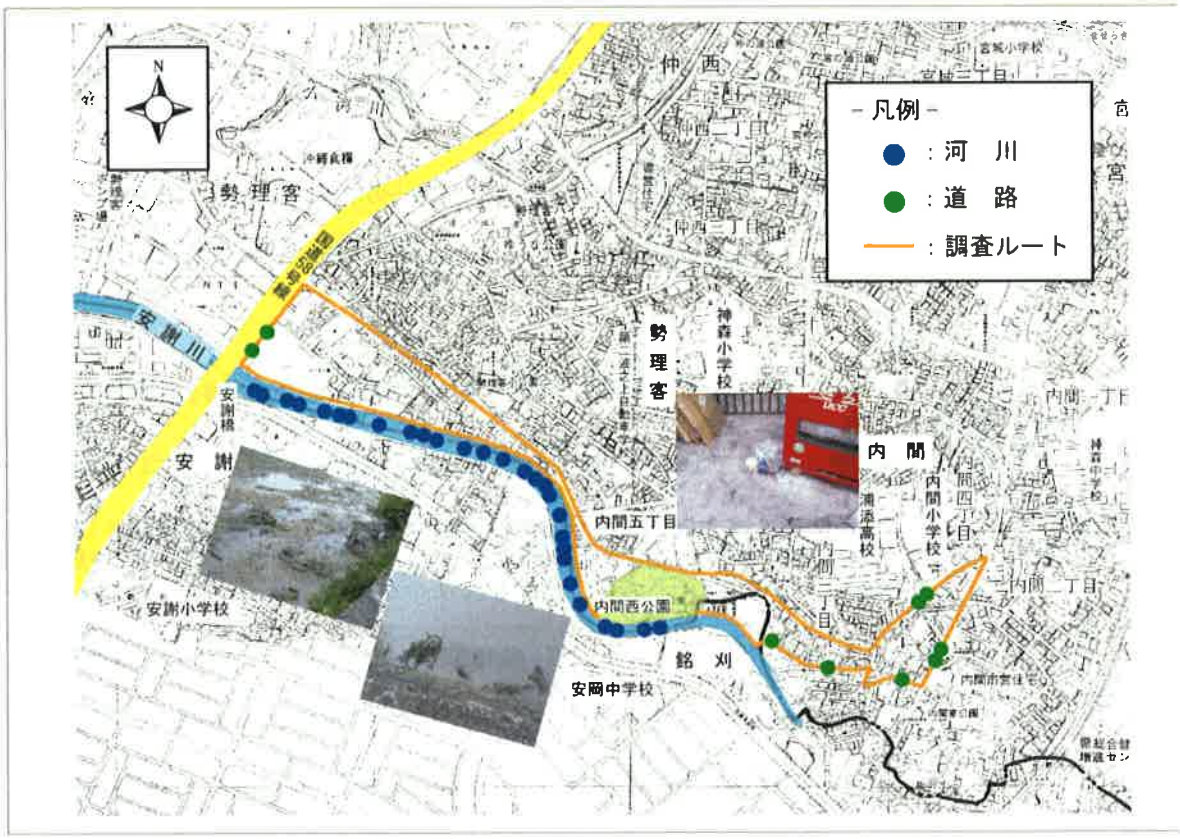


てだこ環境調査団

第1期調査団

～ゴミの調査結果～

・安謝川は、ゴミが多い。だけど、生き物が多い。
・なぜか、オートバイや自転車が落ちている。
・工事中の所は、細かいゴミがあった。



てだこ環境調査団

第2期調査団

～調査概要～

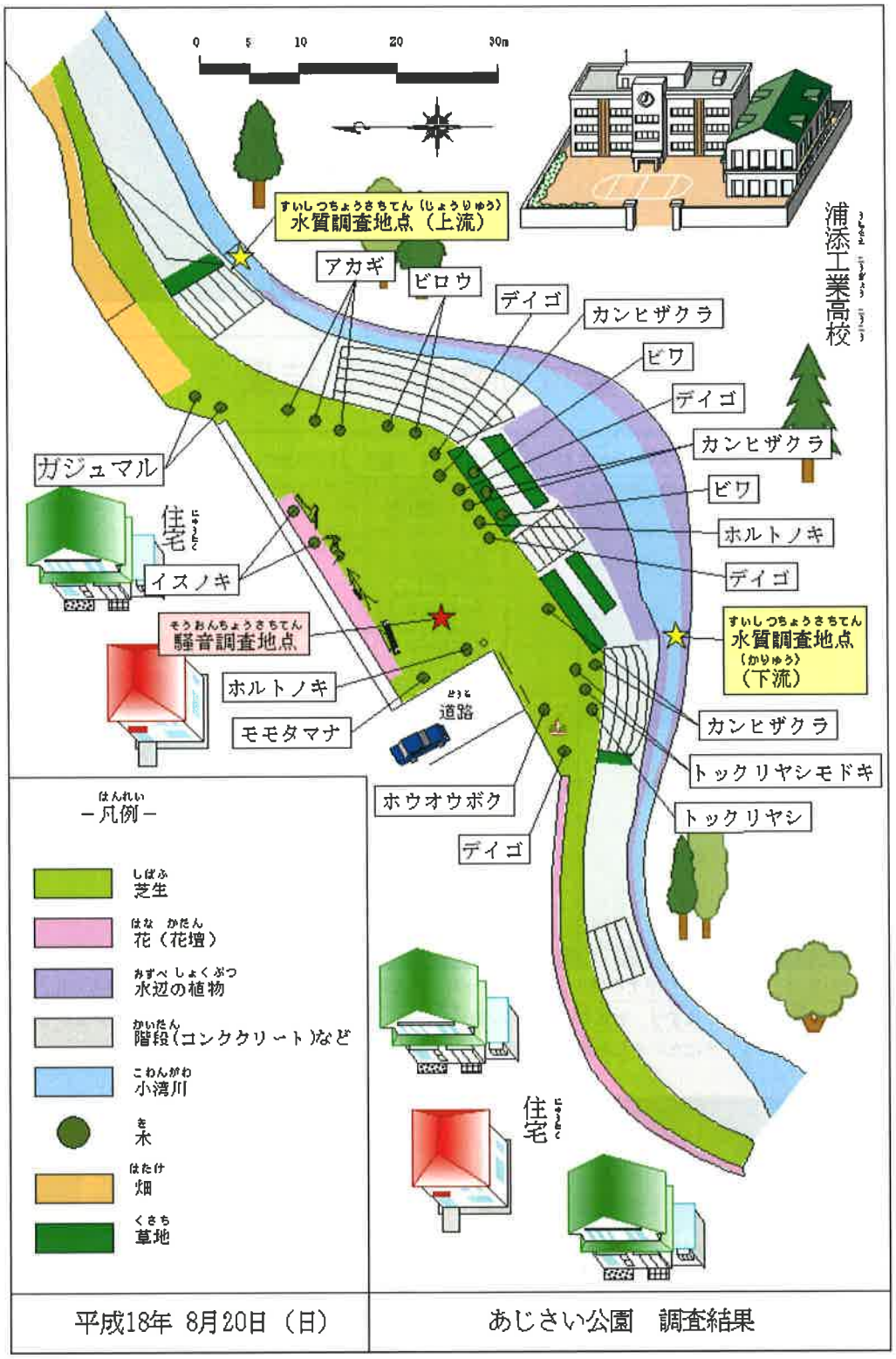
平成18年　8月　20日（日）	オリエンテーション（調査の説明会）
平成18年　8月　20日（日）	夏の調査
平成18年　10月　28日（土）	秋の調査

調査項目	調査の内容
環境区分	公園内の環境について調べました。 公園内を、芝生、花壇、水辺の植物、コンクリートの階段といった大まかな環境に分けて、図面に色をぬります。 これは、次の植物調査と動物調査で使う地図となり、どういう環境でどのような動物が生息しているかということを調べるために行います。
植物	公園内に生えている大きな木とヤシ類について調べました。 木の早見表を参考に、見つけた木やヤシ類の名前と場所を地図に書き込みました。
陸域動物	木の枝や草の上、花壇の花、地面の上、川の近くなど、いろいろなところにいる動物を調べました。 動物をみつけたら、色や形、大きさなどの特徴をよく観察し、図鑑とよく見比べて、動物の名前を調べました。動物の名前がわかったら『調査票』に名前を書き、「どこで見つけたのか」、「何匹みつけたのか」、「何をしていたのか」を書きました。
水生生物	植物の生えているところ、水中の石、護岸の隙間、川底の砂利の中などから小さな生き物を採集しました。 採取した魚やエビなどを観察して、水辺にどんな動物が住んでいるのか調べました。
水質	あじさい公園内に流れている小湾川の水を2箇所から採取して、かんたんな測定方法で汚れ具合を調べました。 透視度は、ペットボトルで作った透視度計で調べました。 （pH、COD、透視度、DO（説明はこちら）などを調べました。）
騒音	浦添市役所からあじさい公園までの間の3箇所に調査地点を設定し、騒音の大きさ（説明）を調べました。

てだこ環境調査団

第2期調査団

～環境区分・植物の調査結果～



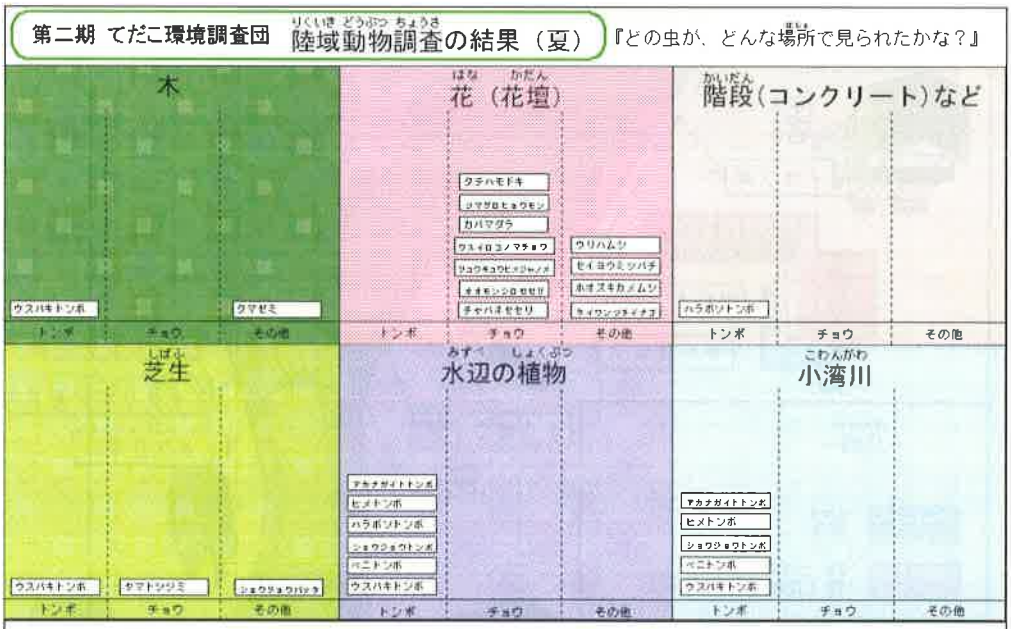
平成18年 8月20日（日）　　あじさい公園　調査結果

てだこ環境調査団

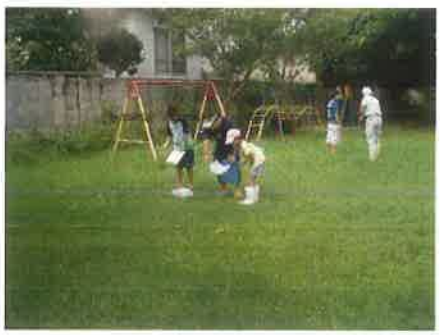
第2期調査団

～環境区分・植物の調査結果～

陸域動物の調査結果



気がついたこと：花ではチョウやその他の虫が多く見られ、水辺の植物・小湾川ではトンボが多く見られた。花には花の蜜を吸う虫が集まり、水辺ではトンボが縄張りをはっていた。木・芝生では虫の種類は少なかったが、ウスバキトンボはたくさんの数が飛んでいた。階段では、ほとんど虫が見られなかった。



てだこ環境調査団

第2期調査団

～水生生物の調査結果～

	動物の名前	採集場所 水際植物	石	護岸	川底	その他の場所	採集したときの様子や生き物の特徴など
1	グッピー					水表面近くを泳いでいた	オス・メスの違いやカダヤシとの見分け方を学習した。
2	クロヨシノボリ				○		川底の石の上などにいた。
3	モクズガニ		○				石の下から見つかった。
4	アカナガイトトンボ				○		ヤゴ（幼虫）が見つかった。
5	オオシオカラトンボ				○		ヤゴ（幼虫）が見つかった。
6	カワニナ			○	○		水質指標生物：少しきたない水の指標
7	トウガタカワニナ		○	○	○		川底の石、護岸に張り付いていた
8	サカマキガイ	○	○	○	○		水質指標生物：大変きたない水の指標
9	タイワンモノアラガイ				○		水質指標生物：大変きたない水の指標
10	エラミミズ	○			○		水質指標生物：大変きたない水の指標
11							
12	無尾目の1種（オタマジャクシ）	○				リュウキュウカジカガエルの幼生の可能性が高い	
13	ヨコエビの１種				○	詳しい種名まで探るためには、顕微鏡を使い、専門的な本などで調べる必要がある。	
14	トンボ科の1種（ヤゴ）				○	詳しい種名まで探るためには、顕微鏡を使い、専門的な本などで調べる必要がある。	
15	ヒメガムシ属の1種				○	詳しい種名まで探るためには、顕微鏡を使い、専門的な本などで調べる必要がある。	
16	ガムシ科の1種				○	詳しい種名まで探るためには、顕微鏡を使い、専門的な本などで調べる必要がある。	
17	ユスリカ科の1種				○	詳しい種名まで探るためには、顕微鏡を使い、専門的な本などで調べる必要がある。	
18	シマトビケラ科の1種				○	詳しい種名まで探るためには、顕微鏡を使い、専門的な本などで調べる必要がある。	
19	二枚貝綱の1種				○	小さな幼貝だったので、詳しい種名まではわからなかった。	
20	ヒル綱の1種				○	詳しい種名まで探るためには、専門的な本などで調べる必要があるがイシビルの可能性が高い。	

てだこ環境調査団

第2期調査団

～水質の調査結果～

調査結果記入票【水質調査用】

調査年月日　18 年　10 月　28 日(土)

河川名　小湾川(あじさい公園内)　　調査者名

				小湾川の目標値（環境基準 C）	最も厳しい基準値（環境基準AA）
1	調査地点名		上流	下流	－	－
2	調査時刻		14:14	14:35	－	－
3	天気		晴	晴	－	－
4	気温		29.0 ℃	29.0 ℃	－	－
5		水温	17.1℃	23.9℃	－	－
6		にごり(水色)	16	無し	－	－
7		pH	7.5	8.0	6.5以上8.5以下	6.5以上8.5以下
8		COD	8.0 mg/L 以上	8.0 mg/L 以上	－	－
9		透視度	50 cm 以上	50 cm 以上	－	－
10		DO	6.1 mg/L	9.2 mg/L	5mg/L以上	7.5mg/L以上
11	その他(※)				－	－

てだこ環境調査団

第2期調査団

～騒音の調査結果～

騒音レベル（db）	交通量（台/分） 大型車	小型車	二輪車
69.1（13:34）（基準未達成）	4	41	7

騒音レベル（db）	交通量（台/分） 大型車	小型車	二輪車
57.7（13:48）（基準未達成）	0	4	0

騒音レベル（db）	交通量（台/分） 大型車	小型車	二輪車
47.2（14:03）（基準達成）	0	0	0

- 凡例 -

：あじさい公園

：移動ルート

：騒音調査地点

	環境区分	基準値（昼間）
	C類型	60db以下
	B類型	55db以下
その他	A類型	55db以下

騒音調査結果　平成18年10月28日（土）

てだこ環境調査団

第3期調査団

～調査概要～

調査スケジュール

平成 25 年 9 月 29 日(日)10:00～12:00	オリエンテーション
平成 25 年 9 月 29 日(日)13:00～17:00	第 1 回現地調査 水質、水生生物、植物(重要な種、外来種)
平成 25 年 12 月 14 日(土)13:00～17:00	第 2 回現地調査 景観、騒音、陸域生物(カタツムリ)
平成 26 年 1 月 26 日(日)13:00～16:00	報告会(環境評価)

調査概要

てだこ環境調査団

第3期調査団

～調査概要～

調査項目

調査項目	調査の内容
水質	浦添大公園内を流れる牧港川の干支橋、当山橋周辺の 2 地点で、　水温、にごり（水色）、pH、COD、透明度を計測しました。
水生生物	指標生物を用いた水質判定を行うことを目的として、水生生物の採集し、種の記録と個体数計数を行いました。なお、調査は、今後団員が独自で実施することを考慮して、安価で身近な道具を用いました。
植物	重要な植物の調査：事前調査にて浦添大公園内に生育していることが確認されている重要な植物 5 種（ハリツルマサキ、クスノハカエデ、ヤエヤマネコノチチ、オオアゼテンツキ、ヤエヤマヤシ）を探し、個体数、生育状況（花、実の有無など）を記録しました。 外来植物の調査:事前調査にて浦添大公園内に生育していることが確認されている要注意外来生物 3 種(ギンネム、アメリカハマグルマ、ハイアワユキセンダングサ(センダングサ))を探し、位置、生育状況(範囲(m^2))、果実の有無などを記録しました。
景観	浦添大公園展望東屋からの眺望景観について、認識項目ごとに価値を採点しました。この手法は開発事業における環境影響評価で景観の価値の変化を求めるために行われる手法であり、開発事業の行われる方角の眺望景観を対象とするのが通常ですが、今回の調査では演習とし調査団員の任意の方角を対象としました。
騒音	環境基準との比較を行うために、浦添大公園内の 3 地点で騒音の大きさ(説明)を計測しました。
陸域生物	森林環境、草地環境の多様性(多様度指数)の違いの比較を目的として、森林環境、草地環境の 2 か所で、カタツムリの種と個体数を記録する調査を行いました。

てだこ環境調査団

第3期調査団

～調査概要～

水質について

1. 調査結果

干支橋と当山橋では水温、pH、COD に大きな違いが見られました。水温は下流側測定地点の干支橋で平均 28.4℃、上流側測定地点の当山橋で 31.0℃で、干支橋の方が 2.6℃低く、COD は干支橋で平均 8.7 mg/l、当山橋で平均 11.2 mg/l で、干支橋の方が 2.5 mg/l 低い値となりました。温度の違いの原因は、干支橋の上流側の護岸には樹木が生育し水面を覆う日蔭を形成している一方、当山橋の上流側は草地となっており日光が直接 当たっていたためであると推測されました。COD の違いの原因は、干支橋の上流は浦添大公園内を流れている一方、当山橋の上流は市街地を流れているため、排水の流入の影響を強く受けているためであると推測されました。

	地点	干 支橋				当 山橋			
	班	A-1	A-2	A-3	A 平均	B-1	B-2	B-3	B 平均
水温 (℃)	予測値	28.0	29	29	—	25	27	25	—
	実測値	28.4	28.4	28.4	28.4	31.0	31	31	31.0
にごり(水色)		—	少 し濁っていた	透 明	—	—	透 明	少 し黄色っぽい	—
pH	予測値	8.0	9	7	—	8	8	8	—
	実測値	7.5	7.5	7	7.3	8.0	7.8	7.5	7.76
COD (mg/l)	予測値	8	8	2	—	—	10	13	—
	実測値	8	8	10	8.7	13	9	11.5	11.2
透明度 (cm)	予測値	25.0	40	30	—	—	30	40	—
	実測値	50cm 以上	50cm 以上	50cm 以上	50cm 以上	50cm 以上	50cm 以上	50cm 以上	50cm 以上

測定方法の説明

パックテストによる測定

2. 環境評価

2-1 評価

【A 班】

調査の結果、浦添大公園内を流れる牧港川における水質は、干支橋付近で ph7.3　COD8.7mg/l でした。環境基準 pH6.5 以上 8.5 以下、身近な水環境の全国一斉調査 COD6.3 と比較した結果、身近な水環境の全国一斉調査より、他の河川に比べて今回の調査地の COD は高い値でした。以上のことから、牧港川は生活排水などの流入が多く汚い川と評価しました。

てだこ環境調査団

第3期調査団

～水質調査～

【B 班】
調査の結果、浦添大公園内を流れる牧港川における水質は、当山橋付近で ph7.8　COD11.2 mg/l でした。干支橋 pH7.3、COD8.7 と比較した結果、pH は干支橋に比べて高く、COD も干支橋に比べて高い値でした。以上のことから、調査した下流域よりも高い値が出ており、生活用水による汚染が考えられると評価しました。

2-2 現状

団員が観察した牧港川の水質の現状は？

- 臭い。ほのかな異臭を感じた。
- ユスリカが多かった→つまり大変きたない水。
- 透明度は 50cm 以 上あり透明度は良いが、流れている川の水の色はそんなにきれいに感じない。
- 思ったより汚い。
- 家庭ゴミやビニール袋が川の岩などにひっかかっていた。

2-3 問題・課題

牧港川の現状から、以下のような問題があると考えられました。

- 川で釣った魚が食べられない。
- 泳げない。川に入れない。

さらに、それらの問題に対する課題が挙げられました。

- 魚がいる川にしたい。
- 水質 地表面の汚水が川に流れ込んで汚水となっているのではないか。

pH や COD など 水質の計測で得られた結果だけでなく、「泳げない」「魚が食べられない」「臭い」などから、川が汚れていると感じている 団員が多くいました。牧港川は、水の汚れが原因で、多くの市民にとって遊んだり親しんだりする環境ではなくなっているようです。

2-4 対策

牧港川の水質を良くするために、どうすれば良いかを団員で議論し、自由に意見を挙げてもらいました。

- 下水道を整備する。
- コンクリート、アスファルトによる地面の舗装
- 生活排水を流さない。
- 排水、グレーチングのゴミ拾い。ゴミが川に流れつく前に防ぐ。
- 自然に還る素材で作られた分解されるビニールなど新素材の開発。

てだこ環境調査団

第3期調査団

～水質調査～

水生生物による水質判定について

1. 調査結果

指標生物による水質判定の 結果、干支橋での水質階級はⅢもしくはⅣ、当山橋はⅣとなり、牧港川は「きたない水」、「大変きたない水」と判定されました。地点による判定結果の違いは、水質調査の結果から推測された原因と同じで、市街地からの排水の影響が大きいためであると推測されました。

	調 査地点	干支橋			当山橋		
	班	A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3
指標種	ウズムシ類	3	0	0	0	0	0
	カワニナ	0	0	2	0	0	0
	ヒル類	11	7	8	5	―	7
	ユスリカ類	105	27	14	7	―	31
	サカマキガイ	0	0	0	0	―	0
	エラミミズ	0	0	21	9	0	0
水質階級		Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ

ウズムシ類

ヌノメカワニナ

ヒル類

ユスリカ類

サカマキガイ

エラミミズ

水生生物の採集

採集した生物の選定

てだこ環境調査団

第3期調査団

～水生生物の調査結果～

2. 環境評価

2-1 評価

【A 班】

調査の結果、浦添大公園内を流れる牧港川における水質階級はⅢ～Ⅳでした。沖縄県内 13 河川 34 地点の水質評価の変遷の北部河川と比較した結果、北部河川の水質階級Ⅰより低い値でした。以上のことから、牧港川の干支橋付近は生物が生きるには汚い川と評価しました。

【B 班】

調査の結果、浦添大公園内を流れる牧港川における水質階級は、Ⅳ(ユスリカ類…38、ヒル類…12、エラミミズ…9)でした。源河川の水質階級はⅠ(ユスリカ 類…1、ヒル類…0、エラミミズ…0)と比較した結果、大変きたない水(水質階級 Ⅳ)に生息する生物が非常に多いことが分かりました。以上のことから、牧港川の当山橋付近は汚染が非常に進んでいると評価しました。

2-2 現状

団員が観察した牧港川の水生生物の現状として、以下のような意見が挙げられていました。

- 南部は人口密集地。
- 牧港川の周辺の人口が多い。
- 人の生活と川の関係が離れている。
- 公園内にありながら親水地域とは言えない。

浦添は都市部で人口密集地域であり、多くの人々が生活していることから、河川に対する潜在的な汚染源が豊富であると言えるでしょう。さらに、市民は河川を身近な存在と感じてはいないようです。

2-3 問題・課題

団員が捉えた牧港川の問題を以下に挙げてもらいました。

- 大変きたない水に住む生物しか見当たらなかった。
- 多様性が低い。
- 浄化に対する対策が不足、あるいは無いのでは？

さらにそこから課題の抽出を行いました。

- 生物が住める環境を回復させたい。
- 川の生きものを採取して楽しめる川にしたい。
- 流れや透明度の美しい川にしたい。
- 親水性の有るきれいな川にしたい。

てだこ環境調査団

第3期調査団

～水生生物の調査結果～

2-4 対策

上記の課題を実現するために、また牧港川の水質（＝水生生物の生息環境）を良くするために、どうすれば良いかを団員で議論し、自由に意見を挙げてもらいました。

浄化関連

・上流域に浄化施設を造る。上流域の下水道を早急に完備する。

・生活排水を垂れ流さない。

啓発関連

・環境教育をする。

・川で遊ぶ機会を増やし、川に対する環境意識を高める。

・定期的に市民を巻き込んで調査をする。

・「ここにはこんな生物がいます」という子供にも大人にも分かりやすい標識を立てる。水質階級Ⅰ～Ⅳの説明を含めて。

親水整備関連

・親水公園を整備する。

・那覇市を参考に防犯カメラ等を設置し、子供達が遊べる環境を整え る。

てだこ環境調査団

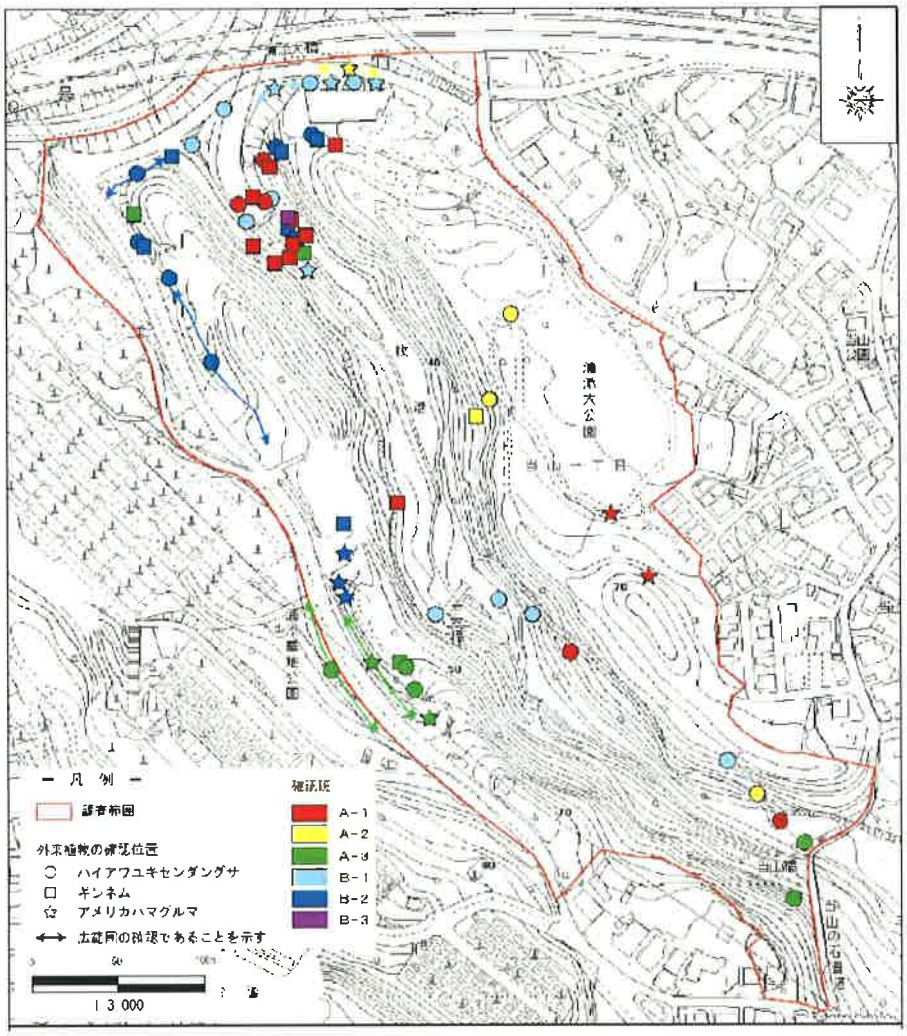
第3期調査団

～植物について～

植物について

1. 調査結果

外来種調査の結果、団員が確認した外来種の位置を図に示しました。
これらの外来種が広範囲に分布していることが分かりました。



踏査の様子

確認された重要種

てだこ環境調査団

第3期調査団

～植物について～

2. 環境評価

2-1 評価

【A 班】

調査の結果、浦添大公園内の植物の現況は、自生種は 143 種(75.3%)、帰化 種は 47 種(24.7%)でした。帰化種について末吉公園と比較した結果、浦添大公園の方が多い結果となりました。

【B 班】

調査の結果、浦添大公園内の植物の現況は、自生種は 143 種(75.3%)、帰化 種は 47 種(24.7%)でした。沖縄本島平均は自生種は 1748 種(81.8%)、帰化種は 388 種(18.2%) 、硫黄鳥島は自生種 122 種(96.1%)、帰化種 5 種(3.9%)と比較した結果、沖縄県平均と比べて帰化種の割合が高く、特に硫黄鳥島に比べて帰化種の割合が極端に高い結果となりました。

2-2 現状

団員が観察した浦添大公園の外来種の現状として、以下のような意見が挙げられていました。

- 人が多い方が帰化種が多い。
- 人が多く出入りすると種子が拡散される。
- 道路などに近い程、帰化植物が多い。
- 人間の利用頻度が高いと帰化植物が多くなる。
- 帰化種は開発時に紛れ込むことがある。
- 植栽工事によって持ち込まれることもある。
- 植林した物が、その後に管理できなく放置され帰化する。
- 小湾川上流(浦添工業高校、 前田ニュータウン)、住宅街の庭木、園芸の外来種の花の種が飛んで、周辺に根付いてしまう。

帰化植物の分布や拡散の状況に興味を持った団員が多くいました。

2-3 問題・課題

そこから見えてきた課題は以下のようなものでした。

- 本来、自生していた植物が少なくなっている。
- 帰化種が多いと自生種の存在を脅かす可能性がある。

てだこ環境調査団

第3期調査団

～植物について～

2-4 対策

上記の課題を実現するために、どうすれば良いかを団員で議論し、自由に対策を挙げてもらいました。

管理関連

・自生種の植物を保護して増やし、元に戻す。

・増え過ぎた帰化種の選択的な草刈り。

・植物の生息バランスを管理する作業を行う。

・帰化植物を初期に抜き取る。

・何年ごとか定期的に帰化種数を調査し、増え過ぎを防ぐ。

・どうせ植えるなら自生種を植える。

環境教育関連

・自然の変化と利用しやすさについて考える場を持つ。

・子供の頃から沖縄の植物の名前や育ち方を知る機会を持つ。

その他

・整備費を増やす。

・「うらそえだより」などで外来種への対策のお知らせ。

・コミュニティガーデン*の 設置

※コ ミュニティガーデンとは：市民が主体となって、地域のために場所を選定し、造成から維持管理まですべての過程を自主的な活動によって支えている『緑の空間』を創出する活動を言います。

てだこ環境調査団

第3期調査団

～景観について～

景観について

1. 調査結果

多様な方角についての調査結果が得られましたが、同方角の集計に十分な結果は得られなかったため、結果の一例を記載しています。一例として、展望東屋から北方向の東シナ海を眺望した調査員の調査結果を示します。

調査方向		北	主要な興味対象	東シナ海		
価値軸	認識項目	代表的指標例		点数（0～5）		
				最低	最高	平均
普遍価値	自然性	緑の多さ、人工物の少なさ		3	4	3.5
	眺望性	視界の広さなど		4	5	4.5
	利用性	利用者の多さ、多様さ。利用しやすさ。		1	3	2.0
	主題性	主要な興味対象の有無、明確さなど		2	5	3.5
	力量性	主題の近さ、見えの大きさなど		4	4	4.0
	調和性	人工物の周辺景観との調和		2	4	3.0
	統一性	景観構成物の統一性、整然さ		2	4	3.0
	審美性	美しさ（「普遍価値」の総合的な指標）		3	4	3.5
固有価値	固有性	他にはない際立った視覚的特徴		3	4	3.5
	歴史性	歴史的な視覚的特徴		1	4	2.5
	郷土性	地域の原風景・シンボル的な視覚的特徴		2	4	3.0
	減少性	地域において失われつつある視覚的特徴		2	3	2.5
	親近性	地域の人々に親しまれている視覚的特徴		3	4	3.5
合　計　点　数						42.0

※認識項目ごとの点数は細項目（「自然性」の、「緑視率」、「人工物占有率」など）の点数を平均し整数に丸めた。

調査方法の説明

測定の様子

てだこ環境調査団

第3期調査団

～騒音について～

騒音について

1. 調査結果

浦添大公園は、環境基本法(平成 5 年法律第 91 号)第 16 条第 1 項の規定に基づく騒音に係る環境基準の地域類型に指定されていないが、周辺地域のほとんどが A 地域に指定されていることから、昼間の A 地域の基準と比較を行いました。

表 3.5-11　騒音調査結果

	国道 330 号沿い	国道から約 100m	国道から約 330m
測定値	66.4 dB	52.2 dB	50.3 dB
基準値	70 dB 以下	55 dB 以下	55 dB 以下

国道 330 号沿いの地点の測定値は 66.4dB であり、一般国道、県道、4 車線以上の市町村道沿いの昼間の環境基準値(70dB 以下)より低い値となりました。国道から約 100m 離れた橋の地点の測定値は 52.2dB であり、一般地域の昼間の環境基準値(55dB 以下)より低い値となりました。国道から約 330m 離れた干支橋の地点の測定値は 50.3dB であり、一般地域の昼間の環境基準値(55dB 以下)より低い値となりました。

以上の結果から、参考値ですが浦添大公園内の騒音は環境基準を満たしていることが推測されました。

測定の様子(国道沿い)

測定の様子(公園内)

てだこ環境調査団

第3期調査団

～陸域動物：カタツムリについて～

陸域動物：カタツムリについて

1. 調査結果

調査の結果、4 目 12 科 16 種のカタツムリの仲間が確認されました。調査団が調査した結果を基にまとめた調査結果を下記の表に示します。

目名	科名	和名	環境区分	
			草地	森林
原始腹足目	ゴマオカタニシ科	フクダゴマオカタニシ		○
中腹足目	ヤマキサゴ科	オキナワヤマキサゴ		○
	ヤマタニシ科	アオミオカタニシ		○
		オキナワヤマタニシ	○	○
基眼目	ケシガイ科	ケシガイ類(ナガケシガイ)		○
柄眼目	オカモノアラガイ科	オカモノアラガイ類(オキナワヒメオカモノアラガイと思われる)	○	
	キバサナギガイ科	サナギガイ類(シモチキバサナギガイと思われる)	○	
	アフリカマイマイ科	アフリカマイマイ	○	△
	オカクチキレガイ科	オカチョウジガイ類(未同定；近似種が 3 種ほど知られている)	○	△
	カサマイマイ科	オオカサマイマイ		○
	ベッコウマイマイ科	ナハキビ		○
		アジアベッコウ	○	
	ナンバンマイマイ科	シラユキヤマタカマイマイ		△
		シュリマイマイ		○
	オナジマイマイ科	バンダナマイマイ		○
		オナジマイマイ類※(オナジマイマイ or バンダナマイマイ)	○	△
		オキナワウスカワマイマイ	○	○
4 目	12 科	16 種	8 種	14 種

凡例　○：生貝の確認あり、△：死貝のみの確認

※印は、種が重複している可能性があるため、種数に計上しない。

てだこ環境調査団

第3期調査団

～陸域動物:カタツムリについて～

また、班ごと及び環境区分別の結果を下記の表に示します。

【A 班】草地環境で確認された陸産貝類と個体数

和名	個体数		
	生貝	死貝	合計
オキナワヤマタニシ	0	8	8
オカモノアラガイ類 (オキナワヒメオカモノアラガイと思われる)	28	6	34
サナギガイ類 (シモチキバサナギガイと思われる)	1	1	2
アフリカマイマイ	3	1	4
オカチョウジガイ類 (未同定;近似種が 3 種ほど知られている)	7	24	31
アジアベッコウ	1	0	1
オナジマイマイ類 (オナジマイマイ or パンダナマイマイ)	5	1	6
オキナワウスカワマイマイ	100	41	141
合計	7 種 145 個体	7 種 82 個体	8 種 227 個体

てだこ環境調査団

陸域動物：カタツムリについて

【B 班】草地環境で確認された陸産貝類と個体数

和名	個体数		
	生貝	死貝	合計
オキナワヤマタニシ	2	176	178
サナギガイ類 (シモチキバサナギガイと思われる)	1	0	1
アフリカマイマイ	16	6	22
オカチョウジガイ類 (未同定；近似種が 3 種ほど知られている)	0	3	3
オキナワウスカワマイマイ	205	119	324
合計	4 種 224 個体	4 種 304 個体	5 種 528 個体

【B 班】森林環境で確認された陸産貝類と個体数

和名	個体数		
	生貝	死貝	合計
オキナワヤマキサゴ	1	0	1
オキナワヤマタニシ	36	366	402
アオミオカタニシ	9	6	15
ケシガイ類(ナガケシガイ)	3	0	3
アフリカマイマイ	0	2	2
オオカサマイマイ	0	1	1
ナハキビ	2	0	2
シュリマイマイ	5	20	25
オナジマイマイ類 (オナジマイマイ or パンダナマイマイ)	1	0	1
オキナワウスカワマイマイ	9	64	73
合計	8 種 66 個体	6 種 459 個体	10 種 525 個体

環境別に陸産貝類の生息種の多様性の違いを比較するために、シンプソンの多様度指数(D)を用いて比較を行いました。算定した結果を下記の表に示します。

	草地環境			森林環境		
	生貝	死貝	合計	生貝	死貝	合計
A 班(干支橋)	0.4830	0.6490	0.5707	0.6361	0.3522	0.4303
B 班(当山橋)	0.1572	0.5111	0.5080	0.6561	0.6574	0.6088

てだこ環境調査団

陸域動物：カタツムリについて

生貝を比較すると、A 班、B 班ともに草地環境の多様度指数が低く、森林環境の多様度指数が高い結果となりました。一方、死貝を比較すると、A 班は草地環境の多様度指数が高く、B 班は逆に森林環境の多様度指数が高い結果となり、班によって違う傾向を示しました。これは、死貝の殻が残存する期間に種による違いがあるため、殻が丈夫な種が多数生息していた場所では、そのような特定の種が多く確認され計数されます。その結果、偏った種が多く計上され、そのことが、多様度指数がその環境の多様性を正しく反映しない結果に繋がる要因となるためであると推測されます。

踏査の様子

確認されたカタツムリの分類

2. 環境調査

2-1 評価

【A 班】

調査の結果、浦添大公園内におけるカタツムリの出現種数は 16 種でした。北部地域のカタツムリ類と比較した結果、浦添大公園は種数が少ないと評価しました。

【B 班】

調査の結果、浦添大公園内におけるカタツムリの出現種数は、12 科 16 種類でした。辺戸岳 35 種、森川(宜野湾市)14 種、南風原 22 種と比較した結果、県内他地域(南部、北部)と比較して、やや少ない結果となりました。以上のことから、環境の多様性が乏しいと評価しました。

2-2 現状

団員が観察した浦添大公園のカタツムリの現状として、以下のような意見が挙げられていました。

- 準絶滅危惧種がまだ生息していてよかった。
- 都市化が進み、自然環境が減少している。
- 広大な公園ではあるが、種類が少ないのは環境保全ができていないのではないか。

調査の結果、意外にも貴重なカタツムリが浦添大公園に生息していることに喜ぶ一方、他地域と比較したときに生息種数が少ないことに驚いているようでした。

てだこ環境調査団

陸域動物：カタツムリについて

2-3 問題・課題

浦添大公園のカタツムリの生息環境について、団員が目指す課題としては、以下のような意見がありました。

・もっと種類が多い方が良い。
・やんばるの環境に近づけたい。※
・環境を複雑にする。(森、草原、水辺など)

生物多様性を高めることを課題とした団員が多くいました。さらに、環境の多様性が種の多様性を生むことを理解されているようでした。

2-4 対策

上記の課題を実現するために、どうすれば良いかを団員で議論し、自由に対策を挙げてもらいました。

管理関連
・生息地の除草、伐採等を避ける。
・外来種のカタツムリは他に影響ない様、管理する。
・カタツムリに優しい公園管理、草刈りの計画。
・開発と自然保全のバランスを考えた公園管理を行う。

保全・環境創出関連
・カタツムリの生息できる環境の保全。
・自然環境を保全していくべき。(元々あった状態に近く)
・なるべく原生のままにしておく。
・Let's make more green areas. 緑地をもっと作りましょう。
・人工に増やして散布する。絶滅危惧種とか。※
・北部の環境に近づける取組みを行う。※

環境教育関連
・カタツムリが小さな生物だったのでもっと身近に分かるよう、カタツムリの案内板を作る。
・カタツムリ競争をさせる。
・カタツムリに親しむ。今回の調査みたいな機会を増やす。

その他
・浦添大公園に博物館と研究室を造る。

※これらのような自然環境の創出に関する対策は注意が必要です。本来存在していた環境を復元するのであれば問題は生じませんが、歴史的に生息・生育した記録がない動植物を新たに持ち込むことは、外来種問題を引き起こすことになります。

てだこ環境調査団

第4期調査団

～調査概要～

●調査スケジュール

平成 27 年　9 月　13 日(日)	伊祖公園環境調査
平成 27 年　10 月　11 日(日)	伊祖公園環境調査　報告会＆ワークショップ ・昆虫の分類について解説と昆虫標本作成 ・植物標本について解説とさく葉標本の作製 ・ワークショップ：環境調査の企画・実践

●調査内容

調査項目	調査内容
伊祖城跡公園 環境調査	植物調査：石灰岩域の森林 伊祖公園の森林は、浦添市に残された数少ない良好な森林の一つであり、沖縄島中南部石灰岩域の森林を構成する主要樹木が見られる場所です。伊祖城跡公園にて、テキスト「伊祖城跡公園の森林樹木」を参考にしながら自分で採集し、同定しました。
	動物調査：分類学的視点で行う昆虫採集 分類という概念を意識しながら伊祖公園の昆虫を観察・採集しました。普段はあまり意識されない「目（もく）」という分類群に着目しました。「目」は昆虫の分類においてまず初めに大別されるグループです。伊祖跡公園にて自分で実際に昆虫を採集し「目」レベルの同定を行いました。
報告会 ＆ ワーク ショップ	昆虫標本の作製 自分が採集した昆虫の標本を作製することを通して、伊祖公園の昆虫相や陸上昆虫について学びました。
	さく葉標本の作製 自分で採集し、同定した植物のさく葉標本を作製することを通して、石灰岩域の森林を構成する樹木について学びました。
	グループディスカッションと発表 環境調査を企画し実施していく上での「課題」と「解決策」をグループで話し合い、意見をまとめました。最後に各グループの意見発表を聞き、環境調査の企画・実践に対する理解を深めました。

てだこ環境調査団

第4期調査団

～調査概要～

伊祖公園

てだこ環境調査団

第4期調査団

～調査概要～

石灰岩域の森林

植物調査は配布された資料を参考に、各班に分かれて植物採集を行い、専門家の指導のもと同定を行いました。報告会＆ワークショップで「腊葉標本（さくようひょうほん）」を各自作ります。

1 班

2 班

3 班

4 班

5 班

動物調査結果　～分類学的視点で行う昆虫採集～

各班に分かれて分類学的視点からより多くの「目（もく）」を集めることを目指して昆虫採集を行いました。採集した標本は専門家が「目（もく）」を同定しました。報告会＆ワークショップで各自標本を作ります。

1 班

2 班

3 班

4 班

5 班

てだこ環境調査団

第4期調査団

～調査結果～

てだこ環境調査（2015年9月13日 伊祖城址公園）昆虫採集結果

目名	（別称）	科名	和名	学名	1班	2班	3班	4班	5班
トンボ目	蜻蛉目	イトトンボ科	リュウキュウベニイトトンボ	*Ceriagrion auranticum ryukyuanum*	○				
		トンボ科	タイリクショウジョウトンボ	*Crocothemis servilia servilia*			○		
			ウスバキトンボ	*Pantala flavescens*	○	○			○
ゴキブリ目	蜚蠊目	マダラゴキブリ科	サツマゴキブリ	*Opisthoplatia orientalis*	○		○		
カマキリ目	螳螂目	カマキリ科	ハラビロカマキリ	*Hierodula patellifera*				○	
シロアリ目	等翅目	ミゾガシラシロアリ科	イエシロアリ	*Cupiotermes formosanus*			○		
バッタ目	直翅目	キリギリス科	ホシササキリ	*Conocephalus maculatus*				○	
			キリギリス科の一種 ※	Tettigoidae gen. sp. ※					○
		クツワムシ科	タイワンクツワムシ	*Mecopoda elongata*			○		
		ツユムシ科	ダイトウクダマキモドキ	*Phaulula daitoensis*					○
		コオロギ科	タイワンエンマコオロギ	*Teleogryllus occipitalis*		○			
		マツムシ科	マダラコオロギ	*Caridodactylus guttulus*		○			
		ヒシバッタ科	ホソハネナガヒシバッタ	*Euparatettix tricarinatus*				○	
		イナゴ科	タイワンツチイナゴ	*Patanga succincta*					○
			コイナゴ	*Oxya hyla intricata*					○
			イナゴ属の一種 ※	*Oxya* sp. ※		○	○		○ ※
		バッタ科	マダラバッタ	*Aiolopus thalassinus tamulus*		○		○	○
			クルマバッタ	*Gastrimargus marmoratus*					○
カメムシ目	半翅目	セミ科	クマゼミ	*Cryptotympana facialis*					○
		ヨコバイ科	オサヨコバイ	*Tartessus ferrugineus*	○	○		○	
		ナガカメムシ科	マエグロキノウエナガカメムシ	*Sadoletus valdezi*	○				
			オキナワシロヘリナガカメムシ	*Eusmodemus sordidus*			○		
			オオモンクロナガカメムシ	*Metochus uniguttatus*				○	
		ヘリカメムシ科	ホソハリカメムシ	*Clelia punctiger*			○		○
		キンカメムシ科	ナナホシキンカメムシ	*Calliphara nobilis*		○			○
		カメムシ科	マルシラホシカメムシ	*Eysarcoris guttiger*		○			
コウチュウ目	鞘翅目	テントウムシ科	ジュウニマダラテントウ	*Epilachna boisduvali*				○	
		ハムシダマシ科	ウルマクロハムシダマシ	*Lagria okinawana*	○	○		○	
		カミキリムシ科	オキナワキボシカミキリ	*Psacothea hilaris teneburosa*	○				
		ゾウムシ科	オキナワクワゾウムシ	*Episomus mori*				○	○
ハチ目	膜翅目	コシブトハナバチ科	タカオルリモンハナバチ	*Thyreus takaonis*	○				
		ミツバチ科	セイヨウミツバチ	*Apis mellifera*		○	○	○	○
		ドロバチ科	オオフタオビドロバチ	*Anterhynchium flavomarginatum insulicola*	○				
		アリ科	アシナガキアリ	*Anoplolepis gracilipes*		○		○	○
			オオシワアリ	*Tetramorium bicarinatum*					○
		スズメバチ科	タイワンアシナガバチ	*Polistes japonicus formosanus*			○		○
ハエ目	双翅目	カ科	ヒトスジシマカ	*Aedes albopictus*					○
		イエバエ科	イエバエ科の一種	Muscidae gen. sp.	○				
		ニクバエ科	ニクバエ科の一種	Sarcophagidae gen. sp.	○	○	○		○
		ミズアブ科	アメリカミズアブ	*Hermetia illucens*	○				
チョウ目	鱗翅目	ハマキモドキガ科	ハマキモドキガ科の一種	Choreutidae gen. sp.					○
		マドガ科	オオアカジママドガ	*Strigina oceanica*	○				
		セセリチョウ科	クロボシセセリ	*Suastus gremius gremius*	○		○		
		アゲハチョウ科	ベニモンアゲハ	*Pachliopta aristolochiae interposita*					○
			シロオビアゲハ	*Papilio polytes polytes*				○	
		シロチョウ科	ウスキシロチョウ	*Catopsilia pomona pomona*			○		○
		シジミチョウ科	クロマダラソテツシジミ	*Chilades pandava pandava*	○			○	
			ヤマトシジミ	*Pseudozizeeria maha argia*	○	○	○	○	○
		タテハチョウ科	イシガケチョウ	*Cyrestis thyodamas mabella*			○		
			アオタテハモドキ	*Junonia orithya*	○		○		○
			リュウキュウミスジ	*Neptis hylas luculenta*	○				
		ドクガ科	スキバドクガ	*Perina nuda*	○				
		ヤガ科	サンカククチバ	*Trigonodes hyppasia hyppasia*	○				
		（不明）※	チョウ目の一種 ※	LEPIDOPTERA fam. gen. sp. ※			○ ※	○ ※	
10目		41科	51種		7目 18科20種	7目 13科13種	8目 14科15種	6目 13科14種	7目 19科22種

註）※印は、既に確認されている種と重複する可能性があるため、合計数に計上していない

ワークショップ①　昆虫標本の作製

環境調査での昆虫採集は、分類学的視点からより多くの「目（もく）」を集めることを目指して行いました。伊祖城跡公園で採集された昆虫の「目（もく）」と種数を沖縄島、琉球列島での記録数と比較しました。

てだこ環境調査団

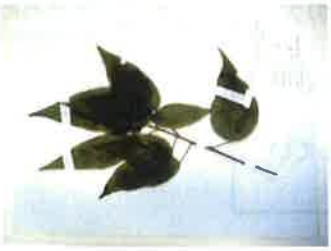
第4期調査団

～調査結果～

採集した昆虫を標本にしました。

ワークショップ②　腊葉標本（さくようひょうほん）の作製

伊祖城跡公園で、自分で採集した植物を配布資料に従って「腊葉標本（さくようひょうほん）」にしました。



ワークショップ③　グループディスカッションと発表

市民が環境調査を行う「市民環境調査」を企画・実施する際に、課題は何か？、その解決策は、のテーマを 2 つのグループに分かれてディスカッションを行い、発表しました。

A班

B班

てだこ環境調査団

第4期調査団

～調査結果～

A 班でのディスカッション

課題
・初心者の理解が深まる工夫が欲しい。
・公園内の植物、昆虫の解説や名前の表示が欲しい。
・調査に子供を含めると、楽しくなると思う。
・植物の見方など、基本的なことを事前に学びたかった。
・通年（4 季）調査が必要なのではないか？
・専門的な調査が必要だと思った。

解決策
・調査回数を増やすとか、項目を絞る（例：植物だけ）事が有効ではないか。
・公園内の生物に関する案内・解説板の設置。
・子供などの安全管理を行いつつ、調査を実施する体制が必要。
・事前学習ができるような教材の開発
・通年活動するためのサークルづくりがいいと思う。
・専門的な調査と結果の公表。

B班でのディスカッション

課題
・事前に基本的なことを学習する必要を感じた。
・調査実施時期、時間帯の設定が難しいことがよくわかった。昆虫は昼夜で動きが違う。
・公園の草刈りがされていただけで、昆虫が見つけにくくなっていた。生息環境の大切さ。
・生物の危険情報、特に触ると害のある昆虫を知った。
・昆虫は生息場所が種によって決まっているものが多い。

解決策
・事前学習ができるような教材の開発と普及。
・自然環境調査は 4 季実施し、昼だけでなく夜間の調査も必要。（ただし、夜間の調査は昼よりももっと難しい。）
・自然を残す工夫、例えば、人が手を付けない場所を作る。
・触れると危険な昆虫は、写真情報などが必要。
・事前に採取エリアを分けて、分担で調査をすると効率的かもしれない

A 班の発表

B班の発表

その他の自由意見をまとめました。

・生物が存続していけるような環境を残していきたいと感じた。
・見て、楽しんで、それを伝えていけたらと思った。
・浦添市の環境を一カ所で学べるもの（施設）があったらいいと思う。

浦添市生き物図鑑

植物 193 種類

50重音順

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】ヒルガオ科
【種名】アオイゴケ
【学名】Dichondra repens Forst.
【分布・生態】 丸い葉が地面を這うように広がりカーペット状となる。花は黄色で 3mm 程、4～8 月に咲く。

【分類】ジンチョウゲ科
【種名】アオガンピ
【学名】Wikstroemia retusa A. Gray
【分布・生態】 海岸の砂地や岩場に生える低木。黄緑色の小さな花が咲く。和紙の原料となる。

【分類】トウダイグサ科
【種名】アカギ
【学名】Bischofia javanica Bl.
【分布・生態】石灰岩地にみられる高木。高さ 20mほどになる。古くからの植栽木。

【分類】アカテツ科
【種名】アカテツ
【学名】Planchonella obovata (R. Br.) Pierre
【分布・生態】海岸近くでみられる常緑高木で 10m に達する。樹皮は赤褐色や葉の裏面は赤褐色。花は淡灰色。木は堅く防風林等に利用される。

【分類】トウダイグサ科
【種名】アカメガシワ
【学名】Mallotus japonicus (Thunb.) Muell.-Arg.
【分布・生態】日当たりのよい山地の林縁や伐採跡地に見られる高木。新芽が紅色をしていることからこの名がついた。

【分類】クワ科
【種名】アコウ
【学名】Ficus superba (Miq.) Miq. var. japonica Miq.
【分布・生態】 海岸近くの石灰岩地などで見られる高木。幹や枝から気根（茎や幹から空気中にでる根）を垂らす。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】タコノキ科
【種名】アダン
【学名】Pandanus odoratissimus L. f.
【分布・生態】主に海岸近くに生える。葉には鋭いとげがあり、パイナップルに似た果実をつける。

【分類】トウダイグサ科
【種名】アマミヒトツバハギ
【学名】Securinega suffruticosa (Pall.) Rehd. var. amamiensis Hurusawa
【分布・生態】主に海岸の岩場に生える落葉性の低木。高さ1～2mになる。

【分類】マメ科
【種名】アメリカゴウカン(ハイクサネム)
【学名】Desmanthus illinoensis (Michx.) MacM.
【分布・生態】 北アメリカ原産。道端等に生える低木状の草本。花は白色で径 1cm 位。葉は細かい葉 15～30 対からできている。

【分類】マメ科
【種名】アメリカネム
【学名】Samanea saman (Jacq.) Merr.
【分布・生態】 熱帯アメリカ原産。樹冠は傘状に広がり、緑陰樹や街路樹に利用される高木。花は赤く、7～8 月に咲く。冬に落葉する。

【分類】キク科
【種名】アメリカハマグルマ
【学名】Sphagneticola trilobata (L.) Pruski
【分布・生態】 熱帯アメリカ原産のつる性の草本。繁殖力が強く至るところで野生化している。ほぼ周年黄色い花が咲く。

【分類】フウロソウ科
【種名】アメリカフウロ
【学名】Geranium carolinianum L.
【分布・生態】 道ばたなどで見られる草本。高さ 40 cmほどになる。北アメリカ原産の外来種。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】キク科
【種名】アレチノギク
【学名】Conyza bonariensis (L.) Cronq.
【分布・生態】 南アメリカ原産。道端、荒地に生える。高さ 30～60cm。葉は細長く毛が密に生える。花は径 5mm と小さく、8～11 月に咲く。

【分類】カヤツリグサ科
【種名】イガガヤツリ
【学名】Cyperus polystachyos Rottb.
【分布・生態】主に海岸に生える。茎は高さ 10～50cm。茎の先端には 3 枚の苞（葉）あり、その上に花が集まって付き栗のイガの様になる。

【分類】ツバキ科
【種名】イジュ
【学名】Schima wallichii (DC.) Korthals ssp. liukiuensis (Nakai) Bloemb.
【分布・生態】海岸近くから山地の明るい所でみかける。高さ 10m 以上になる。花は白色で芳香があり、径 5cm 程。4～6 月に咲く。

【分類】マンサク科
【種名】イスノキ
【学名】Distylium racemosum S. & Z.
【分布・生態】山地で見られる高木。高さ 20mほどになる。材木や街路樹としても利用される。

【分類】ヒユ科
【種名】イソフサギ
【学名】Philoxerus wrightii Hook. f. ex Maxim.
【分布・生態】海岸の岩場に生える小型の多肉質の草本。磯に繁茂することから「磯塞(いそふさ)ギ」の名がついた。

【分類】アブラナ科
【種名】イヌガラシ
【学名】Rorippa indica (L.) Hieron.
【分布・生態】道端等に生える。根もとから株立ちとなり高さ 8～50cm。4～9 月に小さな十字型の黄色い花をつける。果実は細長く弓状に曲がる。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】イネ科
【種名】イヌシバ
【学名】Stenotaphrum secundatum (Walt.) O. K.
【分布・生態】熱帯アメリカ原産。茎を地表に伸ばして広がる。直立する茎は高さ10～30cm。穂は扁平、多肉で節がある。芝生に利用される。

【分類】クワ科
【種名】イヌビワ
【学名】Ficus erecta Thunb. ex Kaempf.
【分布・生態】林縁などで見られる低木。高さ5mほどになる。

【分類】マキ科
【種名】イヌマキ
【学名】Podocarpus macrophyllus (Thunb.) Sweet
【分布・生態】山地に生える高木。材木や庭木などとして使われる。

【分類】イネ科
【種名】エダウチチヂミザサ
【学名】Oplismenus compositus (L.) Beauv.
【分布・生態】　山地の薄暗い林縁に生える。高さ 20～40cm。花は 3mm 程で緑色～帯紫緑色でまばらに付く。粘着力のある果実が服にくっつく。

【分類】キク科
【種名】オオアレチノギク
【学名】Conyza sumatrensis (Retz.) E. H. Walker
【分布・生態】ブラジル原産の帰化植物。高さ 0.5～2m程になり、全体に柔毛が密生する。

【分類】クワ科
【種名】オオイタビ
【学名】Ficus pumila L.
【分布・生態】石垣や樹木などを覆うようにしてよじ登る木本性のつる植物。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】キク科
【種名】オオキンケイギク
【学名】Coreopsis lanceolata L.
【分布・生態】 北アメリカ原産。道路脇や河川敷等に生える。高さ 30～70cm。葉は細長く毛がある。花は径 5cm 程で、黄色、先が切れ込む。

【分類】トウダイグサ科
【種名】オオシマコバンノキ
【学名】Breynia vitis-idaea (Burm. f.) C. E. C. Fischer
【分布・生態】石灰岩地に見られる低木。高さ4mくらいになる。

【分類】クワ科
【種名】オオバイヌビワ
【学名】Ficus septica Burm. f.
【分布・生態】山地で見られる高木。イヌビワの仲間で葉が大型であることからこの名がついた。

【分類】トウダイグサ科
【種名】オオバギ
【学名】Macaranga tanarius (L.) Muell.-Arg.
【分布・生態】低地や山地の林縁などで見られる高さ8mほどになる木本。葉が大きいことからこの名がついた。

【分類】オオバコ科
【種名】オオバコ
【学名】Plantago asiatica L.
【分布・生態】日当たりのよい道ばたなどで見られる草本。葉が幅広いことからこの名がついた。

【分類】キョウチクトウ科
【種名】オオバナアリアケカズラ
【学名】Allamanda cathartica L.cv.Hendersonii
【分布・生態】 ギアナ原産。アリアケカズラの園芸種で、沖縄では広く公園や道路の植栽種として利用されている。4～10 月に黄色い大きな花を多数咲かせる。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】ミソハギ科
【種名】オオバナサルスベリ
【学名】Lagerstroemia flos-reginae Retz.
【分布・生態】インド原産。花は 7～10 月。長さ 50cm にもなる上向きの房に大きなピンク色の花が多数付く。庭園樹や街路樹に利用される。

【分類】アオイ科
【種名】オオハマボウ
【学名】Hibiscus tiliaceus L.
【分布・生態】海岸や低地に生える。高さ 4～12m。葉はハート形。花は径 10cm、6～8 月、咲き始めは黄色で後に赤色になって散る。

【分類】イネ科
【種名】オガサワラスズメノヒエ
【学名】Paspalum conjugatum Bergius
【分布・生態】熱帯アメリカ原産。屋久島、小笠原、琉球に帰化している。やや湿り気のある所に生える。茎の先端が二股になり穂になる。

【分類】ツゲ科
【種名】オキナワツゲ
【学名】Buxus liukiuensis (Makino) Makino
【分布・生態】石灰岩地に生える小高木。花は 9～10 月、葉の付け根に咲く。枝葉が密生し、庭園樹や生垣に利用される。

【分類】キク科
【種名】オニタビラコ
【学名】Youngia japonica (L.) DC.
【分布・生態】畑地や道ばた、庭などで見られる草本。黄色の小さな花が咲く。

【分類】オシダ科
【種名】オニヤブソテツ
【学名】Cyrtomium falcatum (L. f.) Presl
【分布・生態】海岸から低地にかけての崖地や岩場に生えるシダ植物。葉の表面には光沢がある。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】イネ科
【種名】オヒシバ
【学名】Eleusine indica (L.) Gaertn.
【分布・生態】道端や空き地等に生える。高さ 30～80cm。穂は 2～6 本、長さ 7～15cm。花は 8～10 月。

【分類】クワ科
【種名】ガジュマル
【学名】Ficus microcarpa L. f.
【分布・生態】 海岸近くの石灰岩地などで見られ、公園木や街路樹などにも利用される高木。気根(茎や幹から空気中にでる根)を垂らす。

【分類】カタバミ科
【種名】カタバミ
【学名】Oxalis corniculata L.
【分布・生態】畑地や、道ばたなどで見られる草本。1cmほどの黄色の花が咲く。

【分類】イラクサ科
【種名】カラムシ
【学名】Boehmeria nivea (L.) Gaudich. var. nipononivea (Koidz.) W.T. Wang
【分布・生態】道ばたなどで見られる草本。裏面は白色の毛がたくさん生えており、真白く見える。

【分類】ヤシ科
【種名】カンノンチク
【学名】Rhapis excelsa (Thunb.) Henry ex Rehd.
【分布・生態】中国南部～東南アジア原産のヤシの木。日本では古くから観葉植物として栽培されている。

【分類】バラ科
【種名】カンヒザクラ(ヒカンザクラ)
【学名】Prunus campanulata Maxim.
【分布・生態】台湾、南中国が原産。花は濃いピンク色で 1～2 月に咲く。落葉する。観賞用として庭木や街路樹に良い。実は 3～4 月に赤く熟す。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】キク科
【種名】キダチハマグルマ
【学名】Wedelia biflora (L.) DC.
【分布・生態】海岸の砂地や岩場に多く見られる大型のつる性の草本。3 cmくらいの黄色い花が咲く。

【分類】クマツヅラ科
【種名】キバノタイワンレンギョウ
【学名】Duranta erecta L. cv. Yellow Leaf
【分布・生態】タイワンレンギョウの園芸品種。草丈が低く枝が密生し、黄色葉を持つ。紫色の花が 5～9 月に咲く。西インド諸島原産。

【分類】アカネ科
【種名】ギョクシンカ
【学名】Tarenna gracilipes (Hayata) Ohwi
【分布・生態】 低地から山地にかけての林内に生える低木。2 cm程の白い花を咲かせる。

【分類】マメ科
【種名】ギンネム
【学名】Leucaena leucocephala (Lam.) de Wit
【分布・生態】 亜熱帯アメリカ原産の外来種。繁殖力が強く在来種をおびやかして問題となっている。 外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で「要注意外来生物」に挙げられている。

【分類】クサトベラ科
【種名】クサトベラ
【学名】Scaevola taccada (Gaertn.) Roxb.
【分布・生態】海岸の砂地や岩場に生える低木。一年以上海水に浮かんでも発芽力を失わず、海流によって遠くまで運ばれる。

【分類】クスノキ科
【種名】クスノキ
【学名】Cinnamomum camphora (L.) Presl
【分布・生態】木全体によい香りがあり、古くから利用されてきた。日本のものは野生かどうか不明。街路樹等に利用される。花は 5～6 月。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】カエデ科
【種名】クスノハカエデ
【学名】Acer oblongum Wall. var. itoanum Hayata
【分布・生態】石灰岩地の低地から山地にかけてみられる常緑の高木。高さ5～10m程になる。

【分類】トウダイグサ科
【種名】クスノハガシワ
【学名】Mallotus philippensis (Lam.) Muell.-Arg.
【分布・生態】石灰岩地の二次林に多い。高さ4～8m。葉裏面は灰白色。花は3～4月、実は褐色で径6～8mm。和名は葉がクスノキに似ていることから。

【分類】クマツヅラ科
【種名】クマツヅラ
【学名】Verbena officinalis L.
【分布・生態】日当たりのよい原野、道ばたなどに生える多年生草本、高さ30～90cm程になる。花は紫色で径3mm程度。

【分類】トウダイグサ科
【種名】グミモドキ
【学名】Croton cascarilloides Raeusch.
【分布・生態】通常隆起石灰岩上に生育する常緑の低木。高さ2～3m程になる。

【分類】ヤシ科
【種名】クロツグ
【学名】Arenga tremula (Blanco) Becc. Var. engleri (Becc.) Hatusima
【分布・生態】石灰岩地域の低地から山裾にかけて生育する常緑の低木。高さ5m程になる。花は橙黄色で径1～1.5cm程度。強い芳香をもつ。

【分類】トウダイグサ科
【種名】クロトンノキ
【学名】Codiaeum variegatum (L.) Juss. var. pictum (Lodd.) Muell.-Arg.
【分布・生態】インドネシア原産。葉の色は緑、赤、黄色等が入りまじり様々で、形も多様で、公園樹や庭木に利用される。別名ヘンヨウボク。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】サトイモ科
【種名】クワズイモ
【学名】Alocasia odora (Lodd.) Spach
【分布・生態】やや湿った林内などで見られる大型の草本。大きいものでは2mほどにもなる。サトイモに似ているが食べられないことからこの名がついた。

【分類】ニレ科
【種名】クワノハエノキ
【学名】Celtis boninensis Koidz.
【分布・生態】海岸近くで見られる高木。高さ 15mほどになる。

【分類】ヒルガオ科
【種名】グンバイヒルガオ
【学名】Ipomoea pes-caprae (L.) Sweet ssp. brasiliensis (L.) Ooststr.
【分布・生態】 海岸の砂浜によく生えるほふく性の草本。紅紫色の花をつける。

【分類】ミカン科
【種名】ゲッキツ
【学名】Murraya paniculata (L.) Jack
【分布・生態】 海岸近くで見られる高さ6mほどになる木本。人家の生垣などで植栽される。

【分類】スベリヒユ科
【種名】ケツメクサ(ヒメマツバボタン)
【学名】Portulaca pilosa L.
【分布・生態】熱帯アメリカ原産。道端や畑地等に生える。高さ 10～20 ㎝。葉や茎は多肉質。花は紅紫色で径 10mm 位、7～9 月に枝先に咲く。

【分類】アカザ科
【種名】コアカザ
【学名】Chenopodium serotinum L.
【分布・生態】畑地や道ばたなどで見られる草本。ヨーロッパ、西シベリア原産の外来種。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】イネ科
【種名】コウシュンシバ
【学名】Zoysia matrella (L.) Merr.
【分布・生態】暖地の海岸に生える。和名は恒春芝で、台湾の地名による。
ときに芝生として利用される。

【分類】イネ科
【種名】コウライシバ
【学名】Zoysia matrella (L.) Merr. var. pacifica Goudswaard
【分布・生態】海岸の岩場や砂浜よく生えるほふく性の草本。葉は内側に巻く。

【分類】ニシキギ科
【種名】コクテンギ
【学名】Euonymus tanakae Maxim.
【分布・生態】主に石灰岩地に生える高さ 10m 程になる木本。冬場には葉を落とす
落葉樹である

【分類】キク科
【種名】コケセンボンギクモドキ
【学名】Erigeron bellioides DC.
【分布・生態】やや湿り気のある日当たりの良い草地に生えるロゼット状の多年草。
茎の高さは 5cm 程で、先端に径 3mm 程の花が一つ付く。

【分類】イラクサ科
【種名】コゴメミズ
【学名】Pilea microphylla (L.) Liebm.
【分布・生態】道ばたや石垣などの湿った場所でよくみられる草本。
南アフリカ原産の外来種。

【分類】ヤシ科
【種名】ココヤシ
【学名】Cocos nucifera L.
【分布・生態】熱帯アジアを中心に広く分布。高さ 15m 以上になる。公園樹
や街路樹に利用される。花はクリーム色でほうき状、7～10 月に咲く。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】キツネノマゴ科
【種名】コダチヤハズカズラ
【学名】Thunbergia erecta (Benth.) T. Anders.
【分布・生態】熱帯西アフリカ原産。枝が分枝し樹形は株立ち状。花は漏斗型で紫色、花の基部は白色、中央部は黄色で色のコントラストが美しい。

【分類】ヒメハギ科
【種名】コバナヒメハギ
【学名】Polygala paniculata L.
【分布・生態】南アメリカ原産。いたる所でみられる草本。花は小さく、白色、稀に薄紫色、ほぼ周年咲いている。根はしっぷの様な香りがする。

【分類】クマツヅラ科
【種名】コバノシチヘンゲ
【学名】Lantana montevidensis (Spreng.) Briq.
【分布・生態】公園の花壇や車道緑地帯に多く植えられる園芸植物。高さ 1～3m程になる。花は紅紫色。

【分類】マメ科
【種名】コメツブウマゴヤシ
【学名】Medicago lupulina L.
【分布・生態】畑地や芝生などで見られる草本。ヨーロッパ原産の外来種。

【分類】イネ科
【種名】コメヒシバ
【学名】Digitaria radicosa (Pr.) Miq.
【分布・生態】道端や人家周辺の日陰に生える。茎は横に這い、その先は斜上して数本の細い穂になる。花は 7～10 月。

【分類】スイカズラ科
【種名】ゴモジュ
【学名】Viburnum suspensum Lindl.
【分布・生態】石灰岩地帯に多くみられる。葉にツヤがあり赤い果実が美しいので庭木や生垣に利用される。花は白色で芳香があり、1～4 月に咲く。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】ガガイモ科
【種名】サクララン
【学名】Hoya carnosa (L. f.) R. Br.
【分布・生態】つる性草本。葉は多肉質で厚く光沢がある。花は白色で中央が赤く星形で、多数集まって径 12cm 程の丸い固まりになる。

【分類】コショウ科
【種名】サタソウ
【学名】Peperomia japonica Makino
【分布・生態】石灰岩地の岩場などに生える多肉質の草本。高さは 15～45cm。

【分類】ミソハギ科
【種名】サルスベリ
【学名】Lagerstroemia indica L.
【分布・生態】中国南部原産。花は桃色、白、薄紫色等があり、7～9 月に咲く。街路樹や庭木等に利用される。

【分類】スイカズラ科
【種名】サンゴジュ
【学名】Viburnum odoratissimum Ker
【分布・生態】主に石灰岩地に生える高さ 10m 程になる木。紅色の果実をつける。

【分類】ヤナギ科
【種名】シダレヤナギ
【学名】Salix babylonica L.
【分布・生態】高さ 5～10m になる落葉高木。枝は柔らかく下垂する。雌雄異株。早春、葉がのびきらないうちに黄緑色の花が咲く。

【分類】マメ科
【種名】シナガワハギ
【学名】Melilotus suaveolens Ledeb.
【分布・生態】ユーラシア地域原産の草本。海岸近くの埋立地、川岸、路傍などに生える。春から夏にかけて、黄色の小さな花を多数つける。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】キク科
【種名】シマアザミ
【学名】Cirsium brevicaule A. Gray
【分布・生態】海岸の砂地や岩場に生える草本。葉には鋭い刺がある。

【分類】ヤブコウジ科
【種名】シマイズセンリョウ
【学名】Maesa montana A. DC.
【分布・生態】山地のやや湿った場所で見られる低木。高さ3mほどになる。

【分類】キンポウゲ科
【種名】シマキツネノボタン
【学名】Ranunculus sieboldii Miq.
【分布・生態】畑地や林縁などのやや湿った場所で見られる草本。地上を這うようにして成長する。高さ 60 cmほどになる。

【分類】シナノキ科
【種名】シマツナソ
【学名】Corchorus olitorius L.
【分布・生態】インド原産の帰化植物。高さ 1～1.5m 程。黄色い花を咲かせる。野菜名　モロヘイヤ。

【分類】ツユクサ科
【種名】シマツユクサ
【学名】Commelina diffusa Burm. f.
【分布・生態】湿った畑地などで見られる草本。1 cmほどの青色の花が咲く。

【分類】トウダイグサ科
【種名】シマヤマヒハツ
【学名】Antidesma pentandrum (Blanco) Merr.
【分布・生態】主に石灰岩地に自生する。果実はブドウのように房状で 4cm 位、熟すと赤～黒色、食用になる。生垣・庭木として利用される。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】バラ科
【種名】シャリンバイ
【学名】Rhaphiolepis indica (L.) Lindl. ex Ker ssp. umbellata (Thunb. ex Murr.) Hatusima
【分布・生態】海岸近くに生える。葉は光沢があり、透かすと細い脈が見える。花は白色で芳香があり、春に咲く。街路樹や公園樹に多用される。

【分類】カヤツリグサ科
【種名】シュロガヤツリ
【学名】Cyperus alternifolius L. var. obtusangulus (B ckel.) T. Koyama
【分布・生態】水辺や湿地などで見られる草本。マダガスカル原産の外来種。

【分類】クマツヅラ科
【種名】ショウロウクサギ
【学名】Clerodendrum trichotomum Thunb. var. esculentum Makino
【分布・生態】低地や林縁で見られる8mほどになる木本。葉は臭いがあり、食べられる。

【分類】ラン科
【種名】シラン
【学名】Bletilla striata (Thunb.) Reichb. f.
【分布・生態】日当たりの良い湿った所に生える多年生草本。葉は長さ 20～30cm でしわが多い。花は 30～50cm の茎に 3～7 個付き、紅紫色で美しい。

【分類】クスノキ科
【種名】シロダモ
【学名】Neolitsea sericea (Bl.) Koidz.
【分布・生態】山地や低地に生える常緑の中高木、高さ 10～15m程になる。

【分類】マメ科
【種名】シロツメクサ
【学名】Trifolium repens L.
【分布・生態】道ばたなどで見られる草本。葉には白色の斑が入り、クローバとも呼ばれる。ヨーロッパ原産の外来種。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】ゼンマイ科
【種名】シロヤマゼンマイ
【学名】Plenasium banksiifolium (Pr.) Presl
【分布・生態】山地の渓流沿いなど、やや湿った場所に生えるシダ植物。

【分類】イネ科
【種名】スズメノカタビラ
【学名】Poa annua L.
【分布・生態】ヨーロッパ原産。路傍や荒れ地に生える一、二年草。高さ 8～25cm。花期は長く 2 月～11 月。

【分類】スベリヒユ科
【種名】スベリヒユ
【学名】Portulaca oleracea L.
【分布・生態】畑地や庭などの日当たりのよい所に生える草本。葉の縁はしばしば赤くなる。

【分類】ナス科
【種名】セイバンナスビ
【学名】Solanum torvum Sw.
【分布・生態】熱帯アジア原産の帰化植物。高さ 3m程度になる。枝にはまばらに鋭いとげがある。

【分類】キク科
【種名】セイヨウタンポポ
【学名】Taraxacum officinale Weber
【分布・生態】 日当たりのよい道ばたなどで見られる草本。黄色の花が咲く。

【分類】ヤブコウジ科
【種名】セイロンマンリョウ
【学名】Ardisia elliptica Thunb.
【分布・生態】 台湾からマレーシアに分布する。庭木や生垣に利用される。花は白色～淡紅色で 6～8 月に咲く。果実は 12～2 月に紅～黒紅色に熟す。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】トウダイグサ科
【種名】セイタカオオニシキソウ
【学名】Euphorbia hyssopifolia L.
【分布・生態】北アメリカ原産の帰化植物。道ばたや荒地に生え、高さ 40～80cm 程になる。

【分類】リュウゼツラン科
【種名】センネンボク
【学名】Cordyline fruticosa (L.) A. Cheval
【分布・生態】インド・オーストラリア地域原産。高さ 3～4m。葉の長さ 30～50cm。花は長さ 30cm 位の房になり、黄、白、藤色、淡赤色等様々。

【分類】マメ科
【種名】ソウシジュ
【学名】Acacia confusa Merr.
【分布・生態】公園木や街路樹としてよく見られる高木。高さ 10mほどになる。台湾、フィリピン原産の外来種。

【分類】アカネ科
【種名】ソナレムグラ
【学名】Hedyotis coreana Lév.
【分布・生態】海岸の岩場によく生える草本。白色の小さな花が咲く。

【分類】グミ科
【種名】タイワンアキグミ
【学名】Elaeagnus thunbergii Serv.
【分布・生態】低地や山地で見られる低木。葉の裏面は銀色になる。

【分類】クマツヅラ科
【種名】タイワンウオクサギ
【学名】Premna corymbosa (Burm. f.) Rottb. & Willd. var. obtusifolia (R. Br.) Fletcher
【分布・生態】海岸近くに生える常緑小高木。2mm 程の多数の小さな花が集まって皿状に付く。果実は黒熟する。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】マメ科
【種名】タイワンクズ
【学名】Pueraria montana (Lour.) Merr.
【分布・生態】日当たりのよい林縁や道ばたなどで見られるつる性の草本。長さ 10m ほどになる。

【分類】キク科
【種名】タイワンハチジョウナ
【学名】Sonchus arvensis L.
【分布・生態】ヨーロッパ原産。荒地や道端に生える多年草。茎は高さ 10～60cm。花は径 3cm 位で黄色、6～10 月に咲く。

【分類】クマツヅラ科
【種名】タイワンレンギョウ
【学名】Duranta erecta L.
【分布・生態】南アメリカ原産。生垣によく植栽される。高さ 2～3m。花は 1.5cm で薄紫色、周年開花する。果実は黄色で丸く、生け花に使われる。

【分類】キク科
【種名】タカサブロウ
【学名】Eclipta prostrata (L.) L.
【分布・生態】道ばたの溝など湿った場所やあぜ道などで見られる草本。高さ 60 cm ほどになる。

【分類】クマツヅラ科
【種名】ダキバアレチハナガサ
【学名】Verbena incompta Michael
【分布・生態】南アメリカ原産の帰化植物。日当たりのよい裸地、礫地、草地などに生える。高さ 1.5m程になり、花は淡紫色。

【分類】マメ科
【種名】タチシバハギ
【学名】Desmodium canum (Gmel.) Schinz & Thellung
【分布・生態】道ばたなどで見られる草本。高さ 50 cmほどになる。紅紫色の小さな花が咲く。南アメリカ原産の外来種。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】シノブ科
【種名】タマシダ
【学名】Nephrolepis auriculata (L.) Trimen
【分布・生態】山地の林縁から民家の周辺までいたる場所でみられるシダ植物。根には水分をたくわえる丸いたまがある。

【分類】キク科
【種名】ツクシメナモミ
【学名】Siegesbeckia orientalis L.
【分布・生態】林縁や道ばたで見られる草本。高さ 1mほどになる。

【分類】タデ科
【種名】ツルソバ
【学名】Polygonum chinense L.
【分布・生態】畑地や道ばたなどで見られる草本。地上を這うように成長する。

【分類】ザクロソウ科
【種名】ツルナ
【学名】Tetragonia tetragonioides (Pall.) O. K.
【分布・生態】海岸の砂地などによく生える多肉質の草本。葉は食べられる。

【分類】キク科
【種名】ツワブキ
【学名】Farfugium japonicum (L. f.) Kitam.
【分布・生態】海岸から山地の道端に生える。厚くツヤのある丸い葉で、12～2 月に黄色い花を咲かせる。街路樹等の下草として利用されている。

【分類】マメ科
【種名】デイゴ
【学名】Erythrina orientalis (L.) Murr.
【分布・生態】 街路樹や公園木として見られる高木。沖縄の県花として指定されている。インド原産の外来種。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】ブドウ科
【種名】テリハノブドウ
【学名】Ampelopsis brevipedunculata (Maxim.) Trautv. var. hancei (Planch.) Rehd.
【分布・生態】海岸近くの石灰岩地から山地林縁にかけてみられるつる性植物。花は淡緑色で、直径 3mm 程。

【分類】アヤメ科
【種名】トウショウブ
【学名】Gladiolus × gandavensis v. Houtte
【分布・生態】アフリカ原産。茎は高さ 80～100cm、花は茎の片側に付き下から咲く。花色は赤、薄紅、白、黄、斑入り等様々。観賞用。

【分類】トウダイグサ科
【種名】トウダイグサ
【学名】Euphorbia helioscopia L.
【分布・生態】畑地や道ばたで見られる草本。高さ 40 cmほどになる。昔の燈台に形が似ていることからこの名がついた。

【分類】シソ科
【種名】トウバナ
【学名】Clinopodium gracile (Benth.) O. K.
【分布・生態】畑地や山地の道ばたに生える小型の草本。ピンク色の 5mm 程の小さな花を咲かせる。

【分類】ユリ科
【種名】トキワカンゾウ(アキノワスレグサ)
【学名】Hemerocallis fulva (L.) L. var. sempervirens (Araki) M. Hotta
【分布・生態】日本・台湾原産。葉は先の方で反り返る。花は橙黄色でロート形、根は黄色で所々がふくらむ。薬用として宅地や畑で栽培される。

【分類】パンヤ科
【種名】トックリキワタ
【学名】Chorisia speciosa St. Hil.
【分布・生態】街路樹などで見られる高木。種子は綿状の繊維に包まれ、幹がトックリの形に似ていることからこの名がついた。ブラジル原産の外来種。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】ヤシ科
【種名】トックリヤシ
【学名】Mascarena lagenicaulis (Mart.) L. H. Bailey
【分布・生態】公園などで見られるヤシの木。成長が非常に遅く、高さ2mほどのものがよく見られる。幹の下部がふくらんでトックリ状になることからこの名がついた。

【分類】マンサク科
【種名】イスノキ
【学名】Distylium racemosum S. & Z.
【分布・生態】山地で見られる高木。高さ 20mほどになる。材木や街路樹としても利用される。

【分類】フサシダ科
【種名】ナガバカニクサ
【学名】Lygodium japonicum (Thunb.) Sw. var. microstachyum (Desv.) Tard. & C. Chr.
【分布・生態】道端や低地林縁等に普通に生えるつる状シダ植物。和名は子供がこのつるでカニ釣りをして遊んだことから。

【分類】アカネ科
【種名】ナガミボチョウジ
【学名】Psychotria manillensis Bartl. ex DC.
【分布・生態】石灰岩地の樹林内に多くみられる低木。高さ 1～2m程になる。花は白色で小さい。

【分類】オシロイバナ科
【種名】ナハカノコソウ
【学名】Boerhavia diffusa L.
【分布・生態】主に海岸の岩場に生える草本。ピンク色の小さな花が咲く。

【分類】トウダイグサ科
【種名】ナンキンハゼ
【学名】Sapium sebiferum (L.) Roxb.
【分布・生態】中国原産の落葉高木。花は細長い房状で黄緑色、4～6 月に枝先に咲く。街路樹や公園木として植栽される。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】メギ科
【種名】ナンテン
【学名】Nandina domestica Thunb.
【分布・生態】高さ 1～3m。花は白色で径 6mm 程、枝先に多数付く。果実は秋～冬に赤熟して美しい。庭木や生け花、咳止めの薬用に利用される。

【分類】トウダイグサ科
【種名】ニシキアカリファ
【学名】Acalypha wilkesiana Muell.-Arg. var. marginata Moore cv. Musaica
【分布・生態】太平洋諸島原産。アカリファの葉色は赤色、緑青銅色、緑色、斑入り等があり、様々な園芸品種がある。生垣等に利用される。

【分類】キョウチクトウ科
【種名】ニチニチソウ
【学名】Catharanthus roseus (L.) G. Don
【分布・生態】西インド諸島原産。ピンク色や白色の花を毎日咲かせる。花壇などに植えられる。

【分類】イネ科
【種名】ネズミノオ
【学名】Sporobolus fertilis (Steud.) W. D. Clayton
【分布・生態】株立ちになる。道端、荒地に多い。穂は細長く灰緑色で 15～40cm。花は 9～11 月。種名は「ネズミの尾」という意味で、穂の形と色による。

【分類】ヒユ科
【種名】ノゲイトウ
【学名】Celosia argentea L.
【分布・生態】熱帯アメリカ原産の帰化植物。茎は直立して 1m 程になる。花は白色～淡紅色。

【分類】キク科
【種名】ハイアワユキセンダングサ
【学名】Bidens pilosa L. var. radiata Sch.-Bip. f. decumbens Sherff
【分布・生態】 道ばたなどで見られる草本。別名ハイシロノセンダングサ。北アメリカ原産の外来種。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】イネ科
【種名】ハイシバ
【学名】Lepturus repens (G. Forst.) R. Br.
【分布・生態】 海岸近くに生えるほふく性の草本。葉の縁は少し内側に巻く。

【分類】マメ科
【種名】ハギカズラ
【学名】Galactia tashiroi Maxim.
【分布・生態】 主に海岸の岩場に生えるつる性の草本。ピンク色をした小さな花が咲く。

【分類】ウルシ科
【種名】ハゼノキ
【学名】Rhus succedanea L.
【分布・生態】 低地から山地にみられる落葉高木。高さ 6～10m。県内では数少ない紅葉樹の一つ。花は緑黄色で 4～5 月に咲く。かぶれる。

【分類】シシガシラ科
【種名】ハチジョウカグマ
【学名】Woodwardia orientalis Sw. var. formosana Rosenst.
【分布・生態】 やや湿り気のある斜面や崖地などに生えるシダ植物。葉の表面にたくさんの小さな芽をつけることから、「タイワンコモチシダ」とも呼ばれる。

【分類】イネ科
【種名】ハナカモノハシ
【学名】Ischaemum aureum (Hook. & Arn.) Hack.
【分布・生態】 海岸の岩場に生える草本。穂の長さは 3～5 cm。

【分類】トウダイグサ科
【種名】ハナキリン
【学名】Euphorbia milii Ch. des Moulinus ex DC. var. splendens (Boj. ex Hook.) Urecht & Leandri
【分布・生態】 マダガスカル原産。枝にたくさんの太い刺がある。花は紅色等、枝先に付き、ほぼ周年咲いている。公園や鉢物でみられる。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】クワ科
【種名】ハマイヌビワ
【学名】Ficus virgata Reinw. ex Bl.
【分布・生態】 海岸近くの石灰岩地などで見られる中高木。高さ8mほどになる。

【分類】ヒガンバナ科
【種名】ハマオモト
【学名】Crinum asiaticum L. var. japonicum Baker
【分布・生態】 海岸の砂地に生える草本。夜中に白い花が咲いて、強い香りを放つ。

【分類】クマツヅラ科
【種名】ハマクマツヅラ
【学名】Verbena litoralis H. B. K.
【分布・生態】 道ばたなどで見られる草本。花は小さく淡い青色。北アメリカ原産の外来種。

【分類】マメ科
【種名】ハマササゲ(ハマアズキ)
【学名】Vigna marina (Burm.) Merrill
【分布・生態】 砂浜に生えるほふく性またはつる性の草本。黄色の花が咲く。

【分類】ツバキ科
【種名】ハマヒサカキ
【学名】Eurya emarginata (Thunb.) Makino
【分布・生態】 海岸近くや低地に生える。葉は濃緑色で光沢がある。花は白く径6mm 程で 1～3 月に咲く。生垣等に利用される。

【分類】クスノキ科
【種名】ハマビワ
【学名】Litsea japonica (Thunb.) Juss.
【分布・生態】 海岸近くの林中に生える。高さ 7～8m。葉はビワに似ていて裏面は黄褐色。花は直径 1cm で 10～12 月に葉の付け根に咲く。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】サクラソウ科
【種名】ハマボッス
【学名】Lysimachia mauritiana Lam.
【分布・生態】 海岸の砂地や岩場に生える草本。白色またはピンク色をした小さな花が咲く。

【分類】ニシキギ科
【種名】ハリツルマサキ
【学名】Maytenus diversifolia (Maxim.) Ding Hou
【分布・生態】 海岸近くで見られる低木。とげがある。盆栽などで利用される。

【分類】フトモモ科
【種名】バンジロウ
【学名】Psidium guajava L.
【分布・生態】 メキシコ原産。常緑小高木。花は白色で径 2.5cm、4～5 月に咲く。果実は丸く 4～5cm。グアバと呼ばれ果実やお茶が売られている。

【分類】トウダイグサ科
【種名】ヒマ(トウゴマ)
【学名】Ricinus communis L.
【分布・生態】 明るい草地などに生える高さ 2m 程になる草本。東アフリカ原産の外来種。種子からヒマシ油がとれる。

【分類】カヤツリグサ科
【種名】ヒメアオスゲ
【学名】Carex breviculmis R. Br. var. discoidea (Boott) Boott
【分布・生態】海岸近くの草地や明るい林内に生える。葉は細長く幅 1～2mm。4～5 月に実をつける。本州～九州、琉球列島、小笠原に分布する。

【分類】シソ科
【種名】ヒメキランソウ
【学名】Ajuga pygmaea A. Gray
【分布・生態】海岸近くに生える小型の草本。1 cmほどの紫色の花が咲く。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】クロウメモドキ科
【種名】ヒメクマヤナギ
【学名】Berchemia lineata (L.) DC
【分布・生態】海岸近くの日当たりのよい原野に生える半つる性の低木。白い小さな花が咲く。実は食べられる。

【分類】キク科
【種名】ヒメジョオン
【学名】Stenactis annuus (L.) Cass.
【分布・生態】 北アメリカ原産。道端や空き地等に生える草本。高さ 30cm 以上になる。花は白色～薄ピンク色で中央は黄色、6～10 月に咲く。

【分類】キク科
【種名】ヒメムカシヨモギ
【学名】Conyza canadensis (L.) Cronq.
【分布・生態】 北アメリカ原産。空き地や道端等に生える草本。高さ 80～180cm。花は白色で中央は黄色、8～10 月に咲く。

【分類】ミカン科
【種名】ヒラミレモン（シィクワシャー）
【学名】Citrus depressa Hayata
【分布・生態】山野に生える常緑低木。果実は食用で栽培されている。花は白色。琉球の方言で、シーはすっぱい、クワーシャーは与える者の意味。

【分類】ヤシ科
【種名】ビロウ
【学名】Livistona chinensis (Jaq.) R. Br. ex Mart. var. subglobosa (Hassk.) Becc.
【分布・生態】 公園木や街路樹としてよく見られるが、琉球列島にもともと生えているヤシの木。方言ではクバと呼ばれ、葉は民芸品のクバ笠として使われる。

【分類】ムラサキ科
【種名】フクマンギ
【学名】Carmona retusa (Vahl) Masamune
【分布・生態】 琉球石灰岩地帯に生える常緑低木。枝は密生する。花は白色で4～11 月に咲く。葉には光沢があり毛がある。生垣等に利用される。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】アオイ科
【種名】ブッソウゲ
【学名】Hibiscus rosa-sinensis L.
【分布・生態】 中国南部・インド原産。高さ3m程度。花は赤色で周年開花する。成長が早く、田畑の防風林や生け垣などに利用される。

【分類】アカネ科
【種名】ヘクソカズラ
【学名】Paederia scandens (Lour.) Merr.
【分布・生態】海岸近くや低地などで見られるつる植物。悪臭がすることからこの名がついた。

【分類】アカネ科
【種名】ベニデマリ(コバノサンダンカ)
【学名】Ixora coccinea L.
【分布・生態】インド原産。小さな花が集まって付きアジサイのようになる。花は4～5月、赤、ピンク、黄色等の品種がある。生垣等に利用される。

【分類】クワ科
【種名】ベンガルボダイジュ
【学名】Ficus benghalensis L.
【分布・生態】 インド原産。高さは20m程になる。樹冠が傘状に広がり、緑陰樹や街路樹に利用される。葉は広卵形で20～30cm、光沢があり美しい。

【分類】キツネノマゴ科
【種名】ベンガルヤハズカズラ
【学名】Thunbergia grandiflora (Roxb. ex Rottb.) Roxb.
【分布・生態】 インド原産。青紫色の花がほぼ年中開花するが春先が最も美しい。建物やフェンスを覆うように広がる。

【分類】イネ科
【種名】ヘンリーメヒシバ
【学名】Digitaria henryi Rendle
【分布・生態】 海岸付近に生える多年草。茎は長く地面を這い、上部は斜上する。穂は白緑色で5～8cm。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】シノブ科
【種名】ホウビカンジュ
【学名】Nephrolepis biserrata (Sw.) Schott
【分布・生態】石灰岩地域の低地から山地にかけて、普通に見られる常緑の多年生シダ。長さ 1～1.3m 位の葉が垂れ下がって付く。

【分類】イノモトソウ科
【種名】ホウライシダ
【学名】Adiantum capillus-veneris L.
【分布・生態】岸壁や石垣などで見られる 20 cmほどの小型のシダ植物。観賞用として栽培されたりもする。

【分類】オシダ科
【種名】ホシダ
【学名】Thelypteris acuminata (Houtt.) Morton
【分布・生態】山地の林縁や民家の周辺などの日当たりのよい場所で見られるシダ植物。

【分類】クワ科
【種名】ホソバムクイヌビワ
【学名】Ficus ampelas Burm.f.
【分布・生態】低地から山地の林内や林縁に生える常緑の小高木、高さ 10m程になる。

【分類】オシダ科
【種名】ホラカグマ
【学名】Ctenitis eatoni (Bak.) Ching
【分布・生態】石灰岩地の崖地や岩壁などに生えるシダ植物。洞窟の入り口などのうす暗い場所でも生えることができる。

【分類】ホルトノキ科
【種名】ホルトノキ
【学名】Elaeocarpus sylvestris (Lour.) Poir.
【分布・生態】低地や山地で見られる高木。高さ 10mほどになり、街路樹などとしてもよく利用される。「浦添市民の木」とされている。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】ニシキギ科
【種名】マサキ
【学名】Euonymus japonicus Thunb.
【分布・生態】海岸近くに見られる低木。高さ5mほどになる。生垣や庭木としても栽培される。

【分類】セリ科
【種名】マツバゼリ
【学名】Apium leptophyllum (Pers.) F. Muell. ex Benth.
【分布・生態】熱帯アメリカ原産。高さ 15～70cm の一年草。葉は細く幅 1mm 程。花は白色。全体にセロリに似た香りがある。

【分類】マツバラン科
【種名】マツバラン
【学名】Psilotum nudum (L.) Beauv.
【分布・生態】通常樹上又は岩上に生える多年生常緑シダ。葉を持たず、茎を数本束生し高さ 10～40cmほどになる。

【分類】カタバミ科
【種名】ムラサキカタバミ
【学名】Oxalis corymbosa DC.
【分布・生態】 道ばたなどで見られる草本。淡い紅紫色の花が咲く。南アメリカ原産の外来種。外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で「要注意外来生物」に挙げられている。

【分類】イネ科
【種名】ムラサキヒゲシバ
【学名】Chloris barbata Sw.
【分布・生態】中央アメリカ原産。草地や道端に生える一年草。高さ 30～80cm。花は　8～10 月。穂は 6～14 本、長さ 5cm、紫色を帯びる。

【分類】ヤブコウジ科
【種名】モクタチバナ
【学名】Ardisia sieboldii Miq.
【分布・生態】山地で見られ、大きいものでは 10mほどになる木本。果実は食用となる。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】バラ科
【種名】モモ
【学名】Prunus persica (L.) Batsch
【分布・生態】中国北部原産。高さ 3～4m になる。花は桃紅色で 3 月頃、芳香がある。観賞用。果物として利用されるのは水蜜桃等の品種。

【分類】シクンシ科
【種名】モモタマナ(コバテイシ)
【学名】Terminalia catappa L.
【分布・生態】海岸近くで見られる高木。街路樹や公園木としてよく利用される。

【分類】アカネ科
【種名】ヤエムグラ
【学名】Galium aparine L. var. echinospermon (Wallroth) Cufod.
【分布・生態】畑地や道ばたなどで見られる草本。花は小さく黄緑色。

【分類】チャセンシダ科
【種名】ヤエヤマオオタニワタリ(ゴウシュウタニワタリ)
【学名】Asplenium setoi N.Murak. et Seriz.
【分布・生態】山地の樹上や岩上に生えるシダ植物。観賞用として栽培されたりもする。別名ミナミタニワタリ、リュウキュウトリノスシダ。

【分類】ヤシ科
【種名】ヤエヤマヤシ
【学名】Satakentia liukiuensis (Hats.) H. E. Moore
【分布・生態】世界でも石垣島と西表島にしか自生しない。日当たりの良い低地や山地を好む。街路樹、公園樹として利用されている。花は 4～6 月。

【分類】キツネノマゴ科
【種名】ヤナギバルイラソウ
【学名】Ruellia brittoniana Leonard
【分布・生態】道ばたなどで見られる草本。紫色の花が咲く。メキシコ原産の外来種。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】ブドウ科
【種名】ヤブカラシ
【学名】Cayratia japonica (Thunb.) Gagnep.
【分布・生態】日当たりのよい林縁や畑地などでみられるつる性の草本。

【分類】クスノキ科
【種名】ヤブニッケイ
【学名】Cinnamomum pseudo-pedunculatum Hayata
【分布・生態】海岸近くの山地などで見られる高木。葉をもむと芳香がある。

【分類】ユリ科
【種名】ヤブラン
【学名】Liriope muscari (Decne.) L. H. Bailey
【分布・生態】海岸近くの石灰岩地から林内に生える多年草。葉は細く 30～50cm。花は薄紫色で 8～10 月に円筒形の穂に多数付く。果実は黒紫色。

【分類】クワ科
【種名】ヤマグワ(シマグワ)
【学名】Morus australis Poir.
【分布・生態】海岸近くから低地で見られる 10mほどになる木本。実は食べられる。

【分類】クマツヅラ科
【種名】ランタナ(シチヘンゲ)
【学名】Lantana camara L. var. aculeata (L.) Moldenke
【分布・生態】 中南米原産。2～11 月に開花する。はじめ黄色、後にオレンジ色、赤色等に変化するため、別名シチヘンゲという。

【分類】カキノキ科
【種名】リュウキュウガキ
【学名】Diospyros maritima Bl.
【分布・生態】 石灰岩地帯に生える常緑の中高木、高さ 5～10m程になる。花は白色～淡黄色で、径 5mm 程度。果実は有毒。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】クロウメモドキ科
【種名】リュウキュウクロウメモドキ
【学名】Rhamnus liukiuensis (Wils.) Koidz.
【分布・生態】石灰岩地の林内で見られる亜高木。5mほどになる。

【分類】キョウチクトウ科
【種名】リュウキュウテイカカズラ
【学名】Trachelospermum asiaticum (S. & Z.) Nakai var. liukiuense (Hats.) Hatusima
【分布・生態】日当たりのよい山地林縁に多くみられる常緑のつる植物。花は白色で径 2～2.5cm 程度。

【分類】アオイ科
【種名】リュウキュウトロロアオイ
【学名】Abelmoschus moschatus (L.) Medicus
【分布・生態】河原や道ばたの湿地がかったところに生える一年生草本。草全体に粗毛がある。花は鮮黄色で直径 10～15cm。

【分類】キンポウゲ科
【種名】リュウキュウボタンヅル
【学名】Clematis grata Wall. var. ryukyuensis Tamura
【分布・生態】日当たりのよい荒地や林縁などで見られるつる性の草本。

【分類】ウラボシ科
【種名】リュウキュウマメヅタ
【学名】Lemmaphyllum spathulatum (Pr.) Presl
【分布・生態】岩の上や木の幹などでみられるシダ植物。茎はとても長く、はりつくように伸びる。

【分類】モクセイ科
【種名】リュウキュウモクセイ
【学名】Osmanthus marginatus (Champ. ex Benth.) Hemsl.
【分布・生態】山地で見られる高木。高さ 10mほどになり、黒色の実がつく。

浦添市生き物図鑑

植物

【分類】サクラソウ科
【種名】ルリハコベ
【学名】Anagallis arvensis L. f. caerulea (Schreb.) Baumg.
【分布・生態】畑地や道ばたなどで見られる草本。るり色の花を咲かせる。ヨーロッパ原産の外来種。

浦添市生き物図鑑

哺乳類 4 種類

浦添市生き物図鑑

哺乳類

【分類】コウモリ目　オオコウモリ科
【種名】オリイオオコウモリ
【学名】Pteropus dasymallus inopinatus
【分布・生態】 沖縄島の各地で見られる。昼間は樹林で休み、夜に活動する。おもに植物の果実を食べる。

【分類】モグラ目　トガリネズミ科
【種名】ジャコウネズミ
【学名】Suncus murinus
【分布・生態】 九州の一部の地域および南西諸島に分布する。尾は基部が著しく太く、先に向かって細くなる。市街地の人家の床下、農耕地周辺や河畔のヤブなどに生息する。各種の昆虫類や、ヒル、ミミズなどの小動物を捕食する。

【分類】ネコ目　マングース科
【種名】ジャワマングース
【学名】Herpestes javanicus
【分布・生態】 ハブやネズミの駆除のために放したものが沖縄島、奄美大島で野生化している。小型動物などを食べる。 外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で「特定外来生物」に指定されており、飼育、保管及び運搬、輸入することは原則禁止です。

【分類】モグラ目　トガリネズミ科
【種名】ワタセジネズミ
【学名】Crocidura watasei
【分布・生態】 沖縄島、与論島、伊江島などで見られる。草地などにすみ、小型昆虫類やクモ類を食べる。

浦添市生き物図鑑

鳥類 46 種類

浦添市生き物図鑑

鳥類

【分類】チドリ目　シギ科
【種名】アオアシシギ
【学名】Tringa nebularia
【分布・生態】 くちばしがやや長く上にそっている。足は長く緑青色がかっている。体の上の方は灰色で、腹は白い。県内では旅鳥として冬期に飛来する。

【分類】コウノトリ目　サギ科
【種名】アオサギ
【学名】Ardea cinerea
【分布・生態】 秋から春にかけて県内各地の水辺で見られる。浅地をゆっくり歩き、魚を捕らえる。

【分類】チドリ目　シギ科
【種名】アカアシシギ
【学名】Tringa totanus
【分布・生態】 くちばしのつけ根と足が赤い。白い腹に黒い模様が目立つ。県内には旅鳥として冬期に飛来する。

【分類】コウノトリ目　サギ科
【種名】アカガシラサギ
【学名】Ardeola bacchus
【分布・生態】 国内では観察される機会が少ないが、県内ではまれに冬鳥として飛来し越冬する。冬羽は頭から首まで茶褐色で、足は黄緑色、飛ぶと両翼が白い。各地の水田や河川、沼地でみられるが、警戒心が強く、姿を隠してしまう。

【分類】チドリ目　シギ科
【種名】イソシギ
【学名】Actitis hypoleucos
【分布・生態】 夏の一時期を除き県内各地の水辺で見られる。おもに水生昆虫を食べる。

【分類】スズメ目　ツグミ科
【種名】イソヒヨドリ
【学名】Monticola solitarius
【分布・生態】 一年を通し市街地などで普通に見られる。民家の屋根のひさしなどでも巣をつくるため身近な鳥である。小動物や木の実などを食べる。

浦添市生き物図鑑

鳥類

【分類】チドリ目　カモメ科
【種名】エリグロアジサシ
【学名】Sterna sumatrana
【分布・生態】 全長 30cmくらいで、全身が白く、眼の後ろから頭の後ろまで黒いラインが目立つ。沖縄では夏鳥で、無人島の崖などに巣を作る。

【分類】ブッポウソウ目　カワセミ科
【種名】カワセミ
【学名】Alcedo atthis
【分布・生態】 方言名は「カーラカンジュー」。小さい、鮮やかなコバルトブルーの背中とオレンジのお腹で、大きな黒いくちばしをもつ、とても美しい鳥。枝にとまったりホバリングをして餌の小魚を探し、見つけると一直線にダイビングして捕まえる。

【分類】ハト目　ハト科
【種名】カワラバト(ドバト)
【学名】Columba livia
【分布・生態】 一年を通し市街地の公園などで普通に見られ、木の実などを食べる。本来は沖縄島にいなかった鳥である。

【分類】チドリ目　シギ科
【種名】キアシシギ
【学名】Heteroscelus brevipes
【分布・生態】 夏の一時期を除き県内各地の海岸などで見られる。黄色い足が特徴的な鳥で、ゴカイなどを食べる。

【分類】ハト目　ハト科
【種名】キジバト
【学名】Streptopelia orientalis
【分布・生態】 一年を通し県内各地の畑から市街地までのいたるところで見られ、木の実などを食べる。

浦添市生き物図鑑

鳥類

【分類】チドリ目　シギ科
【種名】キョウジョシギ
【学名】Arenaria interpres
【分布・生態】夏の一時期を除き県内各地の海岸などで見られる。英名でターンストーン（石ころがし）というように、小石などをひっくり返して小さなカニなどを食べる。

【分類】コウノトリ目　サギ科
【種名】クロサギ
【学名】Ardea cinerea
【分布・生態】 秋から春にかけて県内各地の水辺で見られる。浅瀬をゆっくり歩き、魚を捕まえる。

【分類】チドリ目　カモメ科
【種名】コアジサシ
【学名】Sterna albifrons
【分布・生態】シの中で一番小さい。夏羽は頭が黒く、背中はうすい灰色、くちばしが黄色で先が黒い。沖縄では夏鳥で、海岸や埋立地で繁殖している。

【分類】コウノトリ目　サギ科
【種名】ゴイサギ
【学名】Nycticorax nycticorax
【分布・生態】 一年を通し県内各地の水辺にすみ、おもに魚を食べる。県内では夜行性でガァガァ鳴くことから「ユーガラサー（夜ガラス）」と呼ばれている。

【分類】カモ目　カモ科
【種名】コガモ
【学名】Anas crecca
【分布・生態】 国内のカモ類でが最小で、ハトよりやや大きい程度。雄は栗褐色の頭で、ほおの緑色部分が目立つ。県内では最も飛来数の多いカモで、冬期に湖沼やダム湖、河川などで群れでみられる。

【分類】コウノトリ目　サギ科
【種名】コサギ
【学名】Egretta garzetta
【分布・生態】 くちばしと足は黒く、足指だけが黄色味をおびるのが特徴。県内には冬期に各地に飛来し越冬する。

浦添市生き物図鑑

鳥類

【分類】スズメ目　ヒタキ科
【種名】コサメビタキ
【学名】Muscicapa dauurica
【分布・生態】 背側は灰褐色で、目の周りと腹側は白色。枝の先にとまり、飛んでいる虫を食べているのがよく見られる。

【分類】チドリ目　チドリ科
【種名】コチドリ
【学名】Charadrius dubius
【分布・生態】 日本で繁殖するチドリの中では一番小さく、スズメよりやや大きいくらい。目のまわりの黄色い輪が特徴的で、足も黄色い。内陸の湿地や水田で水生昆虫などを餌にする。

【分類】コウノトリ目　サギ科
【種名】ササゴイ
【学名】Butorides striatus
【分布・生態】 秋から春にかけて県内各地の水辺で見られ、おもに魚を食べる。

【分類】タカ目　タカ科
【種名】サシバ
【学名】Butastur indicus
【分布・生態】 県内では10月から3月にかけて見られる。森林などにすみ、ヘビ、トカゲなどを食べる。

【分類】スズメ目　シジュウカラ科
【種名】シジュウカラ
【学名】Parus major
【分布・生態】 一年を通し県内各地の山や平地の林などにすみ、昆虫などを食べる。方言名は鳴き声から「シーシーチョッチョウ」。

【分類】スズメ目　カエデチョウ科
【種名】シマキンパラ
【学名】Lonchura punctulata
【分布・生態】 外来種。頭部と背面は、緑かっ色で、胸のアミ目模様が特徴的。

浦添市生き物図鑑

鳥類

【分類】スズメ目　ヒヨドリ科
【種名】シロガシラ
【学名】Pycnonotus sinensis
【分布・生態】 一年を通し県内各地の草原などで見られ、昆虫などを食べる。本来沖縄島にはいなかった鳥で、人の手によって放され広がっていったと考えられている。

【分類】チドリ目　チドリ科
【種名】シロチドリ
【学名】Charadrius alexandrinus
【分布・生態】羽は背中側は灰褐色、くちばしと脚は黒。沖縄では留鳥で、一年中見ることができ、県内で繁殖する唯一のチドリ類。海岸や埋立地で繁殖している。

【分類】スズメ目　ツグミ科
【種名】シロハラ
【学名】Turdus pallidus
【分布・生態】 沖縄では冬鳥。下草の茂った林に住み、地上で落ち葉をはねのけて、ミミズや昆虫などを探して食べる。

【分類】スズメ目　ハタオリドリ科
【種名】スズメ
【学名】Passer montanus
【分布・生態】 一年を通し民家の近くなどで普通に見られ、昆虫などを食べる。

【分類】チドリ目　セイタカシギ科
【種名】セイタカシギ
【学名】Himantopus himantopus
【分布・生態】 県内には冬鳥として、河口部、干潟、内陸湿地に飛来し、越冬する。ピンクの細長い足が鮮やかで、くちばしはまっすぐで細長く、上手に昆虫や小魚を捕まえて食べる。体の上のほうは光沢のある黒で、腰や尾は白。

【分類】コウノトリ目　サギ科
【種名】ダイサギ
【学名】Egretta alba
【分布・生態】 シラサギ類では最大の種。全身白色で、夏にはくちばしは黒く、冬は黄色になる。首を長く伸ばし、川岸や干潟をゆっくり歩き餌を採る。

浦添市生き物図鑑

鳥類

【分類】チドリ目　シギ科
【種名】チュウシャクシギ
【学名】Numenius phaeopus
【分布・生態】 秋から春にかけて県内各地の河口や干潟で見られ、カニなどを食べる。

【分類】スズメ目　ツバメ科
【種名】ツバメ
【学名】Hirundo rustica
【分布・生態】 春と秋に県内各地の畑や水辺で見られる。空中を素早く飛びながら、飛んでいる虫を捕らえる。

【分類】タカ目　タカ科
【種名】ツミ
【学名】Accipiter gularis
【分布・生態】 県内各地の山地や平地の森林にすむ。餌としてネズミや小鳥などを捕まえる。最近、市街地での繁殖例が増えている。

【分類】スズメ目　セキレイ科
【種名】ハクセキレイ
【学名】Motacilla alba
【分布・生態】 主に海岸や川の下流域に生息し、水辺を活発に歩きながら昆虫などの小動物を捕らえる。白と黒が目立ち、尾を上下させながら歩いている。

【分類】ツル目　クイナ科
【種名】バン
【学名】Gallinula chloropus
【分布・生態】一年を通し県内各地の水辺で見られる。昆虫や貝などの小動物を食べる。方言名で「クミラー」と呼ばれている。

【分類】スズメ目　ヒヨドリ科
【種名】ヒヨドリ
【学名】Hypsipetes amaurotis
【分布・生態】 一年を通し県内各地の森や市街地などで見られる。昆虫をはじめ、木の実、花の蜜などを食べる。鳴き声から方言名「スーサー」と呼ばれている。

浦添市生き物図鑑

鳥類

【分類】チドリ目　カモメ科
【種名】ベニアジサシ
【学名】Sterna dougallii
【分布・生態】 全長 33cmくらいで、夏羽は頭が黒、背がうすい青灰色、くちばしと脚が赤く目立っている。沖縄では夏鳥で、小島などの岩礁に巣を作る。

【分類】タカ目　タカ科
【種名】ミサゴ
【学名】Pandion haliaetus
【分布・生態】 つばさをひろげると約 1m60cm もある大型のタカ。飛んでるところをみると、下面の白が目立つ。魚を捕らえて食べるので、よく海や湖の上空でホバリング（停空飛翔）しているのがみられる。沖縄では冬鳥。

【分類】チドリ目　チドリ科
【種名】ムナグロ
【学名】Pluvialis fulva
【分布・生態】 全長 25cmくらいで、背中側は黒～黄色に白い細かいまだら模様。くちばしと脚は黒い。夏は腹側の全体が黒くなる。沖縄では冬鳥で、チドリ類の中でもっとも多くみられる。畑、草地～干潟、海岸などでみられる。

【分類】スズメ目　メジロ科
【種名】メジロ
【学名】Zosterops japonicus
【分布・生態】 一年を通し県内各地の森などにすみ、昆虫をはじめ花の蜜、木の実などを食べる。方言名は「ソーミナー」。

【分類】チドリ目　チドリ科
【種名】メダイチドリ
【学名】Charadrius mongolus
【分布・生態】 全長 20cmくらいで、背中側は灰褐色、夏は脚がだいだい色、冬は胸部が茶色。沖縄では冬鳥で、海岸や干潟でふつうにみられる。

【分類】フクロウ目　フクロウ科
【種名】リュウキュウアオバズク
【学名】Ninox scutulata totogo
【分布・生態】 平地から山地の森林に生息し、樹洞で繁殖するが、人工物や樹木の根元を利用して繁殖することもある。餌は昆虫類を好む。ホウホウ、ホウホウと低い声で鳴く。方言名はマヤージクク。

浦添市生き物図鑑

鳥類

【分類】キツツキ目　キツツキ科
【種名】リュウキュウコゲラ
【学名】Dendrocopos kizuki nigrescens
【分布・生態】 国内に生息するキツツキの仲間では最も小さく、スズメほどの大きさ。基亜種コゲラよりも小さく、色もより黒みを帯びる。沖縄島中部から北部の常緑広葉樹林を中心に生息するが、住宅地近くでも観察される。

【分類】スズメ目　サンショウクイ科
【種名】リュウキュウサンショウクイ
【学名】Pericrocotus divaricatus tegimae
【分布・生態】 全長 20cm、尾が長く、体は細い。背面は青灰色、下面は白色、脇は灰色。森林地域を主な生息地とするが、沖縄島では緑地の比較的多い市街地でも生息し、住宅街における繁殖例が知られている。ヒリヒリー、ヒリリーと飛びながら鳴く。

【分類】スズメ目　ツバメ科
【種名】リュウキュウツバメ
【学名】Hirundo tahitica
【分布・生態】 沖縄諸島で一年を通して見られる。橋げたや軒下に巣を作る。

【分類】コウノトリ目　サギ科
【種名】リュウキュウヨシゴイ
【学名】Ixobrychus cinnamomeus
【分布・生態】 国内では奄美諸島以南の島々に留鳥として生息する。全長 40cm。全身赤味のある栗色で、くちばしは黄色をおびる。雄はのどから胸にかけてV字型の斑点模様があり、雌は体の上面が暗い栗色のしま模様で下面は縦縞がある。生息場所は水田、湿地、河川沿いなどで、海岸にいることもある。田イモ畑やイ草畑などで、カエルや小魚類を採餌する。

浦添市生き物図鑑

爬虫類 13 種類

浦添市生き物図鑑

爬虫類

【分類】トカゲ目（有鱗目） カナヘビ科
【種名】アオカナヘビ
【学名】Takydromus smaragdinus
【分布・生態】 沖縄島、久米島などの草地やサトウキビ畑でよく見られる。昆虫などを食べる。

【分類】トカゲ目（有鱗目） ナミヘビ科
【種名】アカマタ
【学名】Dinodon semicarinatum
【分布・生態】 沖縄諸島、奄美諸島の森林から平地までの広い範囲で見られ、ヘビやトカゲ、鳥などを食べる。

【分類】トカゲ目（有鱗目） コブラ科
【種名】イイジマウミヘビ
【学名】Emydocephalus ijimae
【分布・生態】琉球列島の沿岸にすむ。長さ 50～90cm。頭は丸く、カメに似ている。昼間に、魚の卵をサンゴや海草などからむしり取って食べる。陸上では活動しない。

【分類】トカゲ目（有鱗目） アガマ科
【種名】オキナワキノボリトカゲ
【学名】Japalura polygonata polygonata
【分布・生態】 沖縄諸島、奄美諸島の森林などで見られる。おもに木の上で生活し、昆虫などを食べる。「アータクー」と呼ばれたりするが、地域によって呼び名が異なる。

【分類】トカゲ目（有鱗目） トカゲ科
【種名】オキナワトカゲ
【学名】Plestiodon marginatus marginatus
【分布・生態】 草むらや岩場、畑、人家付近など比較的開けたところにすみ、地面にいる虫などを食べる。日本固有種。沖縄島ではマングースの移入により減少している。

【分類】カメ目 スッポン科
【種名】チュウゴクスッポン
【学名】Pelodiscus sinensis sinensis
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの河川や池、沼で見られ、魚や貝類などを食べる。養殖されていたものが逃げたり捨てられたりして、野生化している。 外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で「要注意外来生物」に挙げられている。

浦添市生き物図鑑

爬虫類

【分類】トカゲ目（有鱗目） クサリヘビ科
【種名】ハブ
【学名】Protobothrops flavoviridis
【分布・生態】 全長 100～200cm、最大で 250cm にもなる大型のヘビ。黄色か白色の地に黒い網模様の入った体、そして大きな三角形の頭が特徴。夜行性で、餌は魚類から鳥類、哺乳類まで様々な動物を捕るが、餌の最も大きな割合を占めるのはクマネズミ・ドブネズミ類。地上でも樹上でも活動する 。冬季は活動性は下がるものの冬眠はしない 。 飼育下での寿命は 20 年を超えるハブの毒は出血毒と呼ばれ、噛まれた傷から体内に入ると血管や筋肉といった組織を破壊する。噛まれた場合は急いで病院で血清治療を行うが、後遺症が残る場合もある。

【分類】トカゲ目（有鱗目） コブラ科
【種名】ヒロオウミヘビ
【学名】Laticauda laticaudata
【分布・生態】南西諸島の沿岸にすむ。長さ 70～120cm。海岸の岩場にかくれているが、夜、海に入って魚を食べる。陸上で産卵する。 同じ沖縄近海にすむウミヘビでも、ウミヘビ亜科のなかまであるクロガシラウミヘビなどよりも、かむことは少なく、筋肉を溶かす毒ももっていない。しかしウミヘビ類の持つ神経毒は、ヘビのなかまの毒の中で最も強く、命の危険があるため十分に気をつける必要がある。

【分類】トカゲ目（有鱗目） トカゲ科
【種名】ヘリグロヒメトカゲ
【学名】Ateuchosaurus pellopleurus
【分布・生態】 沖縄諸島、奄美諸島の森林の落ち葉の下などで見られる。日当たりの悪い湿った環境を好み、昆虫などを食べる。

【分類】トカゲ目（有鱗目） ヤモリ科
【種名】ホオグロヤモリ
【学名】Hemidactylus frenatus
【分布・生態】 県内各地の家屋やその周辺でよく見られ、昆虫などを食べる。春から秋、とくに夕暮れ時に「キョッキョッキョッ」と鳴くのが聞かれる。方言名は「ヤールー」。

【分類】カメ目 ヌマガメ科
【種名】ミシシッピアカミミガメ
【学名】Trachemys scripta elegans
【分布・生態】 沖縄島などの河川や池、沼で見られ、魚やエビなどを食べる。子ガメはミドリガメの名でよく店頭で見られ、ペットとして飼われていたものが逃げたり捨てられたりして野生化している。

【分類】カメ目 イシガメ科
【種名】ミナミイシガメ
【学名】Mauremys mutica
【分布・生態】 沖縄島、八重山諸島などの河川や池、沼で見られ、魚やエビなどを食べる。沖縄島のものは人が持ち込んだ可能性が高い。

浦添市生き物図鑑

爬虫類

【分類】トカゲ目（有鱗目） ヤモリ科
【種名】ミナミヤモリ
【学名】Gekko hokouensis
【分布・生態】 県内各地の森林などの樹木や、夜間照明のない建物の壁などで見られる。昆虫などを食べる。

浦添市生き物図鑑

両生類 5 種類

浦添市生き物図鑑

両生類

【分類】カエル目（無尾目） アオガエル科
【種名】オキナワアオガエル
【学名】Rhacophorus viridis viridis
【分布・生態】 沖縄本島、伊平屋島に分布。森林性で、樹木の枝や葉の上にいることが多い。水辺近くの植物の葉や、地面の窪みなどに泡状の卵塊を産む。

【分類】カエル目（無尾目） アオガエル科
【種名】シロアゴガエル
【学名】Polypedates leucomystax
【分布・生態】 沖縄島、ネパールから東南アジアに分布。外来種で、米軍の軍事物資にまぎれて原産地のインドシナ半島から侵入したと考えられる。市街地や耕作地に多く住んでいる。　外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で「特定外来生物」に指定されており、飼育、保管及び運搬、輸入することは原則禁止です。卵や幼生（オタマジャクシ）でも同じです。つかまえても持ち帰ったりせず、その場ですぐにはなしましょう。

【分類】カエル目（無尾目） アカガエル科
【種名】ヌマガエル
【学名】Fejervarya limnocharis
【分布・生態】 体長は 3cm-5cm ほどで、背中側は灰褐色のまだら模様。水田や湿地、池、川などの水辺に多く生息するが、水辺から離れた畑や草原などでも見られる。おもに小型の昆虫類を捕食する。

【分類】カエル目（無尾目） ヒメアマガエル科
【種名】ヒメアマガエル
【学名】Microhyla okinavensis
【分布・生態】 県内各地の海岸付近から山地まで広い範囲で見られ、アリやダニ類などを食べる。オタマジャクシの体は半透明で他のカエルとは簡単に見分けられる。

【分類】カエル目（無尾目） アオガエル科
【種名】リュウキュウカジカガエル
【学名】Buergeria japonica
【分布・生態】 県内各地の海岸付近から山地までの広い範囲で見られ、昆虫やクモ類などを食べる。鳴き声は「リーリーリー」と澄んだ声で、コオロギのようにも聞こえる。

浦添市生き物図鑑

両生類 5 種類

浦添市生き物図鑑

両生類

【分類】カエル目（無尾目） アオガエル科
【種名】オキナワアオガエル
【学名】Rhacophorus viridis viridis
【分布・生態】 沖縄本島、伊平屋島に分布。森林性で、樹木の枝や葉の上にいることが多い。水辺近くの植物の葉や、地面の窪みなどに泡状の卵塊を産む。

【分類】カエル目（無尾目） アオガエル科
【種名】シロアゴガエル
【学名】Polypedates leucomystax
【分布・生態】 沖縄島、ネパールから東南アジアに分布。外来種で、米軍の軍事物資にまぎれて原産地のインドシナ半島から侵入したと考えられる。市街地や耕作地に多く住んでいる。 外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で「特定外来生物」に指定されており、飼育、保管及び運搬、輸入することは原則禁止です。卵や幼生（オタマジャクシ）でも同じです。つかまえても持ち帰ったりせず、その場ですぐにはなしましょう。

【分類】カエル目（無尾目） アカガエル科
【種名】ヌマガエル
【学名】Fejervarya limnocharis
【分布・生態】 体長は 3cm-5cm ほどで、背中側は灰褐色のまだら模様。水田や湿地、池、川などの水辺に多く生息するが、水辺から離れた畑や草原などでも見られる。おもに小型の昆虫類を捕食する。

【分類】カエル目（無尾目） ヒメアマガエル科
【種名】ヒメアマガエル
【学名】Microhyla okinavensis
【分布・生態】 県内各地の海岸付近から山地まで広い範囲で見られ、アリやダニ類などを食べる。オタマジャクシの体は半透明で他のカエルとは簡単に見分けられる。

【分類】カエル目（無尾目） アオガエル科
【種名】リュウキュウカジカガエル
【学名】Buergeria japonica
【分布・生態】 県内各地の海岸付近から山地までの広い範囲で見られ、昆虫やクモ類などを食べる。鳴き声は「リーリーリー」と澄んだ声で、コオロギのようにも聞こえる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類 103 種類

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】チョウ目 アゲハチョウ科
【種名】アオスジアゲハ
【学名】Graphium sarpedon
【分布・生態】 琉球列島でほぼ一年を通し林の周りなどで見ることができる。花の蜜を吸うだけでなく水辺で吸水する姿も見られる。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】アオタテハモドキ
【学名】Junonia orithya
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの草地や農道で見ることができる。本来沖縄島では見られなかったが、数年前に八重山諸島から迷い込んで繁殖し、最近ではよく見られるようになった。

【分類】ヨコバイ目　アオバハゴロモ科
【種名】アオバハゴロモ
【学名】Geisha distinctissima
【分布・生態】 国外では台湾、中国、国内では本州から琉球列島まで分布する。体長9～11mm で、5～11 月に見られる。子虫は白い粉状の分泌物の覆われる。ミカン科、クスノキ科、バラ科、クワ科などを寄主とする。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】アカタテハ
【学名】Vanessa indica
【分布・生態】 琉球列島各地の林の周りで一年中見られる。花の蜜の他に、樹液や動物の糞などの汁を吸うこともある。

【分類】トンボ目 イトトンボ科
【種名】アカナガイトトンボ
【学名】Pseudagrion pilidorsum
【分布・生態】 沖縄島、久米島などの水辺にすみ、特にわき水などきれいな水路や川の周り多い。成虫は春から秋の終わりにかけてよく見られる。

【分類】カメムシ目　ホシカメムシ科
【種名】アカホシカメムシ
【学名】Dysdercus cingulatus
【分布・生態】 国内では琉球列島と九州に分布。沖縄ではごくふつうにみられる種。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】カメムシ目　アメンボ科
【種名】アマミアメンボ
【学名】Gerris paludum amamiensis
【分布・生態】 沖縄にいる大型アメンボ。体、脚は黒色。体側は銀灰色。池や沼、河川で普通に見られる。

【分類】チョウ目　シジミチョウ科
【種名】アマミウラナミシジミ
【学名】Nacaduba kurava
【分布・生態】 奄美諸島、沖縄諸島などの人里から山地まで林縁部でよく見られる。沖縄では冬の寒い時期をのぞいて、ほぼ一年中みられる。

【分類】ゴキブリ目　チャバネゴキブリ科
【種名】アミメヒラタゴキブリ
【学名】Onychostylus notulatus
【分布・生態】 沖縄・八重山諸島～マレーシアに分布。林の中の樹の、葉の間に住む。すばやくよく飛ぶ。

【分類】チョウ目　カイコガ科
【種名】イチジクカサン
【学名】Trilocha varians
【分布・生態】 国外では台湾、中国、インドなど、国内では沖縄島以南に分布する。開長は雄 20mm、雌 25mm 内外で、石垣島では 1 月、西表島では 5 月に採集されている。中国では 4～10 月まで多化する。台湾ではイチジク、ガジュマルの害虫として知られている。

【分類】コウチュウ目 カミキリムシ科
【種名】イチジクカミキリ
【学名】Batocera rubus
【分布・生態】大型のカミキリムシで、幼虫はガジュマルなどに寄生する。沖縄島では外来種で、最近急激に勢力を拡大しつつある。

【分類】チョウ目 シジミチョウ科
【種名】イワカワシジミ
【学名】Artipe eryx
【分布・生態】 沖縄島、石垣島など林の中にすみ、春から秋の終わりにかけて見ることができる。幼虫はクチナシの新芽や実などを食べる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】チョウ目　タテハチョウ科
【種名】ウスイロコノマチョウ
【学名】Melanitis leda
【分布・生態】 先島諸島、沖縄諸島などの森林から人家周辺まで広い範囲で、ほぼ一年中みられる。夏型は羽の裏に目玉模様が現れるが、秋型は枯れ葉のような模様になる。日中は木陰などにひそみ、うす暗い時間帯に活動する。

【分類】トンボ目　トンボ科
【種名】ウスバキトンボ
【学名】Pantala flavescens
【分布・生態】 最も分布の広いトンボといわれている。沖縄ではカジフチートンボと呼ばれ、台風前後に多くなるが、一年を通して見ることができる。

【分類】チョウ目　シロチョウ科
【種名】ウラナミシロチョウ
【学名】Catopsilia pyranthe
【分布・生態】 沖縄諸島などの森林の林縁部などでよく見られる。沖縄では冬の寒い時期をのぞいて、ほぼ一年中みられる。夏のチョウより、秋のチョウの方が大きくなる。

【分類】コウチュウ目　ハムシ科
【種名】ウリハムシ
【学名】Aulacophora femoralis
【分布・生態】 国外では台湾、国内では本州～琉球列島に分布する。体長 5.6～7.3mm で、成虫はほぼ 1 年中見られる。特に 5～6 月に個体数が多い。ウリ類の害虫で、成虫は葉、花、果実を食べ、幼虫は根を食べる。

【分類】カメムシ目　ミズギワカメムシ科
【種名】エゾミズギワカメムシ
【学名】Saldoida recticollis
【分布・生態】 背中は光沢のある黒色。金灰色の細かな毛が生えている。日当りの良い開放的な川や池、沼にいる。土よりも砂礫を好む。

【分類】トンボ目　トンボ科
【種名】オオシオカラトンボ
【学名】Orthetrum triangulare
【分布・生態】 日本全土で見られる。成虫は山間部や平地林など、木に覆われた所に多い。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】チョウ目　セセリチョウ科
【種名】オオシロモンセセリ
【学名】Udaspes folus
【分布・生態】 沖縄諸島、先島諸島などに分布する。ゲットウなどの植物を食草とするが、鳥などの糞の汁も吸う。

【分類】チョウ目　スズメガ科
【種名】オオスカシバ
【学名】Cephonodes hylas
【分布・生態】 国外では東南アジア、国内では本州～琉球列島に分布する。前翅長26～30mm で、3～11 月に見られる。成虫は日中活動性でチシャノキなどの花によく集まる。幼虫の食草はクチナシで、庭木のクチナシを丸坊主にすることがある。

【分類】チョウ目　ヤガ科
【種名】オオトモエ
【学名】Erebus ephesperis
【分布・生態】 かなり大きいガで、山の中でバサッ、バサッと飛ぶ音が聞こえる。左右にある目のような模様が特徴。

【分類】ハエ目　ハナアブ科
【種名】オオハナアブ
【学名】Phytomia zonata
【分布・生態】 沖縄島、八重山諸島などに分布する。普通に見られる大型アブで、ブーンと羽音をたてて飛び、腹部の色も似ているためハチと間違えやすい。

【分類】チョウ目　ヤガ科
【種名】オオルリオビクチバ
【学名】Ischyja manlia
【分布・生態】 山地に住むガで夜に光に寄ってくる。沖縄島ではまれ。

【分類】ゴキブリ目　オガサワラゴキブリ科
【種名】オガサワラゴキブリ
【学名】Pycnoscelus surinamensis
【分布・生態】 朽ち木、枯れ葉の下や家の床下にすむ。ゴキブリのなかでは小型でおとなしい種。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】コウチュウ目　ハムシ科
【種名】オキナワイチモンジハムシ
【学名】Morphosphaera coerulea
【分布・生態】 成虫・幼虫ともにカジュマル、ハマイヌビワなどイチジク属の植物を食べる。7～8mm くらいの甲虫。

【分類】ハチ目　コシブトハナバチ科
【種名】オキナワクマバチ
【学名】Xylocopa flavifrons
【分布・生態】 体長 2cm くらい、全身黒色で黒い毛におおわれている。枯れ木にトンネルを掘って巣を作る。沖永良部島～沖縄諸島の固有種。

【分類】コウチュウ目 ゾウムシ科
【種名】オキナワクワゾウムシ
【学名】Episomus mori
【分布・生態】のシマグワの木にとまってることが多い。とまっている枝を揺らしたりすると、足を縮め地面に落ちて死んだフリ（擬死）をする。

【分類】コウチュウ目　ハンミョウ科
【種名】オキナワシロヘリハンミョウ
【学名】Cicindela yuasai okinawense
【分布・生態】 シロヘリハンミョウの亜種で、奄美～沖縄列島、台湾に分布する。9～12mm で海岸の岩礁地帯に生息している。オスとメスではかなり体の色が違う。肉食で、他の昆虫などをおそって食べる。

【分類】コウチュウ目　ホタル科
【種名】オキナワスジボタル
【学名】Curtos okinawanus
【分布・生態】 沖縄島、沖永良部島、奄美大島に分布する。4～9 月に見られ、前胸が黄赤色。

【分類】ハチ目　スズメバチ科
【種名】オキナワチビアシナガバチ
【学名】Ropalidia fasciata
【分布・生態】 沖縄諸島などで一年を通して見られる。ススキやチガヤ原にすみ、草刈りなどの際によく刺されるため“ガヤバチ”(チガヤのハチ)の方言名がある。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】ハチ目　コシブトハナバチ科
【種名】オキナワツヤハナバチ
【学名】Ceratina okinawana
【分布・生態】 琉球列島に分布し、アワユキセンダングサ、アザミなどの花上で普通に見られる種類である。

【分類】コウチュウ目 ハンミョウ科
【種名】オキナワハンミョウ
【学名】Cicindera chinensis okinawana
【分布・生態】 沖縄島などの林道や開けた場所などで見られる。成虫、幼虫ともに肉食で、小さな昆虫などを食べる。

【分類】コウチュウ目　ホタル科
【種名】オキナワマドボタル
【学名】Pyrocoelia matsumurai
【分布・生態】 沖縄島で 4～11 月に見られる。幼虫は陸上にすみ、カタツムリ類を餌とする。

【分類】バッタ目 バッタ科
【種名】オキナワモリバッタ
【学名】Traulia ornata
【分布・生態】 沖縄島、奄美大島、久米島などの森林内にすみ、ゲットウ、クワズイモなどの植物を食べる。一年を通し見ることができる。

【分類】ヨコバイ目 ヨコバイ科
【種名】オサヨコバイ
【学名】Tartessus ferrugineus
【分布・生態】 琉球列島各地のイヌビワなどの木の葉にとまっていることが多い。春から秋の終わりにかけて見ることができる。

【分類】ハエ目　クロバエ科
【種名】オビキンバエ
【学名】Chrysomya megacephala
【分布・生態】 琉球列島でほぼ一年中見られる青緑色のハエ。人家付近に多く、動物の死体に集まるのをよく見ることができる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】コウチュウ目　ゾウムシ科
【種名】カタビロカククチゾウムシ
【学名】Blosyrus asellus
【分布・生態】 国外では台湾、中国、インドなど、国内では沖縄島以南に分布する。体長 6.5～7.0mm で、上翅の肩部が三角状に張りだす。

【分類】トンボ目　ヤンマ科
【種名】カトリヤンマ
【学名】Gynacantha japonica
【分布・生態】 ヤゴは木にかこまれた池や川のたまりに住む。成虫のからだは黄緑色をしている。成虫はカなどをつかまえて食べるので、この名前がついた。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】カバマダラ
【学名】Anosia chrysippus
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの平地に多く、民家周辺でも見られる。沖縄諸島では、春から秋にかけて見ることができる。

【分類】バッタ目　コオロギ科
【種名】カマドコオロギ
【学名】Gryllodes sigillatus
【分布・生態】 国外では朝鮮、インド、マレーシアなど、国内では本州～琉球列島に分布する。体長 15～17mm で、1 年中見られる。路傍の草原の枯葉下などで見られる。雄は夜に、チリチリチリチリと連続して鳴く。

【分類】チョウ目　ヒトリモドキガ科
【種名】キイロヒトリモドキ
【学名】Asota egens
【分布・生態】 昼間は林の中にいて、夜になると家の明かりに寄ってくる。八重山諸島ではガ（方言でハベル）は他界からの使者というイメージがあり、この種はその代表格。

【分類】チョウ目　ヤガ科
【種名】キオビアシブトクチバ
【学名】Dysgonia fulvotaenia
【分布・生態】 南西諸島～東南アジアに分布。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】カメムシ目　カメムシ科
【種名】キシモフリクチブトカメムシ
【学名】Eocanthecona furcellata
【分布・生態】 国外では台湾、中国、インドなど、国内ではトカラ列島以南に分布する。体長 11～15mm で、1 年中見られる。捕食性のカメムシで、チョウ目の幼虫やハムシ類の幼虫を寄主とする。ゴールデンシャワー、ハナセンナ類などの葉上でよく見られる。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】キタテハ
【学名】Polygonia c-aureum
【分布・生態】 9月頃、おもに沖縄島北部西海岸で見られる。本来琉球列島にはいないチョウだが、前線や台風によって南方から運ばれてくる。秋が深まる頃には見られなくなる。

【分類】チョウ目　シロチョウ科
【種名】キチョウ
【学名】Eurema hecabe
【分布・生態】 琉球列島の山林の中から平地、海岸まで広い範囲で、ほぼ一年中みられる。幼虫はマメ科植物を食べる。近年、キチョウには、キチョウ(ミナミキチウ)Eurema hecabe とキタキチョウ Eurema mandarina の 2 種が混在することが明らかにされた。

【分類】カメムシ目　サシガメ科
【種名】キベリヒゲナガサシガメ
【学名】Euagoras plagiatus
【分布・生態】 昼間活動するサシガメで、日中、日当たりの良い道沿いの雑草の上などで見られる。体にはトゲがあり、捕まえたとき刺されることもある。

【分類】コウチュウ目　ハムシ科
【種名】キベリヒラタノミハムシ
【学名】Hemipyxis cinctipennis
【分布・生態】 おもに植物の葉などを食べる。5mm くらいの小さな甲虫。

【分類】コウチュウ目　カミキリムシ科
【種名】キボシカミキリ
【学名】Psacothea hilaris
【分布・生態】 琉球列島で 4～7 月に見られる。成虫はガジュマルなどクワ科植物の樹上で見られ、幼虫もこれらの木に寄生している。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】チョウ目　ヤガ科
【種名】キマエコノハ
【学名】Eudocima salaminia
【分布・生態】 山地、平地の林に住み、成虫はミカン、バンジロウなどの汁を吸う。夜になると光に寄ってくる。

【分類】ヨコバイ目　セミ科
【種名】クマゼミ
【学名】Cryptotympana facialis
【分布・生態】 先島諸島から本州まで分布する。沖縄諸島では市街地や平地の林内で、6月中旬から9月中旬まで見られる。ほとんどが午前中の時間帯に、シャア　シャア　シャア・・・と鳴く。方言で「サンサナー」と呼ばれる。

【分類】コウチュウ目　ホタル科
【種名】クロイワボタル
【学名】Luciola kuroiwae
【分布・生態】奄美諸島・沖縄諸島固有種。体長 5mm 前後の小さなホタルだが、光は強い。雌はほとんど飛ばない。雄は高さ 1m ほどの低いところを活発に飛び回る。その際強く点滅発光する。4～9 月に見られ、前胸が黄赤色。

【分類】チョウ目　マダラガ科
【種名】クロツバメ
【学名】Histia flabellicornis
【分布・生態】 沖縄島、八重山諸島に分布する。体は黒色に紅色の紋がある。昼間に活動するため、黒いアゲハチョウと間違えやすい。

【分類】チョウ目 セセリチョウ科
【種名】クロボシセセリ
【学名】Suastus germius
【分布・生態】 沖縄諸島などで春から秋にかけて見ることができる。幼虫はヤシなどを食べ、都市部の公園や植物園近辺などでよく見られる。本来沖縄にはいなく、外国から入ってきたチョウで、ヤシ類の害虫として知られている。

【分類】チョウ目　シジミチョウ科
【種名】クロマダラソテツシジミ
【学名】Chilades pandava
【分布・生態】 ソテツを食べるが、幼虫は新芽だけを食べるので、新芽がないとソテツがあっても発生できない。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】ハチ目　スズメバチ科
【種名】コガタスズメバチ
【学名】Vespa analis
【分布・生態】 低木の枝やシダ植物の根元などに巣を作る。女王のみが朽ち木の中などに潜りこんで越冬する。昆虫などを狩る。

【分類】バッタ目　コロギス科
【種名】コバネコロギス
【学名】Neanias magnus
【分布・生態】 美しい黒色のしま模様がトレードマーク。低い山の林内の樹に住み、夜になると葉の上などに出てくる。

【分類】コウチュウ目　ゾウムシ科
【種名】コフキゾウムシ
【学名】Eugnathus distinctus
【分布・生態】 沖縄島、西表島、石垣島などに分布し、4～7 月に見られる。マメ科植物の葉上でよく見ることができる。

【分類】トンボ目　イトトンボ科
【種名】コフキヒメイトトンボ
【学名】Agriocnemis femina oryzae
【分布・生態】 オスは成長にともない腹部の朱色が消えて、胸に白い粉をふく。メスは赤から緑色に変わる。時々、胸に白い粉をふくメスもいる。流れのゆるやかな川、水路、池、沼、田んぼでよく見られる。

【分類】ナナフシ目 コブナナフシ科
【種名】コブナナフシ
【学名】Datames mouhoti
【分布・生態】 琉球列島などでほぼ一年中みられ、ヤコウボクなどの木にとまっていることが多い。

【分類】ゴキブリ目 マダラゴキブリ科
【種名】サツマゴキブリ
【学名】Opisthoplatia orientalis
【分布・生態】 琉球列島の林などに小さな群れでいることが多い。春から秋の終わりにかけて見ることができる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】バッタ目 バッタ科
【種名】ショウリョウバッタ
【学名】Acrida cinerea
【分布・生態】 琉球列島各地で見られ、開けた明るい草原に多い。初夏から秋にかけてよく見られる。

【分類】チョウ目 アゲハチョウ科
【種名】シロオビアゲハ
【学名】Papilio polytes
【分布・生態】 沖縄諸島などの荒地や海岸などにすみ、ほぼ一年を通して見ることができる。とくに夏から秋にかけて多く見ることができる。

【分類】チョウ目 ヒトリモドキガ科
【種名】シロスジヒトリモドキ
【学名】Asota heliconia
【分布・生態】 山地、平地の林内に住み、夜になると明かりに寄ってくる。夜に蜜を吸っている。

【分類】ハチ目 ミツバチ科
【種名】セイヨウミツバチ
【学名】Apis mellifera
【分布・生態】 県内各地の道路わきなどで、花の蜜をあつめているのをよく見られる。ハチミツの生産のためヨーロッパ(西洋)から国内に持ち込まれたハチである。

【分類】バッタ目 ツユムシ科
【種名】ダイトウクダマキモドキ
【学名】Phaulula daitoensis
【分布・生態】 国外では台湾、国内では琉球列島、八丈島に分布する。体長 45mm 内外で、6～12 月に見られる。体色は全身緑色のものが普通であるが、淡褐色の個体もいる。雄は昼夜を問わず樹上でピチッ、ピチッと発音する。

【分類】トンボ目 トンボ科
【種名】タイリクショウジョウトンボ
【学名】Crocothemis servilia servilia
【分布・生態】 県内各地の流れのゆるやかな川の周りにすんでいる。成虫は、一年を通し普通に見ることができる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】バッタ目　キリギリス科
【種名】タイワンウマオイ
【学名】Hexacentrus unicolor
【分布・生態】 草原から山間部まで普通に見られる。全身緑色で、背中に茶色い帯がある。肉食性で、他の昆虫を捕らえて食べる。夜行性で、雄はスイチョ、スイチョと鳴く。

【分類】バッタ目 クツワムシ科
【種名】タイワンクツワムシ
【学名】Mecopoda elongata
【分布・生態】 琉球列島の平地の草原やサトウキビ畑などにすみ、夜間に活動する草食性のバッタ。成虫は一年中みられ、とくに秋から冬にかけて多い。

【分類】バッタ目　バッタ科
【種名】タイワンツチイナゴ
【学名】Patanga succincta
【分布・生態】 琉球列島に分布し、一年を通し見ることができる。国内最大種のひとつ。

【分類】バッタ目　バッタ科
【種名】タイワンハネナガイナゴ
【学名】Oxya chinensis
【分布・生態】 沖縄島、久米島、宮古島などのススキ原やサトウキビ畑で一年を通して普通に見られる。イネ科植物の害虫として知られる。

【分類】チョウ目　ヒトリガ科
【種名】タイワンベニゴマダラヒトリ
【学名】Utetheisa lotrix
【分布・生態】 国外では東南アジア～オーストラリア、国内では本州～琉球列島に分布する。前翅長 17mm 内外で、5～11 月に見られる。幼虫は緑肥作物のタヌキマメ類の害虫である。

【分類】コウチュウ目　ハムシ科
【種名】タテスジヒメジンガサハムシ
【学名】Cassida circumdata
【分布・生態】 国外では台湾、中国、インドなど、国内では琉球列島に分布する。体長 4.5～5.6mm で、5～10 月に見られる。サツマイモ、ノアサガオなどを寄主とし、葉に付く。武士のかぶった陣笠に似ていることから、ジンガサハムシの名がついた。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】チョウ目　タテハチョウ科
【種名】タテハモドキ
【学名】Junonia almana
【分布・生態】 国外では東南アジア、国内では九州～琉球列島に分布する。前翅長30mm 前後で、ほぼ 1 年中見られる。翅の裏面は季節により斑紋が変化し、夏型が目玉模様、秋型が枯葉模様となる。イワダレソウ、スズメノトウガラシなどを食草とする。

【分類】チョウ目 セセリチョウ科
【種名】チャバネセセリ
【学名】Pelopidas mathias
【分布・生態】 琉球列島のススキやチガヤなどの草地でよく見られる。沖縄諸島では春から秋にかけて見ることができる。

【分類】カマキリ目　カマキリ科
【種名】チョウセンカマキリ
【学名】Tenodera angustipennis
【分布・生態】 沖縄島、西表島、石垣島などの草地で夏～秋に見られる。両前足のねもとにオレンジ色の紋がある。

【分類】ヨコバイ目　テングスケバ科
【種名】ツマグロスケバ
【学名】Orthopagus lunulifer
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などで 5～12 月に見られる。体と顔は、ともに細長い。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】ツマグロヒョウモン
【学名】Argyreus hyperbius
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの海岸付近から市街地まで幅広い環境で見ることができる。一年を通して見ることができるが、夏場は数が少なくなる。

【分類】チョウ目　タテハチョウ科
【種名】ツマムラサキマダラ
【学名】Euploea mulciber
【分布・生態】 沖縄島、西表島などで一年を通して見ることができ、真冬でも多くの成虫が見られる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】チョウ目　メイガ科
【種名】トサカフトメイガ
【学名】Locastra muscosalis
【分布・生態】 国外では台湾、中国、インドなど、国内では本州～琉球列島に分布する。前翅長 14～19mm 内外で、4～11 月に見られる。平地の林や山地で採集される。食草は不明。

【分類】チョウ目　アゲハチョウ科
【種名】ナガサキアゲハ
【学名】Papilio memnon
【分布・生態】 沖縄に生息するアゲハチョウ科の仲間のうち、最も大きい種。

【分類】カメムシ目 キンカメムシ科
【種名】ナナホシキンカメムシ
【学名】Calliphara nobilis
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの林内にすみ、初夏から秋の終わりにかけて見られる。また、カンコノキ類の幹などに群れているところもよく見られる。

【分類】コウチュウ目 テントウムシ科
【種名】ハイイロテントウ
【学名】Olla v-nigrum
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などで見られ、ギンネムの木に発生するキジラミ類などを食べる。一年を通し見ることができる。本来は沖縄にいなかった虫である。

【分類】チョウ目　ヒトリガ科
【種名】ハイイロヒトリ
【学名】Creatonotos transiens
【分布・生態】インド、国内では琉球列島、薩南諸島に分布する。前翅長 22mm 内外で、3～12 月に見られる。フダン、ソウ、ヤブカラシを食草とする。

【分類】カマキリ目　カマキリ科
【種名】ハラビロカマキリ
【学名】Hierodula patellifera
【分布・生態】 琉球列島から本州まで分布する。樹の上にすむカマキリで、沖縄では 4 月から 12 月まで見られる。体型が太短いことと、前羽の表面に2個の白い点があるのが特徴。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】トンボ目 トンボ科
【種名】ハラボソトンボ
【学名】Orthetrum sabina
【分布・生態】 琉球列島の水辺にすみ、集落内から山地までさまざまな場所で見ることができる。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】ヒメアカタテハ
【学名】Cynthia cardui
【分布・生態】 琉球列島各地にすみ、一年を通し畑の周辺などで見られる。オスは農道の上などにとまってなわばりを張り、侵入してくる他のチョウを激しく追い払う。

【分類】トンボ目　イトトンボ科
【種名】ヒメイトトンボ
【学名】Agriocnemis pygmaea
【分布・生態】 コフキヒメイトトンボによく似ているが、大人になっても粉はふかない。日本最小のイトトンボ。ヒメイトトンボの方が少ない。

【分類】コウチュウ目　ハムシ科
【種名】フタイロウリハムシ
【学名】Aulacophora bicolor
【分布・生態】 国外では台湾、東南アジア、国内では奄美大島以南に分布する。体長7.6～8.3mm で、4～10 月に見られる。上翅の黒斑は肩部のみ黒い 2 斑型と、上翅に 3 対の黒斑がある 6 斑型、これらの中間型がある。カラスウリ、ヘチマなどを寄主とする。

【分類】チョウ目　タテハチョウ科
【種名】フタオチョウ
【学名】Polyura eudamippus
【分布・生態】 はねの下の方に尾のような突起が二つあるのが名前の由来。国内では沖縄島の北部に分布。成虫は森の中に多く、樹液や果実の汁を吸う。湿地で水を飲んでいることもある。

【分類】トンボ目 トンボ科
【種名】ベニトンボ
【学名】Trithemis aurora
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの非常にゆるやかな流れの水辺にすんでいる。成虫は春から秋にかけてよく見られる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】バッタ目　マツムシ科
【種名】マダラコオロギ
【学名】Cardiodactylus guttulus
【分布・生態】 コオロギという名前だがマツムシの仲間。オスは昼夜を問わず、シッ、シッ、と鳴く。よく木の幹にいる。

【分類】バッタ目　ヒシバッタ科
【種名】ミナミハネナガヒシバッタ
【学名】Euparatettix histricus
【分布・生態】 1年中見られる。田んぼの畦道のような、明るく湿った草地にいる。粘土質のところに多い。

【分類】カメムシ目　カメムシ科
【種名】ミナミフタテンカメムシ
【学名】Laprius varicornis
【分布・生態】 国内では沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島に分布。サトウキビなどに寄生する、個体数は多くない。

【分類】ハエ目　ムシヒキアブ科
【種名】メスアカオオムシヒキ
【学名】Microstylum dimorphum
【分布・生態】 日本最大のムシヒキアブで、琉球列島以南に分布。様々な昆虫を捕らえ、体液を吸う。捕まえた昆虫をひきずって移動するため、ムシヒキアブという。

【分類】チョウ目　ヒトリガ科
【種名】モンシロモドキ
【学名】Nyctemera adversata
【分布・生態】 琉球列島で一年を通して見ることができる。成虫は昼間に活動し、ひらひらと飛び、蜜も吸う。

【分類】チョウ目 シジミチョウ科
【種名】ヤマトシジミ
【学名】Zizeeria maha
【分布・生態】 県内各地の草原や芝生などで、一年を通し普通にみられるシジミチョウ。民家の庭先などでもよく見られる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】コウチュウ目　ハムシ科
【種名】ヨツモンカメノコハムシ
【学名】Laccoptera quadrimaculata
【分布・生態】 沖縄島以南の琉球列島で見られ、日本に分布するカメノコハムシ類では最大である。

【分類】コウチュウ目　ゾウムシ科
【種名】ヨナグニアカアシカタゾウムシ
【学名】Metapocyrtus yonagunianus
【分布・生態】 与那国島の特産種で、沖縄本島では今回が初確認。体表がかたく、鳥などに食べられても消化されずに排泄されるらしい。しかしそのために前ばねが開かず、飛ぶことができない。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】リュウキュウアサギマダラ
【学名】Ideopsis similis
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの海岸付近から市街地まで幅広い環境で見ることができる。一年を通して見みることができる。

【分類】ヨコバイ目　セミ科
【種名】リュウキュウアブラゼミ
【学名】Graptopsaltria bimaculata
【分布・生態】 沖縄島、久米島などの平地から山地まですみ、6月初旬から10月下旬まで見られる。沖縄では古くから、このセミを「ナービーカチカチー」と呼んでいる。

【分類】トンボ目 イトトンボ科
【種名】リュウキュウベニイトトンボ
【学名】Ceriagrion auranticum
【分布・生態】 琉球列島の水辺で見 られる。ゆるやかな水路や川の周りにすんでいる。成虫は一年中見られ、とくに春と秋に多い。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】リュウキュウミスジ
【学名】Neptis hylas
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの市街地から山地まで、一年中みられる。はねを開くと白いラインが三本あることから、「ミスジ」の名がついた。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】ゴキブリ目　ゴキブリ科
【種名】ワモンゴキブリ
【学名】Periplaneta americana
【分布・生態】沖縄ではうちのなかで見るゴキブリとして一般的な種。国内では九州～琉球列島に分布。屋内性のゴキブリのなかでは最大の種。原産地はアフリカで、世界中の熱帯・亜熱帯に分布をひろげている。

浦添市生き物図鑑

昆虫類 103 種類

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】チョウ目 アゲハチョウ科
【種名】アオスジアゲハ
【学名】Graphium sarpedon
【分布・生態】 琉球列島でほぼ一年を通し林の周りなどで見ることができる。花の蜜を吸うだけでなく水辺で吸水する姿も見られる。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】アオタテハモドキ
【学名】Junonia orithya
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの草地や農道で見ることができる。本来沖縄島では見られなかったが、数年前に八重山諸島から迷い込んで繁殖し、最近ではよく見られるようになった。

【分類】ヨコバイ目　アオバハゴロモ科
【種名】アオバハゴロモ
【学名】Geisha distinctissima
【分布・生態】 国外では台湾、中国、国内では本州から琉球列島まで分布する。体長9～11mm で、5～11 月に見られる。子虫は白い粉状の分泌物の覆われる。ミカン科、クスノキ科、バラ科、クワ科などを寄主とする。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】アカタテハ
【学名】Vanessa indica
【分布・生態】 琉球列島各地の林の周りで一年中見られる。花の蜜の他に、樹液や動物の糞などの汁を吸うこともある。

【分類】トンボ目 イトトンボ科
【種名】アカナガイトトンボ
【学名】Pseudagrion pilidorsum
【分布・生態】 沖縄島、久米島などの水辺にすみ、特にわき水などきれいな水路や川の周り多い。成虫は春から秋の終わりにかけてよく見られる。

【分類】カメムシ目　ホシカメムシ科
【種名】アカホシカメムシ
【学名】Dysdercus cingulatus
【分布・生態】 国内では琉球列島と九州に分布。沖縄ではごくふつうにみられる種。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】カメムシ目　アメンボ科
【種名】アマミアメンボ
【学名】Gerris paludum amamiensis
【分布・生態】 沖縄にいる大型アメンボ。体、脚は黒色。体側は銀灰色。池や沼、河川で普通に見られる。

【分類】チョウ目　シジミチョウ科
【種名】アマミウラナミシジミ
【学名】Nacaduba kurava
【分布・生態】 奄美諸島、沖縄諸島などの人里から山地まで林縁部でよく見られる。沖縄では冬の寒い時期をのぞいて、ほぼ一年中みられる。

【分類】ゴキブリ目　チャバネゴキブリ科
【種名】アミメヒラタゴキブリ
【学名】Onychostylus notulatus
【分布・生態】 沖縄・八重山諸島～マレーシアに分布。林の中の樹の、葉の間に住む。すばやくよく飛ぶ。

【分類】チョウ目　カイコガ科
【種名】イチジクカサン
【学名】Trilocha varians
【分布・生態】 国外では台湾、中国、インドなど、国内では沖縄島以南に分布する。開長は雄 20mm、雌 25mm 内外で、石垣島では 1 月、西表島では 5 月に採集されている。中国では 4～10 月まで多化する。台湾ではイチジク、ガジュマルの害虫として知られている。

【分類】コウチュウ目 カミキリムシ科
【種名】イチジクカミキリ
【学名】Batocera rubus
【分布・生態】大型のカミキリムシで、幼虫はガジュマルなどに寄生する。沖縄島では外来種で、最近急激に勢力を拡大しつつある。

【分類】チョウ目 シジミチョウ科
【種名】イワカワシジミ
【学名】Artipe eryx
【分布・生態】 沖縄島、石垣島など林の中にすみ、春から秋の終わりにかけて見ることができる。幼虫はクチナシの新芽や実などを食べる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】チョウ目　タテハチョウ科
【種名】ウスイロコノマチョウ
【学名】Melanitis leda
【分布・生態】 先島諸島、沖縄諸島などの森林から人家周辺まで広い範囲で、ほぼ一年中みられる。夏型は羽の裏に目玉模様が現れるが、秋型は枯れ葉のような模様になる。日中は木陰などにひそみ、うす暗い時間帯に活動する。

【分類】トンボ目　トンボ科
【種名】ウスバキトンボ
【学名】Pantala flavescens
【分布・生態】 最も分布の広いトンボといわれている。沖縄ではカジフチートンボと呼ばれ、台風前後に多くなるが、一年を通して見ることができる。

【分類】チョウ目　シロチョウ科
【種名】ウラナミシロチョウ
【学名】Catopsilia pyranthe
【分布・生態】 沖縄諸島などの森林の林縁部などでよく見られる。沖縄では冬の寒い時期をのぞいて、ほぼ一年中みられる。夏のチョウより、秋のチョウの方が大きくなる。

【分類】コウチュウ目　ハムシ科
【種名】ウリハムシ
【学名】Aulacophora femoralis
【分布・生態】 国外では台湾、国内では本州～琉球列島に分布する。体長 5.6～7.3mm で、成虫はほぼ 1 年中見られる。特に 5～6 月に個体数が多い。ウリ類の害虫で、成虫は葉、花、果実を食べ、幼虫は根を食べる。

【分類】カメムシ目　ミズギワカメムシ科
【種名】エゾミズギワカメムシ
【学名】Saldoida recticollis
【分布・生態】 背中は光沢のある黒色。金灰色の細かな毛が生えている。日当りの良い開放的な川や池、沼にいる。土よりも砂礫を好む。

【分類】トンボ目　トンボ科
【種名】オオシオカラトンボ
【学名】Orthetrum triangulare
【分布・生態】 日本全土で見られる。成虫は山間部や平地林など、木に覆われた所に多い。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】チョウ目　セセリチョウ科
【種名】オオシロモンセセリ
【学名】Udaspes folus
【分布・生態】 沖縄諸島、先島諸島などに分布する。ゲットウなどの植物を食草とするが、鳥などの糞の汁も吸う。

【分類】チョウ目　スズメガ科
【種名】オオスカシバ
【学名】Cephonodes hylas
【分布・生態】 国外では東南アジア、国内では本州～琉球列島に分布する。前翅長26～30mm で、3～11 月に見られる。成虫は日中活動性でチシャノキなどの花によく集まる。幼虫の食草はクチナシで、庭木のクチナシを丸坊主にすることがある。

【分類】チョウ目　ヤガ科
【種名】オオトモエ
【学名】Erebus ephesperis
【分布・生態】 かなり大きいガで、山の中でバサッ、バサッと飛ぶ音が聞こえる。左右にある目のような模様が特徴。

【分類】ハエ目　ハナアブ科
【種名】オオハナアブ
【学名】Phytomia zonata
【分布・生態】 沖縄島、八重山諸島などに分布する。普通に見られる大型アブで、ブーンと羽音をたてて飛び、腹部の色も似ているためハチと間違えやすい。

【分類】チョウ目　ヤガ科
【種名】オオルリオビクチバ
【学名】Ischyja manlia
【分布・生態】 山地に住むガで夜に光に寄ってくる。沖縄島ではまれ。

【分類】ゴキブリ目　オガサワラゴキブリ科
【種名】オガサワラゴキブリ
【学名】Pycnoscelus surinamensis
【分布・生態】 朽ち木、枯れ葉の下や家の床下にすむ。ゴキブリのなかでは小型でおとなしい種。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】コウチュウ目　ハムシ科
【種名】オキナワイチモンジハムシ
【学名】Morphosphaera coerulea
【分布・生態】 成虫・幼虫ともにカジュマル、ハマイヌビワなどイチジク属の植物を食べる。7～8mm くらいの甲虫。

【分類】ハチ目　コシブトハナバチ科
【種名】オキナワクマバチ
【学名】Xylocopa flavifrons
【分布・生態】 体長 2cm くらい、全身黒色で黒い毛におおわれている。枯れ木にトンネルを掘って巣を作る。沖永良部島～沖縄諸島の固有種。

【分類】コウチュウ目 ゾウムシ科
【種名】オキナワクワゾウムシ
【学名】Episomus mori
【分布・生態】のシマグワの木にとまってることが多い。とまっている枝を揺らしたりすると、足を縮め地面に落ちて死んだフリ(擬死)をする。

【分類】コウチュウ目　ハンミョウ科
【種名】オキナワシロヘリハンミョウ
【学名】Cicindela yuasai okinawense
【分布・生態】 シロヘリハンミョウの亜種で、奄美～沖縄列島、台湾に分布する。9～12mm で海岸の岩礁地帯に生息している。オスとメスではかなり体の色が違う。肉食で、他の昆虫などをおそって食べる。

【分類】コウチュウ目　ホタル科
【種名】オキナワスジボタル
【学名】Curtos okinawanus
【分布・生態】 沖縄島、沖永良部島、奄美大島に分布する。4～9 月に見られ、前胸が黄赤色。

【分類】ハチ目　スズメバチ科
【種名】オキナワチビアシナガバチ
【学名】Ropalidia fasciata
【分布・生態】 沖縄諸島などで一年を通して見られる。ススキやチガヤ原にすみ、草刈りなどの際によく刺されるため“ガヤバチ”(チガヤのハチ)の方言名がある。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】ハチ目　コシブトハナバチ科
【種名】オキナワツヤハナバチ
【学名】Ceratina okinawana
【分布・生態】 琉球列島に分布し、アワユキセンダングサ、アザミなどの花上で普通に見られる種類である。

【分類】コウチュウ目 ハンミョウ科
【種名】オキナワハンミョウ
【学名】Cicindera chinensis okinawana
【分布・生態】 沖縄島などの林道や開けた場所などで見られる。成虫、幼虫ともに肉食で、小さな昆虫などを食べる。

【分類】コウチュウ目　ホタル科
【種名】オキナワマドボタル
【学名】Pyrocoelia matsumurai
【分布・生態】 沖縄島で 4～11 月に見られる。幼虫は陸上にすみ、カタツムリ類を餌とする。

【分類】バッタ目 バッタ科
【種名】オキナワモリバッタ
【学名】Traulia ornata
【分布・生態】 沖縄島、奄美大島、久米島などの森林内にすみ、ゲットウ、クワズイモなどの植物を食べる。一年を通し見ることができる。

【分類】ヨコバイ目 ヨコバイ科
【種名】オサヨコバイ
【学名】Tartessus ferrugineus
【分布・生態】 琉球列島各地のイヌビワなどの木の葉にとまっていることが多い。春から秋の終わりにかけて見ることができる。

【分類】ハエ目　クロバエ科
【種名】オビキンバエ
【学名】Chrysomya megacephala
【分布・生態】 琉球列島でほぼ一年中見られる青緑色のハエ。人家付近に多く、動物の死体に集まるのをよく見ることができる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】コウチュウ目　ゾウムシ科
【種名】カタビロカククチゾウムシ
【学名】Blosyrus asellus
【分布・生態】 国外では台湾、中国、インドなど、国内では沖縄島以南に分布する。体長 6.5～7.0mm で、上翅の肩部が三角状に張りだす。

【分類】トンボ目　ヤンマ科
【種名】カトリヤンマ
【学名】Gynacantha japonica
【分布・生態】 ヤゴは木にかこまれた池や川のたまりに住む。成虫のからだは黄緑色をしている。成虫はカなどをつかまえて食べるので、この名前がついた。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】カバマダラ
【学名】Anosia chrysippus
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの平地に多く、民家周辺でも見られる。沖縄諸島では、春から秋にかけて見ることができる。

【分類】バッタ目　コオロギ科
【種名】カマドコオロギ
【学名】Gryllodes sigillatus
【分布・生態】 国外では朝鮮、インド、マレーシアなど、国内では本州～琉球列島に分布する。体長 15～17mm で、1 年中見られる。路傍の草原の枯葉下などで見られる。雄は夜に、チリチリチリチリと連続して鳴く。

【分類】チョウ目　ヒトリモドキガ科
【種名】キイロヒトリモドキ
【学名】Asota egens
【分布・生態】 昼間は林の中にいて、夜になると家の明かりに寄ってくる。八重山諸島ではガ（方言でハベル）は他界からの使者というイメージがあり、この種はその代表格。

【分類】チョウ目　ヤガ科
【種名】キオビアシブトクチバ
【学名】Dysgonia fulvotaenia
【分布・生態】 南西諸島～東南アジアに分布。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】カメムシ目　カメムシ科
【種名】キシモフリクチブトカメムシ
【学名】Eocanthecona furcellata
【分布・生態】 国外では台湾、中国、インドなど、国内ではトカラ列島以南に分布する。体長 11～15mm で、1 年中見られる。捕食性のカメムシで、チョウ目の幼虫やハムシ類の幼虫を寄主とする。ゴールデンシャワー、ハナセンナ類などの葉上でよく見られる。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】キタテハ
【学名】Polygonia c-aureum
【分布・生態】 9月頃、おもに沖縄島北部西海岸で見られる。本来琉球列島にはいないチョウだが、前線や台風によって南方から運ばれてくる。秋が深まる頃には見られなくなる。

【分類】チョウ目　シロチョウ科
【種名】キチョウ
【学名】Eurema hecabe
【分布・生態】 琉球列島の山林の中から平地、海岸まで広い範囲で、ほぼ一年中みられる。幼虫はマメ科植物を食べる。近年、キチョウには、キチョウ(ミナミキチウ)Eurema hecabe とキタキチョウ Eurema mandarina の 2 種が混在することが明らかにされた。

【分類】カメムシ目　サシガメ科
【種名】キベリヒゲナガサシガメ
【学名】Euagoras plagiatus
【分布・生態】 昼間活動するサシガメで、日中、日当たりの良い道沿いの雑草の上などで見られる。体にはトゲがあり、捕まえたとき刺されることもある。

【分類】コウチュウ目　ハムシ科
【種名】キベリヒラタノミハムシ
【学名】Hemipyxis cinctipennis
【分布・生態】 おもに植物の葉などを食べる。5mm くらいの小さな甲虫。

【分類】コウチュウ目　カミキリムシ科
【種名】キボシカミキリ
【学名】Psacothea hilaris
【分布・生態】 琉球列島で 4～7 月に見られる。成虫はガジュマルなどクワ科植物の樹上で見られ、幼虫もこれらの木に寄生している。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】チョウ目　ヤガ科
【種名】キマエコノハ
【学名】Eudocima salaminia
【分布・生態】 山地、平地の林に住み、成虫はミカン、バンジロウなどの汁を吸う。夜になると光に寄ってくる。

【分類】ヨコバイ目　セミ科
【種名】クマゼミ
【学名】Cryptotympana facialis
【分布・生態】 先島諸島から本州まで分布する。沖縄諸島では市街地や平地の林内で、6月中旬から9月中旬まで見られる。ほとんどが午前中の時間帯に、シャア　シャア　シャア・・・と鳴く。方言で「サンサナー」と呼ばれる。

【分類】コウチュウ目　ホタル科
【種名】クロイワボタル
【学名】Luciola kuroiwae
【分布・生態】奄美諸島・沖縄諸島固有種。体長 5mm 前後の小さなホタルだが、光は強い。雌はほとんど飛ばない。雄は高さ 1m ほどの低いところを活発に飛び回る。その際強く点滅発光する。4～9 月に見られ、前胸が黄赤色。

【分類】チョウ目　マダラガ科
【種名】クロツバメ
【学名】Histia flabellicornis
【分布・生態】 沖縄島、八重山諸島に分布する。体は黒色に紅色の紋がある。昼間に活動するため、黒いアゲハチョウと間違えやすい。

【分類】チョウ目 セセリチョウ科
【種名】クロボシセセリ
【学名】Suastus germius
【分布・生態】 沖縄諸島などで春から秋にかけて見ることができる。幼虫はヤシなどを食べ、都市部の公園や植物園近辺などでよく見られる。本来沖縄にはいなく、外国から入ってきたチョウで、ヤシ類の害虫として知られている。

【分類】チョウ目　シジミチョウ科
【種名】クロマダラソテツシジミ
【学名】Chilades pandava
【分布・生態】 ソテツを食べるが、幼虫は新芽だけを食べるので、新芽がないとソテツがあっても発生できない。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】ハチ目　スズメバチ科
【種名】コガタスズメバチ
【学名】Vespa analis
【分布・生態】 低木の枝やシダ植物の根元などに巣を作る。女王のみが朽ち木の中などに潜りこんで越冬する。昆虫などを狩る。

【分類】バッタ目　コロギス科
【種名】コバネコロギス
【学名】Neanias magnus
【分布・生態】 美しい黒色のしま模様がトレードマーク。低い山の林内の樹に住み、夜になると葉の上などに出てくる。

【分類】コウチュウ目　ゾウムシ科
【種名】コフキゾウムシ
【学名】Eugnathus distinctus
【分布・生態】 沖縄島、西表島、石垣島などに分布し、4～7 月に見られる。マメ科植物の葉上でよく見ることができる。

【分類】トンボ目　イトトンボ科
【種名】コフキヒメイトトンボ
【学名】Agriocnemis femina oryzae
【分布・生態】 オスは成長にともない腹部の朱色が消えて、胸に白い粉をふく。メスは赤から緑色に変わる。時々、胸に白い粉をふくメスもいる。流れのゆるやかな川、水路、池、沼、田んぼでよく見られる。

【分類】ナナフシ目 コブナナフシ科
【種名】コブナナフシ
【学名】Datames mouhoti
【分布・生態】 琉球列島などでほぼ一年中みられ、ヤコウボクなどの木にとまっていることが多い。

【分類】ゴキブリ目 マダラゴキブリ科
【種名】サツマゴキブリ
【学名】Opisthoplatia orientalis
【分布・生態】 琉球列島の林などに小さな群れでいることが多い。春から秋の終わりにかけて見ることができる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】バッタ目 バッタ科
【種名】ショウリョウバッタ
【学名】Acrida cinerea
【分布・生態】 琉球列島各地で見られ、開けた明るい草原に多い。初夏から秋にかけてよく見られる。

【分類】チョウ目 アゲハチョウ科
【種名】シロオビアゲハ
【学名】Papilio polytes
【分布・生態】 沖縄諸島などの荒地や海岸などにすみ、ほぼ一年を通して見ることができる。とくに夏から秋にかけて多く見ることができる。

【分類】チョウ目　ヒトリモドキガ科
【種名】シロスジヒトリモドキ
【学名】Asota heliconia
【分布・生態】 山地、平地の林内に住み、夜になると明かりに寄ってくる。夜に蜜を吸っている。

【分類】ハチ目 ミツバチ科
【種名】セイヨウミツバチ
【学名】Apis mellifera
【分布・生態】 県内各地の道路わきなどで、花の蜜をあつめているのをよく見られる。ハチミツの生産のためヨーロッパ（西洋）から国内に持ち込まれたハチである。

【分類】バッタ目　ツユムシ科
【種名】ダイトウクダマキモドキ
【学名】Phaulula daitoensis
【分布・生態】 国外では台湾、国内では琉球列島、八丈島に分布する。体長 45mm 内外で、6～12 月に見られる。体色は全身緑色のものが普通であるが、淡褐色の個体もいる。雄は昼夜を問わず樹上でピチッ、ピチッと発音する。

【分類】トンボ目 トンボ科
【種名】タイリクショウジョウトンボ
【学名】Crocothemis servilia servilia
【分布・生態】 県内各地の流れのゆるやかな川の周りにすんでいる。成虫は、一年を通し普通に見ることができる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】バッタ目　キリギリス科
【種名】タイワンウマオイ
【学名】Hexacentrus unicolor
【分布・生態】 草原から山間部まで普通に見られる。全身緑色で、背中に茶色い帯がある。肉食性で、他の昆虫を捕らえて食べる。夜行性で、雄はスイチョ、スイチョと鳴く。

【分類】バッタ目 クツワムシ科
【種名】タイワンクツワムシ
【学名】Mecopoda elongata
【分布・生態】 琉球列島の平地の草原やサトウキビ畑などにすみ、夜間に活動する草食性のバッタ。成虫は一年中みられ、とくに秋から冬にかけて多い。

【分類】バッタ目　バッタ科
【種名】タイワンツチイナゴ
【学名】Patanga succincta
【分布・生態】 琉球列島に分布し、一年を通し見ることができる。国内最大種のひとつ。

【分類】バッタ目　バッタ科
【種名】タイワンハネナガイナゴ
【学名】Oxya chinensis
【分布・生態】 沖縄島、久米島、宮古島などのススキ原やサトウキビ畑で一年を通して普通に見られる。イネ科植物の害虫として知られる。

【分類】チョウ目　ヒトリガ科
【種名】タイワンベニゴマダラヒトリ
【学名】Utetheisa lotrix
【分布・生態】 国外では東南アジア～オーストラリア、国内では本州～琉球列島に分布する。前翅長 17mm 内外で、5～11 月に見られる。幼虫は緑肥作物のタヌキマメ類の害虫である。

【分類】コウチュウ目　ハムシ科
【種名】タテスジヒメジンガサハムシ
【学名】Cassida circumdata
【分布・生態】 国外では台湾、中国、インドなど、国内では琉球列島に分布する。体長 4.5～5.6mm で、5～10 月に見られる。サツマイモ、ノアサガオなどを寄主とし、葉に付く。武士のかぶった陣笠に似ていることから、ジンガサハムシの名がついた。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】チョウ目　タテハチョウ科
【種名】タテハモドキ
【学名】Junonia almana
【分布・生態】 国外では東南アジア、国内では九州～琉球列島に分布する。前翅長30mm 前後で、ほぼ 1 年中見られる。翅の裏面は季節により斑紋が変化し、夏型が目玉模様、秋型が枯葉模様となる。イワダレソウ、スズメノトウガラシなどを食草とする。

【分類】チョウ目 セセリチョウ科
【種名】チャバネセセリ
【学名】Pelopidas mathias
【分布・生態】 琉球列島のススキやチガヤなどの草地でよく見られる。沖縄諸島では春から秋にかけて見ることができる。

【分類】カマキリ目　カマキリ科
【種名】チョウセンカマキリ
【学名】Tenodera angustipennis
【分布・生態】 沖縄島、西表島、石垣島などの草地で夏～秋に見られる。両前足のねもとにオレンジ色の紋がある。

【分類】ヨコバイ目　テングスケバ科
【種名】ツマグロスケバ
【学名】Orthopagus lunulifer
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などで 5～12 月に見られる。体と顔は、ともに細長い。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】ツマグロヒョウモン
【学名】Argyreus hyperbius
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの海岸付近から市街地まで幅広い環境で見ることができる。一年を通して見ることができるが、夏場は数が少なくなる。

【分類】チョウ目　タテハチョウ科
【種名】ツマムラサキマダラ
【学名】Euploea mulciber
【分布・生態】 沖縄島、西表島などで一年を通して見ることができ、真冬でも多くの成虫が見られる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】チョウ目　メイガ科
【種名】トサカフトメイガ
【学名】Locastra muscosalis
【分布・生態】 国外では台湾、中国、インドなど、国内では本州～琉球列島に分布する。前翅長 14～19mm 内外で、4～11 月に見られる。平地の林や山地で採集される。食草は不明。

【分類】チョウ目　アゲハチョウ科
【種名】ナガサキアゲハ
【学名】Papilio memnon
【分布・生態】 沖縄に生息するアゲハチョウ科の仲間のうち、最も大きい種。

【分類】カメムシ目 キンカメムシ科
【種名】ナナホシキンカメムシ
【学名】Calliphara nobilis
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの林内にすみ、初夏から秋の終わりにかけて見られる。また、カンコノキ類の幹などに群れているところもよく見られる。

【分類】コウチュウ目 テントウムシ科
【種名】ハイイロテントウ
【学名】Olla v-nigrum
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などで見られ、ギンネムの木に発生するキジラミ類などを食べる。一年を通し見ることができる。本来は沖縄にいなかった虫である。

【分類】チョウ目　ヒトリガ科
【種名】ハイイロヒトリ
【学名】Creatonotos transiens
【分布・生態】インド、国内では琉球列島、薩南諸島に分布する。前翅長 22mm 内外で、3～12 月に見られる。フダン、ソウ、ヤブカラシを食草とする。

【分類】カマキリ目　カマキリ科
【種名】ハラビロカマキリ
【学名】Hierodula patellifera
【分布・生態】 琉球列島から本州まで分布する。樹の上にすむカマキリで、沖縄では 4 月から 12 月まで見られる。体型が太短いことと、前羽の表面に2個の白い点があるのが特徴。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】トンボ目 トンボ科
【種名】ハラボソトンボ
【学名】Orthetrum sabina
【分布・生態】 琉球列島の水辺にすみ、集落内から山地までさまざまな場所で見ることができる。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】ヒメアカタテハ
【学名】Cynthia cardui
【分布・生態】 琉球列島各地にすみ、一年を通し畑の周辺などで見られる。オスは農道の上などにとまってなわばりを張り、侵入してくる他のチョウを激しく追い払う。

【分類】トンボ目　イトトンボ科
【種名】ヒメイトトンボ
【学名】Agriocnemis pygmaea
【分布・生態】 コフキヒメイトトンボによく似ているが、大人になっても粉はふかない。日本最小のイトトンボ。ヒメイトトンボの方が少ない。

【分類】コウチュウ目　ハムシ科
【種名】フタイロウリハムシ
【学名】Aulacophora bicolor
【分布・生態】 国外では台湾、東南アジア、国内では奄美大島以南に分布する。体長7.6～8.3mm で、4～10 月に見られる。上翅の黒斑は肩部のみ黒い 2 斑型と、上翅に 3 対の黒斑がある 6 斑型、これらの中間型がある。カラスウリ、ヘチマなどを寄主とする。

【分類】チョウ目　タテハチョウ科
【種名】フタオチョウ
【学名】Polyura eudamippus
【分布・生態】 はねの下の方に尾のような突起が二つあるのが名前の由来。国内では沖縄島の北部に分布。成虫は森の中に多く、樹液や果実の汁を吸う。湿地で水を飲んでいることもある。

【分類】トンボ目 トンボ科
【種名】ベニトンボ
【学名】Trithemis aurora
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの非常にゆるやかな流れの水辺にすんでいる。成虫は春から秋にかけてよく見られる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】バッタ目　マツムシ科
【種名】マダラコオロギ
【学名】Cardiodactylus guttulus
【分布・生態】 コオロギという名前だがマツムシの仲間。オスは昼夜を問わず、シッ、シッ、と鳴く。よく木の幹にいる。

【分類】バッタ目　ヒシバッタ科
【種名】ミナミハネナガヒシバッタ
【学名】Euparatettix histricus
【分布・生態】 1年中見られる。田んぼの畦道のような、明るく湿った草地にいる。粘土質のところに多い。

【分類】カメムシ目　カメムシ科
【種名】ミナミフタテンカメムシ
【学名】Laprius varicornis
【分布・生態】 国内では沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島に分布。サトウキビなどに寄生する、個体数は多くない。

【分類】ハエ目　ムシヒキアブ科
【種名】メスアカオオムシヒキ
【学名】Microstylum dimorphum
【分布・生態】 日本最大のムシヒキアブで、琉球列島以南に分布。様々な昆虫を捕らえ、体液を吸う。捕まえた昆虫をひきずって移動するため、ムシヒキアブという。

【分類】チョウ目　ヒトリガ科
【種名】モンシロモドキ
【学名】Nyctemera adversata
【分布・生態】 琉球列島で一年を通して見ることができる。成虫は昼間に活動し、ひらひらと飛び、蜜も吸う。

【分類】チョウ目 シジミチョウ科
【種名】ヤマトシジミ
【学名】Zizeeria maha
【分布・生態】 県内各地の草原や芝生などで、一年を通し普通にみられるシジミチョウ。民家の庭先などでもよく見られる。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】コウチュウ目　ハムシ科
【種名】ヨツモンカメノコハムシ
【学名】Laccoptera quadrimaculata
【分布・生態】 沖縄島以南の琉球列島で見られ、日本に分布するカメノコハムシ類では最大である。

【分類】コウチュウ目　ゾウムシ科
【種名】ヨナグニアカアシカタゾウムシ
【学名】Metapocyrtus yonagunianus
【分布・生態】 与那国島の特産種で、沖縄本島では今回が初確認。体表がかたく、鳥などに食べられても消化されずに排泄されるらしい。しかしそのために前ばねが開かず、飛ぶことができない。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】リュウキュウアサギマダラ
【学名】Ideopsis similis
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの海岸付近から市街地まで幅広い環境で見ることができる。一年を通して見みることができる。

【分類】ヨコバイ目　セミ科
【種名】リュウキュウアブラゼミ
【学名】Graptopsaltria bimaculata
【分布・生態】 沖縄島、久米島などの平地から山地まですみ、6月初旬から 10 月下旬まで見られる。沖縄では古くから、このセミを「ナービーカチカチー」と呼んでいる。

【分類】トンボ目 イトトンボ科
【種名】リュウキュウベニイトトンボ
【学名】Ceriagrion auranticum
【分布・生態】 琉球列島の水辺で見 られる。ゆるやかな水路や川の周りにすんでいる。成虫は一年中見られ、とくに春と秋に多い。

【分類】チョウ目 タテハチョウ科
【種名】リュウキュウミスジ
【学名】Neptis hylas
【分布・生態】 沖縄島、石垣島などの市街地から山地まで、一年中みられる。はねを開くと白いラインが三本あることから、「ミスジ」の名がついた。

浦添市生き物図鑑

昆虫類

【分類】ゴキブリ目　ゴキブリ科
【種名】ワモンゴキブリ
【学名】Periplaneta americana
【分布・生態】沖縄ではうちのなかで見るゴキブリとして一般的な種。国内では九州～琉球列島に分布。屋内性のゴキブリのなかでは最大の種。原産地はアフリカで、世界中の熱帯・亜熱帯に分布をひろげている。

浦添市生き物図鑑

陸生貝類 12 種類

浦添市生き物図鑑

陸生貝類

【分類】ニナ目（中腹足目） ヤマタニシ科
【種名】アオミオカタニシ
【学名】Leptomopa netidum
【分布・生態】 沖縄諸島の石灰岩地の林に多く見られる。緑色が特徴的な貝だが、これは体が緑色をしていて、殻自体は白色の半透明である。また淡水にすむタニシの仲間で、フタを持っているのも特徴的だ。

【分類】マイマイ目（柄眼目） ベッコウマイマイ科
【種名】アジアベッコウ
【学名】Macrochlamys sp.
【分布・生態】 中国南西部からマダガスカルにかけて分布する。沖縄島へは観葉植物の流通を介して移入されたと考えられる外来種である。殻径 25mm で大型。耕作地や公園、市街地の林縁部で多産し、やや乾燥した人為的環境を好む。

【分類】マイマイ目（柄眼目） アフリカマイマイ科
【種名】アフリカマイマイ
【学名】Achatina fulica
【分布・生態】 県内各地の畑地周辺の草むらなどで多く見られ、食用で持ち込まれたものが逃げ出したりして野生化している。農作物の害虫として有名。 外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で「要注意外来生物」に挙げられている。

【分類】マイマイ目（柄眼目） カサマイマイ科
【種名】オオカサマイマイ
【学名】Videnoida horiomphala
【分布・生態】 沖縄島、久米島の林にすみ、枯れた木の皮の内側などで見られることが多い。円盤のような平たい殻は、このような樹皮などの狭い場所に入り込むのに適している。

【分類】マイマイ目（柄眼目） オナジマイマイ科
【種名】オキナワウスカワマイマイ
【学名】Acusta despeta despeta
【分布・生態】 県内各地の畑地から海岸林まで広い範囲にすみ、最も目にするカタツムリである。殻を押しつけあって遊ぶ「ちんなんおーらせー」という子供の遊び道具にもなっていた。

【分類】ニナ目（中腹足目） ヤマタニシ科
【種名】オキナワヤマタニシ
【学名】Cyclophorus turgidus turgidus
【分布・生態】 沖縄諸島の石灰岩地の林に多く見られ、落ち葉などを食べる。淡水にすむタニシの仲間で、フタを持っている。

浦添市生き物図鑑

陸生貝類

【分類】マイマイ目（柄眼目） オナジマイマイ科
【種名】シュリケマイマイ
【学名】Aegista elegantissuma
【分布・生態】 石灰岩地にのみ生息する、平たく殻の周縁に毛が生えている貝。沖縄島と瀬底島に分布。

【分類】マイマイ目（柄眼目） ニッポンマイマイ科（ナンバンマイマイ科）
【種名】シュリマイマイ
【学名】Subgenus mercatoria
【分布・生態】 沖縄島などの林でよく見られる。石灰岩地に多く、日中は岩の割れ目などに隠れていて、夜になると活動を始める。

【分類】マイマイ目（柄眼目） ニッポンマイマイ科（ナンバンマイマイ科）
【種名】シラユキヤマタカマイマイ
【学名】Satsuma largillierti
【分布・生態】 沖縄島などの林にすみ、無地のものからラインの入ったものなど、殻の模様は多彩である。また地面で生活することはなく、常に木の上にいるのもこの種の特徴である。

【分類】オカミミガイ目（原始有肺目） ケシガイ科
【種名】ナガケシガイ
【学名】Carychium cymatoplax
【分布・生態】 奄美大島から八重山諸島に広く分布する。殻は微小（殻高約 1.8mm）で、殻経は細い（約 0.6mm）。海岸林や低山地の林床に生息し、自然林中にはあまり生息しない。

【分類】マイマイ目（柄眼目） オナジマイマイ科
【種名】パンダナマイマイ
【学名】Bradybaena circulus
【分布・生態】 沖縄諸島の人家周辺のやぶや畑、海岸林などにすむ。濃い色から薄い色まで様々な殻の色、殻に帯模様があるものと無いもの、殻のふちが角張っていたり丸かったりと、殻には違いがみられる。

【分類】オキナエビス目（オキナエビス目） ゴマオカタニシ科
【種名】フクダゴマオカタニシ
【学名】Georissa hukudai
【分布・生態】 沖縄島のみに分布する。殻高 2 ㎜、殻径 1.6mm の微小な貝。石灰岩壁に生息する。林縁部に生息していたが、生息地の森林が様々な要因で伐採され、乾燥化することによって、減少している。

浦添市生き物図鑑

陸生貝類 12 種類

浦添市生き物図鑑

陸生貝類

【分類】ニナ目（中腹足目） ヤマタニシ科
【種名】アオミオカタニシ
【学名】Leptomopa netidum
【分布・生態】 沖縄諸島の石灰岩地の林に多く見られる。緑色が特徴的な貝だが、これは体が緑色をしていて、殻自体は白色の半透明である。また淡水にすむタニシの仲間で、フタを持っているのも特徴的だ。

【分類】マイマイ目（柄眼目） ベッコウマイマイ科
【種名】アジアベッコウ
【学名】Macrochlamys sp.
【分布・生態】 中国南西部からマダガスカルにかけて分布する。沖縄島へは観葉植物の流通を介して移入されたと考えられる外来種である。殻径 25mm で大型。耕作地や公園、市街地の林縁部で多産し、やや乾燥した人為的環境を好む。

【分類】マイマイ目（柄眼目） アフリカマイマイ科
【種名】アフリカマイマイ
【学名】Achatina fulica
【分布・生態】 県内各地の畑地周辺の草むらなどで多く見られ、食用で持ち込まれたものが逃げ出したりして野生化している。農作物の害虫として有名。 外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で「要注意外来生物」に挙げられている。

【分類】マイマイ目（柄眼目） カサマイマイ科
【種名】オオカサマイマイ
【学名】Videnoida horiomphala
【分布・生態】 沖縄島、久米島の林にすみ、枯れた木の皮の内側などで見られることが多い。円盤のような平たい殻は、このような樹皮などの狭い場所に入り込むのに適している。

【分類】マイマイ目（柄眼目） オナジマイマイ科
【種名】オキナワウスカワマイマイ
【学名】Acusta despeta despeta
【分布・生態】 県内各地の畑地から海岸林まで広い範囲にすみ、最も目にするカタツムリである。殻を押しつけあって遊ぶ「ちんなんおーらせー」という子供の遊び道具にもなっていた。

【分類】ニナ目（中腹足目） ヤマタニシ科
【種名】オキナワヤマタニシ
【学名】Cyclophorus turgidus turgidus
【分布・生態】 沖縄諸島の石灰岩地の林に多く見られ、落ち葉などを食べる。淡水にすむタニシの仲間で、フタを持っている。

浦添市生き物図鑑

陸生貝類

【分類】マイマイ目（柄眼目） オナジマイマイ科
【種名】シュリケマイマイ
【学名】Aegista elegantissuma
【分布・生態】 石灰岩地にのみ生息する、平たく殻の周縁に毛が生えている貝。沖縄島と瀬底島に分布。

【分類】マイマイ目（柄眼目） ニッポンマイマイ科（ナンバンマイマイ科）
【種名】シュリマイマイ
【学名】Subgenus mercatoria
【分布・生態】 沖縄島などの林でよく見られる。石灰岩地に多く、日中は岩の割れ目などに隠れていて、夜になると活動を始める。

【分類】マイマイ目（柄眼目） ニッポンマイマイ科（ナンバンマイマイ科）
【種名】シラユキヤマタカマイマイ
【学名】Satsuma largillierti
【分布・生態】 沖縄島などの林にすみ、無地のものからラインの入ったものなど、殻の模様は多彩である。また地面で生活することはなく、常に木の上にいるのもこの種の特徴である。

【分類】オカミミガイ目（原始有肺目） ケシガイ科
【種名】ナガケシガイ
【学名】Carychium cymatoplax
【分布・生態】 奄美大島から八重山諸島に広く分布する。殻は微小（殻高約 1.8mm）で、殻経は細い（約 0.6mm）。海岸林や低山地の林床に生息し、自然林中にはあまり生息しない。

【分類】マイマイ目（柄眼目） オナジマイマイ科
【種名】パンダナマイマイ
【学名】Bradybaena circulus
【分布・生態】 沖縄諸島の人家周辺のやぶや畑、海岸林などにすむ。濃い色から薄い色まで様々な殻の色、殻に帯模様があるものと無いもの、殻のふちが角張っていたり丸かったりと、殻には違いがみられる。

【分類】オキナエビス目（オキナエビス目） ゴマオカタニシ科
【種名】フクダゴマオカタニシ
【学名】Georissa hukudai
【分布・生態】 沖縄島のみに分布する。殻高 2 ㎜、殻径 1.6mm の微小な貝。石灰岩壁に生息する。林縁部に生息していたが、生息地の森林が様々な要因で伐採され、乾燥化することによって、減少している。

浦添市生き物図鑑

魚類 45 種類

浦添市生き物図鑑

魚類

【分類】スズキ目 テンジクダイ科
【種名】アマミイシモチ
【学名】Apogon amboinensis
【分布・生態】 県内各地の河口などの汽水域（海水と淡水の混ざった場所）に生息し、とくにマングローブが密生するような環境に多く見られる。

【分類】スズキ目 ハゼ科
【種名】アヤヨシノボリ
【学名】Rhinogobius sp.
【分布・生態】 沖縄県内各地の河川下流域～中流域に生息する、全長 5cm ほどのハゼ。河川に生息する両側回遊性であるが、県内ではダム湖に陸封されている例も知られている。産卵期は 12 月～3 月。

【分類】スズキ目 ハゼ科
【種名】イズミハゼ
【学名】Mugilogobius sp.
【分布・生態】 県内各地の河口域の泥底を好み、水中の溶存酸素の少ない場所でもみられる。雑食性。

【分類】カライワシ目 イセゴイ科
【種名】イセゴイ
【学名】Megalops cyprinoides
【分布・生態】 県内の沿岸表層に生息。肉食性で小魚などを主に食べる。夏季には河川にも進入する。

【分類】ウナギ目 ウナギ科
【種名】オオウナギ
【学名】Anguilla marmorata
【分布・生態】 県内各地の河川の中流あたりで多く見られる。夜行性で、魚類やエビ類などを食べる。産卵生態は降河回遊性。

【分類】スズキ目 ユゴイ科
【種名】オオクチユゴイ
【学名】Kuhlia rupestris
【分布・生態】 普段は河口域から河川中流域に生息。産卵のため海域に出る降河回遊魚。肉食性で魚類、甲殻類などを食べる。

浦添市生き物図鑑

魚類

【分類】フグ目 フグ科
【種名】オキナワフグ
【学名】Chelonodon patoca
【分布・生態】 県内各地の沿岸～河口付近、マングローブ帯の水路などに生息。雑食性。

【分類】スズキ目 フエダイ科
【種名】オキフエダイ
【学名】Lutjanus fulvus
【分布・生態】 県内各地の河口などの汽水域（海水と淡水の混ざった場所）などに生息し、小さなエビや魚類などを食べている。淡水域には進入しないとされている。

【分類】スズキ目 スズメダイ科
【種名】オヤビッチャ
【学名】Abudefduf vaigiensis
【分布・生態】 体長 15cmほどでリーフの外側、水深 5～10mくらいのところに生息。体に 5 本の黒いしまがあり、背中が黄色いのが特徴。動物プランクトンを食べる。

【分類】スズキ目 カワスズメ科
【種名】カワスズメ（モザンビークテラピア）
【学名】Oreochromis mossambicus
【分布・生態】 食用として沖縄島に持ち込まれた外来種。県内各地の淡水や感潮域に生息している。 外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で「要注意外来生物」に挙げられている。

【分類】トゲウオ目 ヨウジウオ科
【種名】カワヨウジ
【学名】Hippichthys spicifer
【分布・生態】 県内各地の河口などの汽水域（海水と淡水の混ざった場所）や、マングローブ帯の水路に生息。小さいエビなどを食べている。

【分類】ウナギ目 アナゴ科
【種名】キリアナゴ
【学名】Conger cinereus
【分布・生態】 県内各地の沿岸域に生息し、河川にも進入する。夜行性で、小型魚類、甲殻類を食べるとされている。

浦添市生き物図鑑

魚類

【分類】スズキ目 アジ科
【種名】ギンガメアジ
【学名】Caranx sexfasciatus
【分布・生態】 県内各地の沿岸域に生息し、河川内にも進入する。肉食性でエビや小型魚類などを食べる。

【分類】カダヤシ目　カダヤシ科
【種名】グッピー
【学名】Poecilia reticulata
【分布・生態】 中南米原産の魚類で、1960 年代に沖縄島に持ち込まれ、1970 年代には沖縄島中南部に定着していたとされる。水質の汚濁に強く、沖縄島中南部の汚染が進んだ河川では優占種となっている。 外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で「要注意外来生物」に挙げられている。

【分類】スズキ目 ハゼ科
【種名】クロコハゼ
【学名】Drombus sp.
【分布・生態】 県内各地の河口域で主にみられ、泥底などの場所に枯れ葉などが沈んでいる場所を好んですむようである。

【分類】スズキ目 クロサギ科
【種名】クロサギ属の一種
【学名】Gerres sp.
【分布・生態】 クロサギ属各種は、県内各地の沿岸の浅い場所に生息し、砂の中のゴカイ類などを食べている。

【分類】スズキ目 クロホシマンジュウダイ科
【種名】クロホシマンジュウダイ
【学名】Scatophagus argus
【分布・生態】 県内各地の河口域に生息し、稚魚や幼魚は淡水域でも見られる。スキャトファーガスという名で観賞魚として店頭でも見られる。

【分類】スズキ目　ハゼ科
【種名】クロヨシノボリ
【学名】Rhinogobius sp.
【分布・生態】 沖縄県内各地の河川中流域～上流域に生息する、全長 5cmほどのハゼ。河川に生息する両側回遊性であるが、県内ではダム湖に陸封されている例も知られている。産卵期は 12 月～3 月。

浦添市生き物図鑑

魚類

【分類】コイ目 コイ科
【種名】コイ
【学名】Cyprinus carpio
【分布・生態】 県内各地の河川の中・下流などで見られる。雑食性で、貝類から水草や藻類まで食べる。本来沖縄にはいなかった魚。

【分類】スズキ目 ハゼ科
【種名】ゴクラクハゼ
【学名】Rhinogobius giurinus
【分布・生態】 沖縄県内各地の河川下流域に生息する、全長6cmほどになるハゼ。河川に生息する両側回遊性のハゼであるが、県内ではダム湖に陸封されている例も知られている。

【分類】スズキ目 シマイサキ科
【種名】コトヒキ
【学名】Terapon jarbua
【分布・生態】 県内各地の沿岸や河口などで普通に見られる。捕まえるとうきぶくろを使って「グッグッグッ」と鳴く。

【分類】ボラ目 ボラ科
【種名】コボラ
【学名】Chelon macrolepis
【分布・生態】 県内各地の沿岸～河口の海水と淡水の混ざる場所まで広範囲で見られる。岩の表面に付いている藻類などを食べる。

【分類】スズキ目 アイゴ科
【種名】ゴマアイゴ
【学名】Siganus guttatus
【分布・生態】 県内各地の内湾などにすみ、幼魚はマングローブ帯の水路でも見られる。雑食性の魚である。背びれのトゲには毒があるので、素手での取り扱いには注意が必要である。

【分類】スズキ目 フエダイ科
【種名】ゴマフエダイ
【学名】Lutjanus rgentimaculatus
【分布・生態】 県内各地の河口などの汽水域（海水と淡水の混ざった場所）などに生息し、カニや稚魚などを食べる。琉球列島のフエダイ類の中では最も上流の、淡水域まで進入してくる種。

浦添市生き物図鑑

魚類

【分類】ナマズ目 ゴンズイ科
【種名】ゴンズイ属
【学名】Plotosus sp.
【分布・生態】 体長 20cm ほどで、茶色に黄色の 2 本線があり、口には 8 本のひげがある。ゴンズイ球と呼ばれる群れをつくって行動し、海底の小動物を食べている。背びれ、胸びれ、腹びれに毒のとげを持っており、刺されるととても痛く、大きくはれ、ひどいときには意識を失うこともある。琉球列島にはゴンズイ属が 2 種生息するとの論文が 2008 年に出たが、写真だけではどちらの種に相当するのか判断できない。

【分類】フグ目 フグ科
【種名】スジモヨウフグ
【学名】Arothron manilensis
【分布・生態】 県内各地の内湾などにすみ、幼魚はマングローブ帯の水路でも見られる。雑食性。

【分類】スズキ目 ハゼ科
【種名】スナゴハゼ
【学名】Pseudogobius javanicus
【分布・生態】 県内各地の河口域にすみ、とくに川底が砂や泥の場所に多く見られる。干潮時には浅瀬でよく見られ、おどろくとカニなどの掘った穴に逃げ込む行動が見られる。

【分類】タウナギ目　タウナギ科
【種名】タウナギ
【学名】Monopterus albus
【分布・生態】 沖縄県内では、沖縄島、久米島、石垣島に分布する。水田や隣接する水路、池沼、湿地、流れのゆるい河川に生息する。いずれも泥底で水生植物が繁茂している場所を好む。空気呼吸を行うため、溶存酸素の低い水域でも生存可能である。一生を淡水域で過ごす純淡水魚。

【分類】スズキ目 トラギス科
【種名】ダンダラトラギス
【学名】Parapercis cylindrica
【分布・生態】 県内各地の沿岸域の浅い砂礫底に生息。主に小型の甲殻類、ゴカイ類を食べるとされている。

【分類】スズキ目 カワアナゴ科
【種名】チチブモドキ
【学名】Eleotris acanthopoma
【分布・生態】 県内各地の河口などの汽水域（海水と淡水の混ざった場所）に生息し、エビや魚などを食べている。昼間は物陰に潜んでいるが、夜になると外に出てきて活動するとされる。

浦添市生き物図鑑

魚類

【分類】スズキ目 ツノダシ科
【種名】ツノダシ
【学名】Zanclus cornutus
【分布・生態】 体長 25cmほどの魚類で、水深 10mくらいのところをよく泳いでいる。長く伸びた背びれが特徴。カイメン類や海藻を食べている。

【分類】トゲウオ目 ヨウジウオ科
【種名】テングヨウジ
【学名】Microphis brachyurus brachyurus
【分布・生態】 県内各地の純淡水域で流れの緩やかな場所にすみ、小さいエビなどを食べている。体の色が保護色となっているため、野外ではなかなか見つけられない。

【分類】スズキ目 カワスズメ科
【種名】ナイルティラピア
【学名】Oreochromis niloticus
【分布・生態】 食用として沖縄島に持ち込まれた外来種。県内各地の淡水や汽水域に生息し、プランクトンから昆虫まで様々なものを食べる。 外来生物法(特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)で「要注意外来生物」に挙げられている。

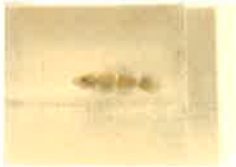
【分類】フグ目 ハリセンボン科
【種名】ハリセンボン
【学名】Diodon holocanthus
【分布・生態】 県内各地の浅海や岩礁域でよくみられるハリセンボン類。甲殻類や ゴカイ類、ウニ類などを食べるとされている。

【分類】スズキ目 ハゼ科
【種名】ヒナハゼ
【学名】Rediogobius bikolanus
【分布・生態】 河川河口の汽水域～淡水域にに生息する全長 4cmほどの小型のハゼ。沖縄では5月～7月が産卵期で、貝殻や石の裏面に卵を生み付け、雄が孵化まで保護するとされている。**【写真提供:浦添高校サイエンス部】**

【分類】スズキ目 ハゼ科
【種名】ボウズハゼ
【学名】Sicyopterus japonicus
【分布・生態】 県内各地の河川の中流～上流に見られ、岩に付いている藻類を食べる。口と腹びれが強力な吸盤となっていて、10 メートル程度の滝でものぼることが出来るという。両側回遊性。

浦添市生き物図鑑

魚類



【分類】スズキ目 カワアナゴ科
【種名】ホシマダラハゼ
【学名】Ophiocara porocephala
【分布・生態】 八重山地方で多く見られるが、沖縄島にも生息している。流れがゆるやかで倒木や水草などが多いところにすみ、エビや魚などを食べている。

【分類】ボラ目 ボラ科
【種名】ボラ
【学名】Mugil cephalus cephalus
【分布・生態】 県内各地の沿岸～河口でよく見られる。基本的に海水魚だが、海水と淡水の混ざる河口まで進入する。雑食性で、おもに藻類などを食べる。

【分類】スズキ目 ハゼ科
【種名】ミツボシゴマハゼ
【学名】Pandaka trimaculata
【分布・生態】 県内各地の河川下流域に生息する。非常に小型の魚で、全長 1cm ちょっとで大人である。

【分類】スズキ目 タイ科
【種名】ミナミクロダイ
【学名】Acanthopagrus sivicolus
【分布・生態】 県内各地の内湾や河口などに生息し、カニやエビから藻類までいろんなものを食べている。方言名はチン。

【分類】スズキ目 ハゼ科
【種名】ミナミトビハゼ
【学名】Periophthalmus argentilineatus
【分布・生態】 県内各地の河口のマングローブ帯に多く見られ、魚というよりカエルなどの両生類に似た姿をしている。

【分類】スズキ目 ハゼ科
【種名】ミナミヒメハゼ
【学名】Popillogobius reichei
【分布・生態】 県内各地の河口域にすみ、とくに川底が砂や泥の場所に多く見られる。

浦添市生き物図鑑

魚類

【分類】スズキ目 ユゴイ科
【種名】ユゴイ
【学名】Kuhlia marginata
【分布・生態】 普段は河川の下流域から中流域に生息。産卵のため海域に出る降河回遊魚。肉食性で、水面に落ちた昆虫などを食べる。

【分類】スズキ目 スズメダイ科
【種名】ルリスズメダイ
【学名】Chrysiptera cyanea
【分布・生態】 体長 5cmほどのサンゴ礁域の代表的な種。数匹から数 10 匹の群れで行動し、主に動物プランクトンを食べている。

【分類】スズキ目 アジ科
【種名】ロウニンアジ
【学名】Caranx ignobilis
【分布・生態】 県内各地の内湾や沿岸域に生息し、河川汽水域にも進入する。肉食性でエビ・カニなどの甲殻類を主に食べる。

浦添市生き物図鑑

甲殻類 47 種類

浦添市生き物図鑑

甲殻類

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】アシハラガニ
【学名】Helice tridens
【分布・生態】 県内各地の河口、汽水域に生息する。川岸の土手に穴を掘って生活している。

【分類】エビ目　イワガニ科
【種名】アシハラガニモドキ
【学名】Neosarmatium smithi
【分布・生態】 マングローブ林に穴を掘ってすみ、その深さは 60cm にも達する。マングローブ樹の落ち葉を食べる。

【分類】エビ目 ガザミ科
【種名】アミメノコギリガザミ
【学名】Scylla serrata
【分布・生態】 県内各地の河口などの汽水域（海水と淡水の混ざった場所）で石の下やマングローブの根本に穴を掘ってすんでいる。満潮時や夜になると表に出てきて活動する。

【分類】エビ目 アメリカザリガニ科
【種名】アメリカザリガニ
【学名】Procambarus clarkii
【分布・生態】 北米大陸南部原産の淡水に住む甲殻類。日本は 1920～30 年代に数回持ち込まれ、現在、北海道を除く日本全国に定着している。沖縄島では 1980 年代に定着していることが確認されている。 外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で「要注意外来生物」に挙げられている。

【分類】無柄目　フジツボ科
【種名】アメリカフジツボ
【学名】Balanus improvisus
【分布・生態】 河口域に生息する外来種。ほぼ一年中繁殖でき、在来種よりも生殖効率が優れている。

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】オオイワガニ
【学名】Grapsus tenuicrustatus
【分布・生態】 県内各地の岩場や波打ち際などに群れをつくってすむ。人影に敏感ですぐ隠れる。

浦添市生き物図鑑

甲殻類

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】オオヒライソガニ
【学名】Varuna litterata
【分布・生態】 体が全体的に平べったく、歩脚に柔らかい毛が密生しているカニ。
県内各地の河口域から河川下流部の岩場や護岸で普通に見られる。

【分類】エビ目 オカガニ科
【種名】オカガニ
【学名】Cardisoma hirtipes
【分布・生態】 県内各地の川岸や海岸で穴を掘ってすむ。名前の通り陸上で生活していて、夏の満月の夜に卵を産むために海にやってくる。

【分類】エビ目 オカヤドカリ科
【種名】オカヤドカリ
【学名】Coenobita cavipes
【分布・生態】 県内各地の海岸や、その近辺の林や山の中で見られる。アダンの実や流れ着いた海藻など様々なものを食べる。夜間に活動することが多い。

【分類】エビ目 スナガニ科
【種名】オキナワハクセンシオマネキ
【学名】Uca lactea perplexa
【分布・生態】 県内各地の河口域の砂泥地に穴を掘ってすむ。甲には白と黒の模様があり、まれに模様のないものもいる。

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】カクベンケイガニ
【学名】Parasesarma pictum
【分布・生態】 河口付近の草むらや土手、海岸近くの崖などに穴を掘ってすむ。
日中も巣穴近くでみられるが、近寄るとすぐにかくれてしまう。

【分類】エビ目 オウギガニ科
【種名】カノコセビロガニ
【学名】Epixanthus dentatus
【分布・生態】 県内各地の河口域の石の下やマングローブ帯などにすむ。
背中がかのこ(鹿の子)模様をしてることからこの名前が付いた。

浦添市生き物図鑑

甲殻類

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】クロベンケイガニ
【学名】Chiromantes dehaani
【分布・生態】 県内各地の河口近辺の草むらや土手などに穴を掘ってすんでいる。

【分類】エビ目 オウギガニ科
【種名】ケブカガニ
【学名】Pilumnus vespertillo
【分布・生態】 サンゴ礁や潮だまりでごくふつうに見られる種。ふさふさした長い毛でおおわれている。

【分類】エビ目 カニダマシ科
【種名】ケブカカニダマシ
【学名】Petrolisthes pubescens
【分布・生態】 サンゴ礁のイノーなどにすんで、岩の下や死サンゴの破片のすきまにかくれている。昼も夜もあまり外に出てこない。ヤドカリのなかまで、しっぽの部分をおなかの下にまるめてかくしている。

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】ケフサヒライソモドキ
【学名】Ptychognathus barbatus
【分布・生態】 県内各地の淡水の影響のある河の中にすみ、石の下などに隠れている。はさみに長く柔らかい毛の束がある。

【分類】エビ目 テナガエビ科
【種名】コンジンテナガエビ
【学名】Macrobrachium lar
【分布・生態】 琉球列島から台湾、インドまで広く分布。石垣島や西表島では食用にもなる。成長すると 30cm を超えることもある大型の種。通し回遊性

【分類】無柄目 フジツボ科
【種名】シロスジフジツボ
【学名】Balanus albicostatus
【分布・生態】 県内各地の内湾の岩場や桟橋、岸壁などでよく見られる。長時間干上がった状態でも平気である。おもにプランクトンなどを食べる。

浦添市生き物図鑑

甲殻類

【分類】エビ目 オウギガニ科
【種名】スベスベマンジュウガニ
【学名】Atergatis floridus
【分布・生態】 岩礁地帯にすみ、夜行性だが昼間でも巣穴から出ているときがある。わりと大きくて、丸くて食べられそうにみえるが、サキシトキシンなどのまひ性の毒を含んでいるので決して食べてはいけない。 食べると数分でしびれ、嘔吐し、体がまひして呼吸困難になり、命を落とすこともある。もしまちがって食べたらすぐに病院へ。手を触れても害はない。

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】タイワンアシハラガニ
【学名】Helice formasensis
【分布・生態】 県内各地の河口や河岸などに穴を掘ってすむ。草の生えた泥地などを好む。

【分類】無柄目　フジツボ科
【種名】タテジマフジツボ
【学名】Balanus kondakovi
【分布・生態】 内湾の岩礁に石灰質の物質で固着する。潮が満ちると、殻口から蔓脚を出してプランクトンを食べる。 外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で「要注意外来生物」に挙げられている。

【分類】エビ目 スナガニ科
【種名】ツノメガニ
【学名】Ocypode ceratophthalma
【分布・生態】 オスは成長すると眼に長い角ができるので、この名前がついた。砂浜に深い穴を掘ってすみ、夜になると穴から出てえさを探して歩く。ジグザグに、とてもすばやく動く。夜は色素（からだの色のものになるもの）がかわって真っ白になり、砂浜をすばやく走るので、「ゆうれいガニ」とも呼ばれる。

【分類】エビ目 スナガニ科
【種名】ツノメチゴガニ
【学名】Tmethypocoelis ceratophora
【分布・生態】 県内各地の河口や干潟などにすむ。体が小さく砂地と同じような色をしているが、白いはさみをバンザイするように動かしているので、意外と目立つ。

【分類】エビ目 ヤドカリ科
【種名】ツメナガヨコバサミ
【学名】Clibanarius longitarsus
【分布・生態】 甲長 25～27mm。河口の汽水域やその上流の淡水中にも見られるやや中型のヤドカリ。河口域のヤドカリ類の代表種で、流れのある水際付近を徘徊する。

浦添市生き物図鑑

甲殻類

【分類】エビ目 ヌマエビ科
【種名】トゲナシヌマエビ
【学名】Caridina typus
【分布・生態】 インド・西太平洋沿岸に分布する通し回遊性の甲殻類。沖縄島を含む琉球列島では河川の下流～上流にかけてほぼ全域に生息する。

【分類】エビ目 オカヤドカリ科
【種名】ナキオカヤドカリ
【学名】Coenobita rugosus
【分布・生態】 県内各地の海岸やその近辺のアダン林で見られる。日本産のオカヤドカリ類の中では最も小型の種である。

【分類】エビ目　イワガニ科
【種名】ニセモクズガニ
【学名】Utica　gracilipes
【分布・生態】 やや大型の種で、甲幅約 35mm になる。河口の積み重なった石の下や、水路の感潮域上部に生息する。

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】ハシリイワガニ
【学名】Metopograpsus messor
【分布・生態】 県内各地の河口や海岸の岩場などにすみ、石の下や岩陰などに隠れている。

【分類】エビ目 オウギガニ科
【種名】ヒメイワオウギガニ
【学名】Eriphia scabricula
【分布・生態】 サンゴ礁でごくふつうに見られる種。表面に短い毛が生えている。昼間、岩の上で海藻などをはさみでもって食べている姿が見られる。体に毒を含んでいるので、さわっても害はないが食べてはいけない。

【分類】エビ目 スナガニ科
【種名】ヒメシオマネキ
【学名】Uca vocans vocans
【分布・生態】 県内各地の河口や干潟、マングローブ林の根元などに穴を掘ってすむ。

浦添市生き物図鑑

甲殻類

【分類】エビ目 スナガニ科
【種名】ヒメヤマトオサガニ
【学名】Macrophthalmus banzai
【分布・生態】 県内各地の河口や干潟などにすむ。白いはさみをバンザイするように動かしているのが見られる。その動作から学名にバンザイ(banzai)という名が付いている。

【分類】エビ目 テナガエビ科
【種名】ヒラテテナガエビ
【学名】Macrobrachium japonicum
【分布・生態】 県内各地の河口から上流域の比較的流れのある場所で見られる。雑食性で、時には共食いも見られる。両側回遊性。

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】ヒルギハシリイワガニ
【学名】Metopograpsus latifrons
【分布・生態】 県内各地の海岸の岩場や河口、マングローブ帯などにすむ。おもに護岸やマングローブ上で活動し、干潟の表面に降りることはあまりない。

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】フタバカクガニ
【学名】Perisesarma bidens
【分布・生態】 県内各地の河口近辺の草むらや土手などに穴を掘ってすんでいる。

【分類】エビ目 スナガニ科
【種名】ベニシオマネキ
【学名】Uca chlorophthalma crassipes
【分布・生態】 県内各地の河口の、やや小石混じりの泥地などに穴を掘ってすむ。甲の色は様々で全体が赤色のものもあれば、青い模様の入ったものまである。

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】ベンケイガニ
【学名】Sesarmops intermedium
【分布・生態】 県内各地の河口近辺の草むらや土手などに穴を掘ってすんでいる。昼間は巣穴近くで活動し、夜になると行動範囲が広くなる。体の色は赤い。

浦添市生き物図鑑

甲殻類

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】ミナミアシハラガニ
【学名】Helice leachi
【分布・生態】 県内各地の河口や河岸などに穴を掘ってすむ。草の生えた泥地などを好む。

【分類】無柄目 クロフジツボ科
【種名】ミナミクロフジツボ
【学名】Tetraclita squamosa
【分布・生態】 直径 2～4cm。黒っぽい殻で、潮間帯の岩の上に普通に見られる種。

【分類】エビ目 スナガニ科
【種名】ミナミスナガニ
【学名】Ocypode cordimana
【分布・生態】 砂浜に穴を掘ってすんでいて、夜になると穴から出て活動する。夜は色素（からだの色のものになるもの）がかわって透明に近くなり、砂浜をすばやく走るので、「ゆうれいガニ」とも呼ばれる。昼間はからだは薄い茶色、または茶色と白のまだら模様。砂浜で、500 円玉くらいの巣穴があったら、たいていはこのカニがすんでいる。

【分類】エビ目 テナガエビ科
【種名】ミナミテナガエビ
【学名】Macrobrachium formosense
【分布・生態】 本州中部から琉球列島、小笠原諸島、台湾の河川に分布する。河川内では比較的流れの緩やかなところに生息する。体長 10cm 内外まで成長するとされている。小さな卵を数多く産むタイプのエビで、孵化した幼生は沿岸域で浮遊生活を送ったあと、河口部にて稚エビになり、成長しながら川を上っていくとされる。通し回遊性

【分類】エビ目 ガザミ科
【種名】ミナミベニツケガニ
【学名】Thalamita crenata
【分布・生態】 県内各地の河口などの汽水域（海水と淡水の混ざった場所）にすみ、泥底や石の下などで見られる。

【分類】エビ目 オカヤドカリ科
【種名】ムラサキオカヤドカリ
【学名】Coenobita purpureus
【分布・生態】 県内各地の海岸や、その近辺の林や山の中で見られる。小型の時にはクリーム色をしているが、大きくなるにつれムラサキ色に変色する。

浦添市生き物図鑑

甲殻類

【分類】エビ目 イワガニ科
【種名】モクズガニ
【学名】Eriocheir japonicus
【分布・生態】 県内各地の川や河口にすんでいるが、産卵期には海まで下る。はさみに長く柔らかい毛の束がある。降河回遊性。

【分類】エビ目 スナガニ科
【種名】ヤエヤマシオマネキ
【学名】Uca dussmieri dussmieri
【分布・生態】 県内各地の河口や干潟、マングローブ林の根元などに穴を掘ってすむ。

【分類】エビ目　スナガニ科
【種名】リュウキュウシオマネキ
【学名】Uca coarctata coarctata
【分布・生態】 沖縄諸島以南の南西諸島に分布する。マングローブ湿地内の泥質干潟に生息する。

【分類】ワラジムシ目 フナムシ科
【種名】リュウキュウフナムシ
【学名】Ligia ryukyuensis
【分布・生態】 体長 30mm。県内各地の桟橋、海岸近くの岩や護岸のブロックのすきまにすんでいる。尻尾のほうについている足に空気をためて、息をする。しかし、水中にあまり長くいると死んでしまうようである。 昼間は岩などに付着している藻類などを食べ、夜は波のあたらない岩の間などで休む。

【分類】エビ目 スナガニ科
【種名】ルリマダラシオマネキ
【学名】Uca tetragnon
【分布・生態】 県内各地の河口や内湾の礫（小石）底に穴を掘ってすむ。甲は美しいコバルトブルーでシオマネキ類の中では最も派手な色をしている。

浦添市生き物図鑑

水生貝類 33 種類

浦添市生き物図鑑

水生貝類

【分類】新腹足目イモガイ科
【種名】アンボイナ
【学名】Gastridium geographus
【分布・生態】 沖縄県内全域の水深 2～20mほどの、岩場や砂地にすんでいる。生きた小魚を矢舌(しぜつ)という、神経毒がこめられた針のようなもので刺し、まひしたえものを丸のみして食べる。 きれいなからを持つため手でつかんだり、砂にもぐっているのを気づかずに踏んだりすると、刺されることがある。猛毒であるため命を落とすこともある非常に危険な貝。

【分類】オキナエビス目(原始腹足目) アマオブネ科
【種名】イガカノコ
【学名】Clithon corona
【分布・生態】 県内各地の河口などの感潮域(海水と淡水の混ざった場所)にすむ。

【分類】オキナエビス目(原始腹足目) アマオブネ科
【種名】イシマキガイ
【学名】Clithon retropictus
【分布・生態】 汽水域から淡水域に生息す巻貝。よく見ると殻の表面に小さな三角形模様が密にありその底辺が黒い。岩に付着する微細な藻類を食べている。

【分類】カキ目 イタボガキ科
【種名】イタボガキ科
【学名】Ostreidae sp.
【分布・生態】 いわゆるカキ類。殻を岩などに石灰化によって固着させている。やや淡水の影響のある栄養の多い河口域などにすむ。

【分類】ニナ目(中腹足目) トウガタカワニナ科
【種名】イボアヤカワニナ
【学名】Tarebia granifera
【分布・生態】 鹿児島本土南部、奄美大島、沖縄本島、石垣島、西表島、与那国島に分布する。生息地には比較的多産するが、各生息地は飛び地的であるとされている。純淡水域から汽水域上部に生息する。卵胎生で、卵は母貝胎内で孵化し、稚貝の状態で産出される。

【分類】盤足目 タマキビ科
【種名】イボタマキビ
【学名】Nodilittorina trochoides
【分布・生態】 岩礁地帯にすむ、厚くてイボのある貝がらで、ごくふつうに見られる種。砂浜に空になった貝がよく落ちている。

浦添市生き物図鑑

水生貝類

【分類】ニナ目（中腹足目） カワザンショウガイ科
【種名】ウスイロオカチグサ
【学名】Paldinassiminea debilis
【分布・生態】 本種は、近畿地方から沖縄諸島にかけて広く分布するが、近畿地方などは国内移入の疑いもある。水田の畦や半乾きの溝、川岸、湿地などの湿潤な場所に棲息する。

【分類】ニナ目（中腹足目） タマキビガイ科
【種名】ウズラタマキビ
【学名】Littoraria scabra
【分布・生態】 県内各地のマングローブの木の上や内湾の岸壁などで見られる。

【分類】ニナ目（中腹足目） ミズゴマツボ科
【種名】オキナワミズゴマツボ
【学名】Stenothyra basiangulata
【分布・生態】 水田など淡水の泥の中に住む。

【分類】オキナエビス目（原始腹足目） アマオブネ科
【種名】カノコガイ
【学名】Clithon sowerbianus
【分布・生態】 県内各地の河口や淡水がしみ出す礫（小石）の多い海岸などにすむ。

【分類】オキナエビス目（原始腹足目） アマオブネ科
【種名】カバクチカノコ
【学名】Neritina pulligera
【分布・生態】 沖縄島、八重山に分布。河川の中・上流域に生息する。沖縄島南部では水質悪化等から生息が認められない。河川規模が大きく、自然度の高い石垣島、西表島の河川では生息数が多い。

【分類】モノアラガイ目（基眼目） カワコザラガイ科
【種名】カワコザラの一種
【学名】Laevapex sp.
【分布・生態】 大きさは3つmくらい、殻は薄く、半透明。河川の淵などに沈んだ落ち葉や水草に付着している。

浦添市生き物図鑑

水生貝類

【分類】ニナ目（中腹足目） カワニナ科
【種名】カワニナ
【学名】Semisulcospira libertina
【分布・生態】 本種は、日本全国の川や水路などに生息する。雌雄異体の卵胎生種である。

【分類】オキナエビス目（原始腹足目） アマオブネ科
【種名】クリグチカノコ
【学名】Neritina squamaepicta
【分布・生態】 沖縄島、八重山に分布。河川の中・上流域に生息する。沖縄島南部の河川では水質悪化等から生息が認められない。河川規模が大きく、自然度の高い石垣島、西表島の河川では生息数が多い。

【分類】嚢舌目 ゴクラクミドリガイ科
【種名】コノハミドリガイ
【学名】Elysia ornata
【分布・生態】 たいへん分布が広い種で、また変異も多い。からだに黒い点々とふちには黒いラインがあるのが特徴。

【分類】モノアラガイ目（基眼目） サカマキガイ科
【種名】サカマキガイ
【学名】Physa acuta
【分布・生態】 本種は、ヨーロッパ原産とされているが、現在日本各地はもとより世界中に分布を拡大している。水田やため池、水路、湿地などの人工的な有機物が多い浅い水域に多産し、汚濁にも強い。

【分類】オキナエビス目（原始腹足目） アマオブネ科
【種名】シマカノコ
【学名】Neritina turrita
【分布・生態】 大きさは1．5cmくらい、高さは2cmくらい。殻の表面にウエーブした白黒の縦縞模様がある。おもにマングローブ林の外縁など潮間帯上部にすむ。

【分類】マルスダレガイ目シジミ科
【種名】 タイワンシジミ
【学名】Corbicula fluminea
【分布・生態】 沖縄県へは、1960 年代に台湾から食用として導入された外来種であると言われている。

【採集・写真提供：浦添高校サイエンス部】

浦添市生き物図鑑

水生貝類

【分類】モノアラガイ目（基眼目） モノアラガイ科
【種名】タイワンモノアラガイ
【学名】Radix seinhoee
【分布・生態】 県内各地の水田や湿地、湧水などでみられる。

【分類】ニナ目（中腹足目） トウガタカワニナ科
【種名】トウガタカワニナ
【学名】Thiara scabra
【分布・生態】 県内各地の河川の中・上流、また海水の影響のある湧水などで見られる。

【分類】オキナエビス目（原始腹足目） アマオブネ科
【種名】ドングリカノコ
【学名】Neritina plumbea
【分布・生態】 県内各地の河口周辺のコンクリート壁や石垣の隙間にすむ。

【分類】ニナ目（中腹足目） トウガタカワニナ科
【種名】ヌノメカワニナ
【学名】Melanoides tuberculatus
【分布・生態】 県内各地の河川中流にすむ。流れのある礫（小石）底を好む。

【分類】オキナエビス目（原始腹足目） アマオブネガイ科
【種名】ハナガスミカノコ
【学名】Clithon chlorostoma
【分布・生態】 殻の大きさは1cmくらい。貝の表面に木目のような脈があり、光沢はない。河川の河口域にある浅瀬の石の裏などにすむ。

【分類】イガイ目 イガイ科
【種名】ヒバリガイモドキ
【学名】Modiolus nipponicus
【分布・生態】 県内各地の内湾の岩場や護岸の隙間などで見られる。

浦添市生き物図鑑

水生貝類

【分類】モノアラガイ目（基眼目） モノアラガイ科
【種名】ヒメモノアラガイ
【学名】Fossaria ollula
【分布・生態】 本種は、日本各地に分布するが、類似した外来種も帰化しているようで、正確な実態は不明である。湖沼や池、流れのほとんど無い水路など、止水域に好んで生息する。

【分類】オキナエビス目（原始腹足目） アマオブネ科
【種名】ヒロクチカノコ
【学名】Neritina violacea
【分布・生態】 県内各地のマングローブ帯や河口湿地の倒木の下などでみられる。

【分類】オキナエビス目（原始腹足目） フネアマガイ科
【種名】フネアマガイ
【学名】Septaria porcellana
【分布・生態】 紀伊半島以南に分布する。河川の汽水域上限からから純淡水域の中・下流域にかけて生息する。殻表は暗緑色の地に淡色の三角模様を散らす。河床、川岸がコンクリート護岸であっても水質汚濁がほとんど無ければまとまった個体数が確認できる傾向がある。

【分類】盤足目 ソデボラ科
【種名】マガキガイ
【学名】Strombus luhuanus
【分布・生態】 低潮線～水深5mほどのアマモ場や水路の岩礫底に生息する。産卵期が沖縄本島では12～2月。方言名テラジャー。

【分類】マルスダレガイ目 マメシジミ科
【種名】マメシジミ属
【学名】Pisidium sp.
【分布・生態】 名前のとおりとても小さいシジミ。

【分類】古腹足目 ミミガイ科
【種名】ミミガイ
【学名】Haliotis asinina
【分布・生態】 岩礁地帯にすみ、海藻などを食べている。貝がらが耳の形をしていて、殻の内側は真珠のような光沢があり、飾りによく用いられる。

浦添市生き物図鑑

水生貝類

【分類】裸鰓目 ヨツスジミノウミウシ科
【種名】ムカデミノウミウシ
【学名】Pteraeolidia ianthina
【分布・生態】 ごくふつうにみられる種。体の中に藻を共生させていて、「みの」の毛のような突起は太陽の光をたくさん受けられるようにできている。

【分類】オキナエビス目（原始腹足目） アマオブネ科
【種名】ムラクモカノコ
【学名】Neritina variegata
【分布・生態】 県内各地の流れのある河川や湧水などにすむ。両側回遊性。

【分類】古腹足目 スカシガイ科
【種名】リュウキュウオトメガサ
【学名】Scutus unguis
【分布・生態】 サンゴ礁の石の下などにすみ、カイメン類などをかじりとって食べている。 生きているときは、貝がらは膜にすっぽりつつまれている。上の写真はまん中の白っぽい部分に少しからがのぞいている。

浦添市生き物図鑑

その他 19 種類

浦添市生き物図鑑

その他

【分類】アカヒトデ目 ホウキボシ科
【種名】アオヒトデ
【学名】Linckia laevigata
【分布・生態】 うでは長いもので 30cmくらいにもなる、とても大きく目立つ種。色は青だけでなく、灰色っぽいものやうすいオレンジ色のものもいる。うでは 5 本。 胃を口から出してえさにおしつけ、体の外で消化して栄養をとるという食べ方をする。岩にかたくくっついている生き物を食べたり、海藻などの表面の栄養だけを得ることができる。

【分類】イシサンゴ目 ビワガライシ科
【種名】アザミサンゴ
【学名】Galaxea fascicularis
【分布・生態】 サンゴ個体のひとつひとつは、お花のように、とがった隔壁がたくさん突き出ている。岩などに固着していて、沖縄ではふつうにみられる。

【分類】アカヒトデ目 ホウキボシ科
【種名】アミメジュズベリヒトデ
【学名】Fromia indica
【分布・生態】 うでの長さは 3cmくらい。体はきれいな星型で、うでに丸い板のようなものがタテに 2 列ならんでいるのが特徴。胃を口から出してえさにおしつけ、体の外で消化して栄養をとるという食べ方をする。岩にかたくくっついている生き物を食べたり、海藻などの表面の栄養だけを得ることができる。

【分類】イソギンチャク目 ウメボシイソギンチャク科
【種名】ウメボシイソギンチャク科の一種
【学名】Actiniidae sp.
【分布・生態】 潮間帯～水深 1m のところに生息。体は滑らかで赤く、直径 4cm まで成長する。触手をすぼめて丸くなった姿は梅干のよう。口から小さなイソギンチャクを産む。

【分類】オオイシソウ目 オオイシソウ科
【種名】オオイシソウ
【学名】Compsopogon coerulens
【分布・生態】 県内では沖縄島、石垣島、与那国島に、県外では北海道、福島県、群馬県、関東以南、四国、九州に分布。淡水産で、体はひも状、色は暗藍緑色、主軸の太ささは 1mm、長さは 30cm～40cm くらい。湧水井戸の中や、流れのあるきれいな河川に生育している。

【分類】カギケノリ目 カギケノリ科
【種名】カギケノリ
【学名】Asparagopsis taxiformis
【分布・生態】 からだは海底をはう茎と直立する茎からなる。手触りは柔らかく毛のようで、茎はこりこりした感触がある。

浦添市生き物図鑑

その他

【分類】イシサンゴ目 キクメイシ科
【種名】キクメイシ属
【学名】Favia sp.
【分布・生態】 イノーや浅瀬にすんでいる。ふつう、岩などに固着していて、大きな塊状の大群体もみられる。

【分類】イシサンゴ目 オオトゲサンゴ科
【種名】ダイノウサンゴ属
【学名】Symphyllia sp.
【分布・生態】 ノウサンゴ属と名前は近いようだが、科が違う。岩などに固着していて、ドーム型の群体になる。幅の広い谷が表面をうねっている。昼間は触手を開かず、夜に活動する。

【分類】スギノリ目 ミリン科
【種名】トサカノリ
【学名】Meristotheca papulosa
【分布・生態】 手触りはこりこりした感じで、弾力がある。刺身のつまやサラダの材料として食べられる。

【分類】ガンガゼ目 ガンガゼ科
【種名】トックリガンガゼモドキ
【学名】Echinothrix calamaris
【分布・生態】 太さのちがう2種類のとげを持ち、長いほうのとげは長さ15cmくらい。とげは白黒のしまもよう(成長するとしまもようは消える)。サンゴ礁の浅瀬にすみ、海草などを食べる。短いほうのとげは刺さりやすく、毒があるので注意が必

【分類】棘皮動物門 ナマコ綱 樹手目 クロナマコ科
【種名】ニセクロナマコ
【学名】Holothuria leucospilota
【分布・生態】 体長20～30cm。黒くて円筒形のとてもやわらかい体をしている。さわると糸のようなものを出す。岩礁地帯に普通に見られる種。

【分類】イシサンゴ目 キクメイシ科
【種名】ノウサンゴ属
【学名】Platygyra sp.
【分布・生態】 ダイノウサンゴ属と名前は近いようだが、科が違う。岩などに固着していて、塊状や葉状の群体になる。軸柱という、のこぎりの歯のようなもようが連続的に迷路のようにはりめぐらされている。昼間は触手を開かず、夜に活動する。

浦添市生き物図鑑

その他

【分類】吻蛭目 グロシフォニ科
【種名】ハバヒロビル
【学名】Glossiphonia lata
【分布・生態】 河川、湖、池、沼などの枯木や石の下、水草の下などに比較的普通に見られる。グロシフォニ科の種は貝類の体液を吸うものが多い。

【分類】イシサンゴ目 ハマサンゴ科
【種名】ハマサンゴ属
【学名】Porites sp.
【分布・生態】 イノーや浅瀬にすんでいる。ふつう、岩などに固着していて、大きな塊状の大群体もよくみられる。

【分類】オモダカ目 ヒルムシロ科
【種名】ベニアマモ
【学名】Cymodocea rotundata
【分布・生態】 砂の中をのびる茎から細長い葉が立ち上がっている。ウミガメ類の餌となる。

【分類】ミドリゲ目 マガタマモ科
【種名】マガタマモ
【学名】Boergesenia forbesii
【分布・生態】 からだは水滴形でややカーブしている。内部には液体がつまっていて、手触りはやわらかくぶよぶよしている。

【分類】イシサンゴ目 ミドリイシ科
【種名】ミドリイシ属
【学名】Acropora sp.
【分布・生態】 イノーの砂地にすんでいる。ふつう、岩などに固着していて、水深の浅いところでは枝状、指状などというように、木の枝のように分岐しているものが多い。少し深くなると、テーブル状の大きな群体も出てくる。

【分類】ヒバマタ目 ホンダワラ科
【種名】ラッパモク
【学名】Turbinaria ornata
【分布・生態】 葉は円柱状で、その周辺にラッパ状の葉が出る。葉のへりには強いトゲがあり、手触りはかたくごつごつする。

浦添市生き物図鑑

その他

【分類】ルソンヒトデ目 ルソンヒトデ科
【種名】ルソンヒトデ
【学名】Echinaster luzonicus
【分布・生態】うでの長さは 10cmくらいで、うでは 4～7 本。色は赤からこい茶色のものまでいる。うでを 1 本自分で切り、切られたうでから数本の小さいうでが生えてきて成長し、なかまをふやしている。 胃を口から出してえさにおしつけ、体の外で消化して栄養をとるという食べ方をする。岩にかたくくっついている生き物を食べたり、海藻などの表面の栄養だけを得ることができる。

浦添市環境マップ(冊子版)

【発行日】　2016 年(平成 28 年) 3 月

【発　日】　浦添市市民部　環境保全課

〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶一丁目1番1号

TEL 098-876-1234(代表)　FAX 098-876-9467

mail:envseisaku@city.urasoe.lg.jp

【監修】　株式会社イーエーシー

【編集・印刷】　沖縄高速印刷株式会社

この印刷物は、浦添市のホームページにある「浦添市環境マップ」の一部を編集し印刷しています。